

目黒区美術館年報 平成15・16・17年度

目黒区美術館年報
平成15・16・17年度

目次

I. 展覧会

【平成15年度】	○第40回記念朝日陶芸展	4
	○立方体の7つの窓 ペア・クラークの世界展	7
	○聖母子と子どもたち	11
	○絵と言葉Ⅱ 画家たちへの讃歌：1930-60年代のパリ	14
	○目黒区の美術・書 2003	19
	○めぐろの子どもたち展	26
	○目黒区美術館所蔵作品展〈でいてーるノ誘惑〉	27
	○建築家・村野藤吾のディテール〈旧千代田生命本社ビル写真/図面〉展	28
【平成16年度】	○小林孝亘展-終わらない夏	32
	○色の博物誌・黄 地の力&空(くう)の光	36
	○日本近代洋画への道-山岡コレクションを中心に-	39
	○目黒区の美術 2004	45
	○めぐろの子どもたち展	51
	○所蔵作品展XVIII「川村清雄」を知っていますか? 初公開・加島コレクション展	52
【平成17年度】	○目黒不動尊の近代美術 書家・豊道春海と彫刻家・後藤良~伝統と近代の相克	57
	○目黒区美術館コレクション展-新収蔵品を中心に-	75
	○アートオブ スター・ウォーズ エピソード3展	78
	○チャールズ&レイ・イームズ-創造の遺産	79
	○めぐろの子どもたち展	85
	○村田朋泰展-俺の路・東京モンタージュ	86

II. 教育普及事業

(1) ワークショップ活動	91	
【平成15年度】	①絵画と色~古典技法をめぐる旅	91
	②2004年夏「色の博物誌・黄」展企画 プレ・ワークショップ	92
	③建築教室Ⅲ	93
【平成16年度】	①小林孝亘展-終わらない夏	94
	②色の博物誌・黄-地の力&空(くう)の光	94
	③日本近代洋画への道-山岡コレクションを中心に-	96
	④春のワークショップ2005	96
【平成17年度】	①夏のワークショップ「美術館を楽しもう！」	97
	②チャールズ&レイ・イームズ-創造の遺産	98
	③村田朋泰展-俺の路・東京モンタージュ	99
	④春のワークショップ2006	99
(2) アウトリーチ	100	
(3) こどもサポートプラン	101	
(4) ギャラリーツアー (小学校の授業と連携)	103	

III. 入館状況	105
IV. 作品等貸出	108
V. 刊行	111
VI. 区民ギャラリー	112
VII. ボランティア	118
VIII. 美術館実習	120
IX. 施設	121
X. 沿革	122
XI. 案内	123

I. 展覧会

[平成15年度]

第40回記念朝日陶芸展

会期：2003年4月19日(土)～6月15日(日) (50日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館、朝日新聞社

担当学芸員：家村珠代

1963年に創設された朝日陶芸展は、本展で40回を迎えた。前回は71点上回る659点の応募作品の中から第40回記念特別賞を含む入賞11点、入選99点が選ばれ、磨き抜かれた伝統の技と創造性に富むオブジェ、やきものへの大胆な挑戦と実験的な試みなど、若手からベテランまで、気鋭の作家たちによる作品を展示した。

前回と同様に「見る」だけでなく「さわれる」こともできる作品を設定し、好評を得た。

●カタログ

寸法：29.6×21.0cm

ページ数：88ページ

内容：ごあいさつ(主催者)／第40回記念朝日陶芸展の審査を終えて(審査委員長 坪井明日香)／審査風景／審査所感／入賞作品／入選作品／第40回記念朝日陶芸展座談会(加藤清之・坪井明日香・鈴木蔵・栗木達介)／第1回「朝日陶芸展」新聞掲載記事／入賞・入選者リスト／応募者プロフィール／歴代入選者・審査委員一覧／歴代グランプリ受賞作品

●ポスター

サイズ：B3

●チラシ

サイズ：A4

●主要関連記事

- ・「土輝く質感 第40回朝日陶芸展」朝日新聞(夕刊) 2003年4月14日
- ・「触れて味わう陶芸作家作品」朝日新聞(朝刊) 2003年5月30日



会場風景

ポスター

出品リスト

No.	作品名	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	氏名
1	(グランプリ) 溝	20×90×60	泉田之也
2	(第40回記念特別賞) cutting outシリーズより かなたへと向かっていくかたち-Ⅱ	25×40×109後 25×50.5×57前	金 正逸
3	(秀作賞) ハイコスト!!パフォーマンスカー	50×86×186	岡部元信
4	(秀作賞) Yellow Vessel II	26×92×63	池田八栄子
5	(秀作賞) 果臚コレクター	10×80×66	柴田菜月
6	(川崎記念賞) 黒釉青彩鉢	13×55.5×55.5	多賀井正夫
7	(奨励賞) untitled-01	120×65×30	高 蕪瑛
8	(奨励賞) 備前大盆	4.5×62×62	太田冬亀
9	(奨励賞) composition 02	14×120×120	青木 拳
10	(奨励賞) SUKESAN・KAKUSAN	43×87×160	松本頼明
11	(奨励賞) amputate	30×150×70	浦西健司
12	極光「夜明けの宙に」	19×23×20	中野 拓
13	カオス	73.5×20×22.5	永吉圭介
14	芽ぐむ	48×70×60	大島久美
15	在ること	22×65×180	永塚夕貴
16	作品02	122×44×36	大竹 直
17	ギター	60×50×20	津守愛香
18	地球からの贈り物	25×80×50	五十嵐トシ子
19	甲	25×120×80	太田健太郎
20	Lost ages	20×70×50	仲谷佳子
21	うつろう形象	60×60×43	吉村敏治
22	フラジャイル (fragile)	51.5×41×15.5	阿奴
23	草原	65×100×70	吉村百恵
24	心の波	80×160×30	久田松さつき
25	編みつくり器01-7	5×100×100	大谷江一
26	青の放斜	80×105×45	中田博士
27	エメエメボウル	18×25×100	小平健一
28	non di molto particolare	20×100×50	太宰久美子
29	連作 ノアの方舟	30×16×100	嶋田敏生
30	机上のフォルム	127×61×61	柴田真理子
31	金茶釉七角皿	33×63×50	渡邊朝子
32	LANDSCAPE II	95×95×25	小野恭裕
33	WHITE RIVER	22×150×39	木村辰夫
34	風洞	26×63×32	上村順次郎
35	風のドーム	57×58×33	山内紅子
36	そして彼らは海に向った	40×100×190	李 政錫
37	鉄ノ陶ノ器	10×100×20	今泉 毅
38	-古今-	21×66×16	渡辺正明
39	"White Seed"	43×40×40	佐藤輝子
40	山笑ふ	27×45×43	塚田光弘
41	線描壺	45×42×32	荒山浩文
42	受ける=蓋う	12×90×60	飯干祐美子
43	初めてに...	30×45×110	李 恩実
44	金銅白金彩幾何文五角平鉢	15×64.5×62.5	小山耕一
45	染付アメリカ大薊大皿	11×53×53	今西方哉
46	黄雲	43×43×43	中島友之
47	彩泥象嵌線文器	48.5×33×16	羽鳥恵子
48	彩色紋様つぼ	36.5×40×40	野中さだ子
49	タイム・トンネル	67×45×23	原 裕子
50	待つ	9×120×120	米田恭子
51	釉描加彩山葡萄図大壺	29.4×32.8×32.8	橋詰正英
52	Spiral	22×150×50	橋本博子
53	風の記憶	15×120×15	安斉ひさし
54	SOKU BAKU	80×90×90	松澤恵美子
55	白磁花瓶	42×46.5×46.5	奥川俊右衛門

No.	作品名	寸法 (高さ×幅×奥行cm)	氏名
56	ペルソナ-夜明け前-	127×42×42	ジェームズ・マクロースキー
57	「時の化石」	14×70×70	高木彩子
58	HOLE	83×80×16	金子信彦
59	未来へ	30×62×62	松尾道代
60	わだつみ	11.5×53×53	橋川充雄
61	染付烏瓜紋組皿 (絵変わり)	4.5×85.5×85.5	吉岡 順
62	Water-IX	20×80×80	酒井 薫
63	飛紅釉鉢	11.5×61.5×61.5	古野勢兒
64	"Hojas caidas" - 落葉 -	6×34×24	ヘスアルド・フェルナンデス・プラボ
65	内にあるもの	25×90×34	松沢みちこ
66	秘色変光釉彩更紗文鉢	10.5×49.5×49.5	西山 勇
67	The structure of Form-2002-	20×28×28	今田陽子
68	六つ目紋角大皿	5.5×39×39	吉川光太郎
69	Zi	4.5×170×45	天田 毅
70	彩釉鉢「水」	9×46×46	田島正仁
71	ぐんぐん群	50×18×400	日比野靖
72	悠韻	56×61×18	宮島正志
73	菖彩泥六面花器	32×40.5×38.5	末次観節
74	TAKENOKO	55×280×40	餘吾ひろこ
75	何処	132×64.5×24.7	安士 真
76	余韻	24×103×36	佐保川晶子
77	H.D	60×45×230	秋永邦洋
78	夢のカケラ	4×160×160	河見美左子
79	足台 (思)	96×96×42	川端健太郎
80	人が歩む道	40×60×540	長谷川泰子
81	STRUCTURE	219×46×46	八田 亨
82	DIMPLE	44×75×180	寺脇三貴
83	外光	216×95×95	松本圭嗣
84	紙? 紙!!!	3×90×90	李 徳實
85	public telephone	30×126×126	鈴木雄一郎
86	聖槍	31×567×13	高阪栄作
87	ときめきⅦ	46×105×4	高田美智子
88	TIME・MEMORY・GREEN	12×100×46	谷口勇三
89	U・TSU・WA	20×170×130	清水 香
90	ユニセックス	120×80×80	白木景子
91	てのひらの想像-2-	80×70×60	森元知里
92	EGO	40×40×90	綿引恒平
93	東の扉	200×120×50	岸上秀一
94	Landscape	45×220×38	鍛冶ゆう子
95	齧く〇〇-Breakable Line-	20×200×40	正木 直
96	晩秋	10×41×41	渡辺 陸
97	密から成る個・個からなる密	40×40×45	大熊裕唯子
98	Address	50×144×180	渡辺志野
99	ザクローンピープル	10×128×138	福田圭吉
100	心の中の形	15×60×50	多田誠三
101	破動	106×36×19	南部次郎
102	遺跡「20XX」- II	76×93×44	村越昭夫
103	PEACE	11×140×85	丹羽 斌
104	創造	112×150×53	立花嘉乃
105	DESTROY	17×99×80	富田真理子
106	侍魂	29×118×38	松下龍介
107	痕跡-時の力Ⅲ-	40×60×150	北村信樹
108	核 (K.A.K.U)	60×60×60	岩淵幸治
109	天-地	20×150×34	今田 香
110	青瓷組鉢 "貝のイメージ"	9×150×55	伊東祐一

立方体の7つの窓 ペア・クラークセンの世界展

会期：2003年5月7日(水)～5月18日(日)(11日間)

会場：目黒区美術館区民ギャラリー

主催：目黒区美術館

特別協力：女子美術大学、武蔵野美術大学

展示協力：(株)東京スタジオ

後援：東京ドイツ文化センター

企画協力：アトリエニキティキ、Naef Spiele AG

担当学芸員：降旗千賀子

ペア・クラークセン(1983-)はドイツ出身の立体造形作家。優れた木製玩具で定評のあるスイス、ネフ社において《Cubicus》1968年、《Diamant》1981年、《Cella》1979年など“立方体の分割”をテーマに美しい構成積み木を数多くデザインしてきた。当館ではその主要な立体を数多くトイ・コレクションとして所蔵している。

本展では、これまでのクラークセンの仕事を振り返り、触って遊べる展示、そして初来日記念講演会でその魅力を紹介した。

●関連催事

来日記念講演会

日時：2003年5月11日(日) 午後2時～4時

会場：目黒区民センターホール

●カタログ

寸法：21.0×29.7cm

ページ数：12ページ

内容：立方体の7つの窓(ペア・クラークセン) / ペア・クラークセン日本訪問に寄せて(クルト・ネフ) / Q&A / “OBJEUX”の目地(赤沼國勝) / 新たなファンタジイを触発するかたち(及部克人) / ペア・クラークセンの世界(降旗千賀子) / ペア・クラークセン略歴 / 出品リスト

●ポスター

サイズ：B2

デザイン：大森裕二

●チラシ

サイズ：A4

デザイン：大森裕二



ポスター

出品リスト

出品リストは、1. ネフ社作品、2. ペア・クラーセン所蔵の作品、3. 言葉・文字の作品、4. その他の順で配列。各データは、出品番号、資料名、製品化、デザインされた年がわかるものは()内に記載、寸法・タテ×ヨコ×タカサ/オクユキ (cm)、部品数、主な素材の順 (ジッポはチークに似た堅木)。所蔵：記載がないものはアトリエ・ニキティキ蔵。クラーセン所蔵は▲で表した。特に説明が必要な場合は*を付した。

1. ネフ社作品

1 3-D Mühle 1967 (1954) 30×30×30 金属棒、樹脂の球 (コマ) 36個	8 Bi-Bi 1970 (1970) 10×10 1個 木 (カエデ) *幼児用	-4 Esszimmer (食堂セット) 箱14×7.5×12.5 8個
2 Cubicus 1968 (1965) 10×10×10 10個 木 (カエデ) -1 初期モデル▲ -2 現在生産されているタイプ -3 生産25周年記念版 (限定500) *1993年Teunen&Teunen社から商品化 -4 生産25周年記念版セット (限定100) 30.5×30.5×12.5 39個 *1993年Teunen&Teunen社から商品化 Cubicus 3個と石、木箱入り	9 Circum 1970 (1970) 12.5×12.5×2.5 1個 木 (カエデ)、樹脂、金属の球	-5 Bad (浴室セット) 箱10×7.5×12.5 4個
3 Conus 1 1969 (1968) 5×5×7~9 6個 木 (カエデ)	10 Corona 1970 (1970) 12.5×12.5×2.5 1個 木 (カエデ)、樹脂、金属の球	18 Dolio 1972 (1970) 11.5×3.5 1個 木 (カエデ) *幼児用
4 Primo 1 1969 (1964) 5×5×5 9個 木 (カエデ)	11 Nona 1970 (1970) 12.5×12.5×2.5 1個 木 (カエデ)、樹脂、金属の球	19 Duo 1972 (1969) 10×2.5 1個 木 (カエデ) *幼児用
5 Prisma 1969 (1963) 5×5×5 38個 木 (ブナ)	12 Angular 1970 (1965) 22.5×22.5×2.5 9個 木 (カエデ)	20 Pari 1972 (1969) 8×8×8 1個 木 (カエデ) *幼児用
6 Quadra 1969 (1963) 5×5×5 38個 木 (ブナ)	13 Carree 1 1971 (1968) 10×10×5 16個 木 (カエデ)	21 Tria 1 1972 (1969) 21×21×5.5 48+箱1個 木 (ブナ)
7 Ordino 1970 (1969) 8×2 18個 木 (カエデ)	14 Ordo 1971 (1967) 6×6×6 66+箱1個 木 (カエデ)	22 Binom 1972 (1971) 5×5×5 12個 木 (ブナ)
	15 Ubi 1972 (1970) 11.5×5 1個 木 (カエデ)	23 Hexagon 2 1972 (1966) 10×7.5 7+箱1個 金属 (ナット)
	16 Drehbares etagen-puppenhaus 1972 (1962) 40×40×16 7+5個 木 *人形の家 1階+2階	24 Arcus 1973 (1972) 10×10×10 12個 木 (カエデ)
	17 Puppen moebel 1972 (1964) 木 (カエデ) *人形の家 家具 -1 Schlafzimmer (寝室セット) 箱21.5×7.5×12.5 10個 -2 Wohnzimmer (居間セット) 箱14×7.5×12.5 6個 -3 Kueche (台所セット) 箱21.5×7.5×12.5 9個	25 Fluc 1973 (1972) 12.5×12.5×2.5 1個 木 (カエデ)、樹脂、紙
		26 Gym 1974 (1972) 14×14×2.5 1個 木 (ブナ)
		27 Pan Tao 1974 (1972) 13.5×13.5×3.3 1個 木 (ジッポ)、樹脂

28
Plura
1974 (1969) 28.5×14.5 1個
木 (ナシ)、樹脂

29
Pac
1974 (1972) 13.5×13.5×3.3 1個
木 (ナシ)、樹脂

30
Bola
1976 (1973) 5×5×5 1個
木

31
Sorto
1976 (1976) 12×12×3.5 1個
木 (カエデ)、樹脂

32
Tinni
1976 (1976) 6×6 1個
木 (ナシ)、ひも *幼児用

33
Ixs
1976 (75) 13.5×13.5×3.5 8個
木 (ブナ)

34
Objeux シリーズ
1976 木 (ジッポほか)
-1 Objeux Maxi-cubics
16×16×16 10個
-2 Objeux Maxi-sin
16×15×16 1個
-3 Objeux Maxi-pac
20.5×16×21.5 1個
-4 Objeux Maxi-pantao
31×7.5×31 1個
-5 Objeux Maxi-status
32.2×8×32 8個
-6 Objeux Maxi-orbis
22×15×16 1個

35
Luna
1977 (1971) 7×2.5 1個
木 (カエデ・ナシ) *幼児用

36
Stella
1977 (1971) 8×3.7 1個
木 (カエデ) *幼児用

37
Combiono
1978 (1977) 7.5×7.5×7.5 6個
木 (ブナ)

38
Cella
1980 (1967) 10×10×10 9個
木 (カエデ)

39
Dila
1980 (1979) 6×6×6 1個
木 (カエデ)、ゴム

40
Frutti
1980 (1975) 18.5×13.5×1 1個
木 (カエデ)、樹脂

41
Diamant
1981 (1966) 14.5×14.5×10 15個
木 (カエデ/ジッポ)

42
Torus
1981 (1980) 5.5×7.7×6 1個
木 (カエデ)

43
Tubus
1981 (1980) 15×15×15 3個
木 (ブナ)

44
Rhombus 3
1982 (1967) 24×24×2.5 12個
木 (ブナ)

45
Sin
1982 (1975) 6×6 1個
木 (カエデ)

46
Finger-Jim
1982 (1981) 8×2.4 1個
木 *幼児用

47
Samo
1983 (1981) 7×3 1個
木 (カエデ) *幼児用

48
Turris
1983 (1972) 15.5×6.5×6.5 9個
木 (ブナ)

49
Primo 2
1984 (1969) 5×5×5 1個
木 (カエデ)

50
Oktasom
1984 (1971) 10×20×0.5 1個
木、布

51
Arcubus
1985 (1965) 10×10×10 9個
木 (カエデ)

52
Diagon
1987 (1971) 38 1個
木 (カエデ)、ゴム

53
Carree 2
1989 (1967) 10×10×5 10個
木 (カエデ)

54
Tria 2
1989 (1979) 10×10×10 12個
木 (カエデ)

55
Plenus
1992 (1976) 12.5×12.5×5.8 21+3個
木

2. ペア・クラーセン所蔵の作品、試作など

56
Magic Box
1971 箱24.5×12.5×6 12個
プラスチック
*USA Creative Playthings社で生産

57
Pan-tao アイディア模型
13.5×13.5×3 1個
木 ▲

58
Plura 1
16×16×12 1個
木 ▲

59
Plura 2
16×16×12 1個
木 ▲

60
Plenusアイデア模型
12.5×6×12.5 22個
木 ▲

61
Plenus
12.5×6×12.5 22個
木 ▲
*単色モデル 赤、青、緑、黄色

62
Scheiben Kegel
13×12×13 11個
木 ▲
*円錐状に積み上げる円盤の構成

63
Stufen Kegel ▲
12×13×12 12個
木
*円錐状に積み上げる中空円盤の構成

64
Geo-Kin 試作
17.5×1.5×17.5 2個
金属 ▲

65
Duo-Oktasom
28.5×0.3×42 1個
木、布 ▲

66
3-Form-Kette (epual one)
37×2×37 1個
木 ▲
*三角、丸、四角、三つの形のチェーン

67
Diamantアイデア模型
12×12×19 15個
木 ▲

68
3-D Mühle-Kugel▲ (gr.)
Prototyp (試作)
11.5×11.5×11.5 1個
*3-D Mühleの樹脂製“球”の試作

69
Ikosaeder-Ketteアイデア模型
10×12×10 1個
*正20面体を分解しつなげた、紙によるアイデア模型

70
Pflaster Stein (Zuerich)
10×8×10 2個
*1968年に拾ったチューリッヒRindermarkt17番地の敷石。カバン入り。

71
Stein-Rell (schopfheim)
14×3×6 1個
*ショップハイムで採集した石の遺物ショップハイム ▲

72
Pflaster Stein Geschnuert
5.5×6×6.5 1個
敷石 赤い紐 ▲

73
Oktaeder Fluorit
8.5×8.5×8.5 1個
八面体のホタル石 ▲

74
Holz Würfel (weisser) ▲
6×6×6 1個
*木の立方体 (白)

75
Glas Kugel (gr.) ▲
7×7×7 1個
ガラスの球 (大)

76
3-D Mühle-Kugel Holz ▲
1963 2.8×2.8×2.8 36個
木

77
Email Tafeltext ホーロー文字板
30×1.5×30 1個
ホーロー板 ▲

78
“Haiku” 21点
2003 29.6×21 (A4)

79
“WORT ORT WO” ポスター
1971 67.8×47.7
*WORT (言葉), ORT (場所), WO (どこに)

4. その他

80
個展ポスター 〈Spielzeug und wortsachen〉
1969 43×37.8
* Wohnbedarf社 (チューリッヒ/スイス)での個展のためのポスター (オリジナルデザイン)

81
Cubicus生産25周年記念版 ポスター
1993 59.2×41.8
* Teunen & Teunen社の限定100のボックスセットのためのポスター (オリジナルデザイン)

82
論文『数理幾何学的「多面体連鎖における多面体のトランスフォーメーション」の発見』
1970 24×17 8ページ (自筆文献)

83
NAEF社の展覧会用パンフレット 〈Spiel als Beispiel〉
1982 21×14.8 16ページ
* 1982-1983年リーエン博物館 (バーセル/スイス)
(デザイン構成監修)

84
[Die Balance] アーティストブック
1991 19×14.2 60ページ
* デザイナーやアーティストがバランス(T)をテーマに掲載 (Tをテーマとした作品掲載)

85
MERTENS社100周年記念書籍
1995 箱21.5×21.5×3
* 食についてのクラーセン自筆原稿

86
Buecher [Die Realisation eines neuen Museumstyps:Die Neue Sammlung] ▲
19.5×27.5×3.5
本 (作品3-Dミューレ掲載)

87
Buecher [Industrial Design Unikate Serien-erzeugnisse:Die Neue Sammlung] ▲
23×30.5×4.5
本 (作品キュービックス/3-Dミューレ掲載)

聖母子と子どもたち

会期：平成15年7月19日(土)～9月7日(日)(44日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

後援：ポーランド共和国大使館、財団法人目黒区国際交流協会、目黒ユネスコ協会

協力：Lufthansa、Lufthansa Cargo

企画協力：(株)ホワイトインターナショナル

担当学芸員：山田敦雄

巡回スケジュール：2002年 7月13日～ 9月 1日 釧路市立美術館

2002年 9月10日～10月27日 北海道立函館美術館

2002年11月22日～12月15日 そごう美術館

2003年 4月 3日～ 4月15日 大丸ミュージアム・心齋橋

2003年 4月20日～ 5月18日 天童市美術館

2003年 6月 6日～ 7月13日 北九州市立美術館

キリスト以後、もっとも多く肖像画に描かれた聖書中の人物、聖母マリア。

新約聖書のさまざまな場面で、幼いキリストとともに聖母子像として、長い間、ヨーロッパの絵画の中で、母と子の永遠の姿は繰り返し描かれ、無数の作品が残されてきた。

この展覧会では、キリスト教的な図像の世界が紡ぎ出してきた母と子の豊饒なイメージを出発点に、ヨーロッパで長い時間をかけ熟成された絵画の世界、その魅力を紹介した。

●関連催事

*チェンバロで奏でるバロック音楽

7月19日(土)午後3時～4時45分

チェンバロ独奏=佐々木千誉子

*名画にちなんだピアノ名曲集

8月1日(金)・2日(土)午後3時～4時45分

ピアノ独奏=佐々木絵里子

●同時開催：ワークショップ・絵と色 - 古典技法をめぐる旅 -

●カタログ

寸法：22.4×28cm

ページ数：155ページ

内容：ごあいさつ／はじめに／Introduction／「聖母子と子供たち展」について／Madonna and Children／西ヨーロッパ美術の展開－聖母マリア像の変遷を通じて／The Development of Westan European Art－an Overview Looking at Painting of The Madonna／カタログ／作品リスト

●ポスター

サイズ：B2

●チラシ

サイズ：A4



ポスター

作品リスト

出品番号	作家名・作家名欧文表記(生没年)	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)
1	アルブレヒト・デューラー Albrecht Durer(1471-1528)	聖アンナと聖母子	1523	油彩、板	75.0×64.5
2	マビューズ(本名ヤン・ホッサールト) Jan Gossaert called Mabuse(c.1478-1532)	聖母	未詳	油彩、板	46.0×38.0
3	ジョヴァンニ・アントニオ・ソリアーニ Giovanni Antonio Sogliani(1492-1544)	聖家族と聖カタリナ	1535	油彩、カンヴァス	130.8×111.7
4	ルーカス・クラナハ(子) Lucas Cranach the younger(1515-1586)	聖母子	未詳	油彩、板	80.0×54.6
5	ニコラ・ヌーシャテル Nicolas Neufchatel(c.1527-c.1590)	皇女アンナの肖像	1567	油彩、カンヴァス	67.0×49.5
6	ピエール・デュモンティエ Pierre Dumonstier(c.1540-c.1625)	フランス国王アンリ4世の子供時代	未詳	油彩、板	35.5×28.0
7	アニーバレ・カルラッチ Annibale Carracci(1560-1609)	聖母子	1587	油彩、カンヴァス	63.0×50.6
8	ヨーゼフ・ハイントツ(父) Joseph Heintz the Elder(1564-1609)	聖カタリナの神秘的結婚	未詳	油彩、板	84.0×61.0
9	グイード・レーニ Guido Reni(1575-1642)	聖家族-エジプトへの逃避途上の休息	1637	油彩、カンヴァス	163.0×134.5
10	ピーテル・パウル・ルーベンス Pieter Paul Rubens(1577-1640)	授乳の聖母と子	未詳	油彩、板	57.8×48.3
11	アレッサンドロ・ティアリーニ Alessandro Tiarini(1577-1668)	聖家族と聖リサベツ、洗礼者聖ヨハネ、天使	未詳	油彩、カンヴァス	98.0×128.0
12	フランチェスコ・ジュッシ Francesco Gessi(1588-1649)	カリタス-愛徳	未詳	油彩、板	73.6×98.2
13	コルネリス・ファン・ブレンビュルフ Cornelis Van Poelenburch(1594/95-1667)	愛の炎	未詳	油彩、板	40.0×30.0
14	コルネリス・シュート Cornelis Schut(1597-1655)	東方三博士の礼拝	1652	油彩、カンヴァス	127.0×182.0
15	アンソニー・ヴァン・ダイク Anthony van Dyck(1599-1641)	エジプトへの逃避途上の休息	不詳	油彩、カンヴァス	126.0×155.0
16	サッソフェラート(本名ジョヴァンニ・バッティスタ・サルヴィ) Giovanni Battista Salvi called Sassoferrato(1609-1685)	聖母子	不詳	油彩、カンヴァス	137.0×86.5
17	ヤン・メイテンス Jan Mytens(c.1614-1670)	ディアナに扮する少女	1666	油彩、カンヴァス	99.0×76.0
18	セバスティアン・ブルドン Sebastien Bourdon(1616-1671)	聖家族	1638頃	油彩、カンヴァス	53.1×41.0
19	バルトローメ・エステバン・ムリーヨ Bartolome Esteban Murillo(1618-1682)	聖母子	不詳	油彩、カンヴァス	119.5×84.5
20	ヤン・フィクトールス Jan Victors(1619-1676以後)	ザレブタの寡婦とエリヤ	不詳	油彩、カンヴァス	103.0×111.0
21	カルロ・マラッティ Carlo Maratti(1625-1713), ジュゼッペ・バルトロメオ・キアリ Giuseppe Bartolomeo Chiari(1654-c.1727)	聖母子と聖カタリナと天使たち	不詳	油彩、カンヴァス	120.0×98.5
22	ドメニコ・ピオーラ(父) Domenico Piola the Elder(1627-1703)	聖家族	1657	油彩、カンヴァス	99.0×73.0
23	ニコラス・マース Nicolaes Maes(1634-1693)	ヴェステラのサイク家の肖像	1664	油彩、カンヴァス	95.5×169.0
24	シモン・ペーテルスゾーン・フェレルスト Simon Pietersz Verelst(1644-1721)	羊飼いの服装をする若い婦人	不詳	油彩、カンヴァス	76.0×63.5
25	ジャン=フランソワ・ド・トロワ Jean-François de Troy(1679-1752)	ユズル公爵夫人とキューピッドに扮する息子	不詳	油彩、カンヴァス	58.5×46.5
26	ジャン=マルク・ナティエ Jean-Marc Natter(1685-1766)	花の神フローラに扮する女性	1753	油彩、カンヴァス	128.0×96.0
27	ジャン=バティスト・マリー=ピエール Jean-Baptiste Marie Pierre(1714-1789)	若い羊飼いの	未詳	油彩、カンヴァス	63.5×121.0
28	ジャン=バティスト・グルーズ Jean-Baptiste Greuze(1725-1805)	少女の肖像	未詳	油彩、カンヴァス	32.0×28.0
29	フランソワ=ユベール・ドルーエ François-Hubert Drouais(1727-1775)	幼少時のペリー公とプロヴァンス伯爵	1757	油彩、板	67.0×88.5
30	アンゲリーカ・カウフマン Angelika Kauffmann(1741-1807)	聖家族と天使	不詳	油彩、カンヴァス	27.0×23.0
31	ルイ=ロラン・トランケス Louis-Rolland Trinquesse(1745-c.1800)	花を持つ若い女性	1785	油彩、カンヴァス	73.0×61.5
32	フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ=イルシユンテス Francisco José de Goya y Lucientes(1746-1828)	水を運ぶ女性	不詳	油彩、カンヴァスに紙	31.0×17.5
33	ヨハン・フリードリヒ・アウグスト・ティッシュバイン Johann Friednch August Tischbein(1750-1812)	ルイザ・フォン・ザクセン=ヴァイマル妃と子供	不詳	油彩、カンヴァス	127.0×98.0
34	サー・ヘンリー・レーバーン Sir Henry Raeburn(1756-1823)	アダム・ダンカン・ハルデーンの肖像、幼少時のカンバーダウン第2伯爵	不詳	油彩、カンヴァス	88.5×67.0
35	ヨハン・ハインリヒ・ランベルグ Johann Heinrich Ramberg(1763-1840)	ブランコ	不詳	油彩、カンヴァス	89.0×66.0
36	マーガレット・サラ・カーペンター	レディ・スピアマンと娘ジュン	不詳	油彩、カンヴァス	140.0×123.5
37	ナルシッス=ヴィルジール・ディアズ・ドラ・ペーニャ Narcisse-Virgile Dlaz de la Peña(1807/08-1876)	ジブシーの母と子	1866	油彩、板	46.0×30.5
38	ナルシッス=ヴィルジール・ディアズ・ドラ・ペーニャ Narcisse-Virgile Dlaz de la Peña(1807/08-1876)	ヴィーナスの水浴	不詳	油彩、カンヴァス	69.0×47.0
39	エミール・ミュニエ Emlle Munier(1810-1895)	届かないもの	1888	油彩、カンヴァス	61.0×74.0
40	ジェイムズ・ジョン・ヒル James John Hill(1811-1882)	若い母親	1868	油彩、カンヴァス	92.0×69.0
41	フリッツ・ツーパー=ビューラー Fritz Zuber-Bühler(1822-1896)	花環の少女	不詳	油彩、カンヴァス	56.0×46.5
42	フリッツ・ツーパー=ビューラー Fritz Zuber-Bühler(1822-1896)	花売りの娘	不詳	油彩、カンヴァス	92.0×72.0
43	フレデリック・グッドール Frederick Goodall(1822-1904)	花祭り	1867	油彩、カンヴァス	73.5×53.5
44	ユーク・メールル Hugues Merle(1823-1881)	姉妹の愛情	1862	油彩、カンヴァス	56.0×45.7
45	ウイリアム=アドルフ・ブーグロー William-Adolphe Bouguereau(1825-1905)	美しいブルネットの女性の肖像	1898	油彩、カンヴァス	46.0×38.0
46	ウイリアム=アドルフ・ブーグロー William-Adolphe Bouguereau(1825-1905)	ヴィーナスとキューピッド	不詳	油彩、カンヴァス	195.6×106.5
47	ジョヴァンニ・コスタ Giovanni Costa(1826-1903)	葡萄摘みの若者	不詳	油彩、カンヴァス	62.0×51.0
48	ジュール・マルク・シャメルラ1 Jules Marc Chamerlat(1828-1868)	若い人魚	1866	油彩、カンヴァス	141.5×104.8

出品番号	作家名・作家名欧文表記(生没年)	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)
49	カール・ヴァイルヘルム・フリードリヒ・パウエレー Karl Wilhelm Friedrich Bauerle(1831-1912)	友達	不詳	油彩、カンヴァス	63.0×75.0
50	ジョン・ウィリアム・ヘインズ John William Haynes(1836-1908)	母性の喜び	不詳	油彩、カンヴァス	125.0×90.0
51	ライムンド・マドラーソ・イ・ガレット Raimundo Madrazo y Garreta(1841-1920)	ピンク色のドレスを着た少女	不詳	油彩、カンヴァス	151.0×100.0
52	アドルフ・エシュトレー Adolf Echter(1843-1914)	編み物をする少女	不詳	油彩、カンヴァス	66.0×47.6
53	アンリ・カンポトスト Henry Campotosto(1849-1910)	母性愛	不詳	油彩、カンヴァス	45.6×63.5
54	カミーユ・フェリックス・ベランジェ Camille Felix Bellanger(1853-1923)	春	1894	油彩、カンヴァス	150.0×111.0
55	エミール・ブラク Emile Brack(1860-1905)	白いドレスの少女	1886	油彩、カンヴァス	92.5×61.5
56	ホアキン・ソローリャ・イ・バステイダ Joaquin Sorolla y Bastida(1863-1923)	浜辺の少女	不詳	油彩、カンヴァス	96.0×60.0
57	カルロ・ファッキネッティ Carlo Facchini(1870-没年不詳)	母性愛	不詳	油彩、カンヴァス	76.0×61.5

絵と言葉Ⅱ 画家たちへの讃歌：1930-60年代のパリ ＜マニユエル・ブルケール出版の版画本を中心に＞

会期：2003年10月8日(水)～11月30日(日)(47日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー ワークショップ エントランスホール

主催：目黒区美術館

助成：財団法人 地域創造

担当学芸員：矢内みどり

1930～60年代のパリで、愛書家のマニユエル・ブルケールが、彼のグループのために限定で版画本を出版した。その中から所蔵作品の「礼賛シリーズ」を中心とした、49冊（版画数約500点）の版画を展示した。シャガール、ユトリロ、長谷川潔など著名な作家から個性的な趣味で選ばれた作家まで幅広く、当時のフランス版画の層の厚さを感じさせた。同時代の油彩も展示して、作品構成に奥行きを持たせた。

●カタログ

寸法：29.6×22.4cm

ページ数：235ページ

内容：ごあいさつ／絵と言葉Ⅱ-画家たちへの讃歌：1930～60年代のパリ（矢内みどり）／絵になる言葉・言葉になる絵（ピノ・マラス）／図版／作品リスト／略年賦／参考資料リスト

●ポスター

サイズ：B2

デザイン：矢萩喜徳郎

●チラシ

サイズ：A3二つ折

デザイン：矢萩喜徳郎

●関連催事

子どもサポートプラン「ファミリーのためのギャラリーツアーⅠ」、子どもサポートプラン「ファミリーのためのギャラリーツアーⅡ」、「ギャラリーートーク1930-60年代のパリの都市文化（講師：北山晴一）」、ピアノ演奏会「フランス音楽のタペーフォーレなど（演奏：高野耀子）」



会場風景



ポスター

版画本出品リスト(画家アルファベット順)

作家名	版画本題名	著者	出版年
A: アスラン、モーリス ASSELIN Maurice	『モーリス・アスラン礼賛』 <i>Éloge de Maurice Asselin</i>	マルク・サンドズ Marc Sandoz	1959 1959
B: バルグレ、ジャコブ BALGLEY Jacob	『ジャコブ・バルグレ礼賛』 <i>Éloge de Jacob Balgley</i>	クロード・ロジェ＝マルクス Claude Roger-Marx	1959 1959
ベッコヴ、イリヤ BECHKOV Ilya	『イリヤ・ベッコヴの肖像』 <i>Portrait de Ilya Bechkov</i>	ボゴミル・レノヴ Bogomil Rainov	1960 1960
ベルナル、エミール BERNARD Émile	『エミール・ベルナル礼賛』 <i>Éloge de Émile Bernard</i>	ルイ・オートクール Louis Hautcœur	1962 1962
ボファ、ギユス BOFA Gus	『ギユス・ボファ礼賛』 <i>Éloge de Gus Bofa</i>	ピエール・マッコラン P. Mac Orlan	1949 1949
ボナル、ピエール BONNARD Pierre	『ピエール・ボナル礼賛』 <i>Éloge de Pierre Bonnard</i>	レオン・ウェルス Léon Werth	1946 1946
ブレイエ、イヴ BRAYER Yves	『イヴ・ブレイエ礼賛』 <i>Éloge de Yves Brayer</i>	ジャン・ブーレ Jean Bouret	1954 1954
ブリアンション、モーリス BRIANCHON Maurice	『モーリス・ブリアンション礼賛』 <i>Éloge de Maurice Brianchon</i>	クロード・ロジェ＝マルクス Claude Roger-Marx	1955 1955
C: カモアン、シャルル CAMOIN Charles	『シャルル・カモアン礼賛』 <i>Éloge de Charles Camoin</i>	シャルル・ヴィルドラック Charles Vildrac	1956 1956
カヴァイエス、ジャン＝ジュール＝ルイ CAVAILLÈS Jean-Jules-Louis	『カヴァイエス礼賛』 <i>Éloge de Cavillès</i>	ジャン・カサー Jean Cassou	1958 1958
シャガール、マルク CHAGALL Marc	『馬の日記』 <i>Journal d'un cheval</i>	クレール・ゴル Claire Goll	1952 1952
クラヴェ、アントニ CLAVÉ Antoni	『クラヴェ礼賛』 <i>Éloge de Clavé</i>	ピエール・オズナ Pierre Osenat	1958 1958
コステール、ジェルメヌ・ド COSTER Germaine de	『ジェルメヌ・ド・コステールの肖像』 <i>Portrait de Germaine de Coster</i>	レイモン・コニア Raymond Cogniat	1960 1960
D: ダラーニェス、ジャン＝ガブリエル DARAGNÈS Jean-Gabriel	『J.-G. ダラーニェス礼賛』 <i>Éloge de J.-G. Daragnès</i>	ピエール・マッコラン Pierre Mac Orlan	1956 1956
デュカリ、アルベール DECARIS Albert	『A. デュカリの肖像』 <i>Portrait de A. Decaris</i>	画家自身 Lui-Même	1953 1953
ドラン、アンドレ DERAIN André	『ドラン礼賛』 <i>Éloge de Derain</i>	マルク・サンドズ Marc Sandoz	1958 1958
デノワイエ、フランソワ DESNOYER François	『フランソワ・デノワイエ礼賛』 <i>Éloge de François Desnoyer</i>	ジャン・ブーレ Jean Bouret	1958 1958
ドンゲン、キース・ヴァン DONGEN Kees Van	『ヴァン・ドンゲン礼賛』 <i>Éloge de Van Dongen</i>	ポール・ギュット Paul Guth	1957 1957
デュフィ、ラウル DUFY Raoul	『ラウル・デュフィ礼賛』 <i>Éloge de Raoul Dufy</i>	フェルナン・フルーレ Fernand Fleuret	1931 1931
F: フレロー、ジャン FRÉLAUT Jean	『ジャン・フレロー礼賛』 <i>Éloge de Jean Frélaud</i>	ジャック・ド・ラブラド Jacques de Laprade	1950 1950
G: ガラニス、デメトリウス・エマニュエル GALANIS Démétrius Emmanuel	『D. ガラニスの肖像』 <i>Portrait de D. Galanis</i>	アンドレ・ブクレ André Beucler	1954 1954
グロメール、マルセル GROMAIRE Marcel	『グロメール礼賛』 <i>Éloge de Gromaire</i>	ギ・ドルナン Guy Dornand	1958 1958
H: 長谷川、潔 HASEGAWA Kiyoshi	『長谷川潔の肖像』 <i>Portrait de Kiyoshi Hasegawa</i>	ロベール・レイ Robert Rey	1963 1963
エルヴェー、ルイーズ HERVIEU Louise	『ルイーズ・エルヴェー礼賛』 <i>Éloge de Louise Hervieu</i>	クロード・ロジェ＝マルクス Claude Roger-Marx	1953 1953
アンブロ、ロベール HUMBLOT Robert	『ロベール・アンブロ礼賛』 <i>Éloge de Robert Humblot</i>	クロード・ロジェ＝マルクス Claude Roger-Marx	1962 1962
J: ジャックマン、アンドレ JACQUEMIN André	『A. ジャックマンの肖像』 <i>Portrait de A. Jacquemin</i>	ルイ・シュロネ Louis Cheronnet	1951 1951
ヨールガンセン、モニク JØRGENSEN Monique	『モニク・ヨールガンセンの肖像』 <i>Portrait de Monique Jørgensen</i>	出版人 (マニユエル・ブルケール) De l'Éditeur	1959 1959

作家名	版画本題名	著者	出版年
K: クロル、アブラム KROL Abram	『アブラム・クロルの肖像』 <i>Portrait de Abram Krol</i>	モーリス・テスカ Maurice Toesca	1957 1957
L: ラブルール、ジャン=エミール LABOUREUR Jean-Emile	『J.-E. ラブルール礼賛』 <i>Éloge de J.-E. Laboureur</i>	ルシアン・グロー博士 Le Docteur Lucien-Graux	1938 1938
ロート、アンドレ LHOTE André	『アンドレ・ロート礼賛』 <i>Éloge de André Lhote</i>	ギ・ドルナン Guy Dornand	1960 1960
ロティロン、ロベール LOTIRON Robert	『ロベール・ロティロンの肖像』 <i>Portrait de Robert Lotiron</i>	クロード・ロジェ=マルクス Claude Roger-Marx	1955 1955
リュルサ、ジャン LURÇAT Jean	『ジャン・リュルサ礼賛』 <i>Éloge de Jean Lurçat</i>	ロベール・マレ Robert Mallet	1962 1962
M: マンシュー、ルシアン MAINSIEUX Lucien	『ルシアン・マンシュー礼賛』 <i>Éloge de Lucien Mainssieux</i>	マニユエル・ブルケール Manuel Bruker	1950 1950
マンギャン、アンリ MANGUIN Henri	『アンリ・マンギャン礼賛』 <i>Éloge de Henri Manguin</i>	シャルル・テラス Charles Terrasse	1954 1954
マルケ、アルベール MARQUET Albert	『アルベール・マルケ礼賛』 <i>Éloge de Albert Marquet</i>	レオン・ウェルス Leon Werth	1948 1948
マルケ、アルベール MARQUET Albert	『マルケの現代性』 <i>Présence de Marquet</i>	マルク・サンドズ Marc Sandoz	1962 1962
マール、エレヌ MARRE Hélène	『エレヌ・マールの肖像』 <i>Portrait de Hélène Marre</i>	ジャン=リュック・ミシヨ Jean-Luc Michaud	1963 1963
N: ノダン、ベルナル NAUDIN Bernard	『ベルナル・ノダン礼賛』 <i>Éloge de Bernard Naudin</i>	クロード・ロジェ=マルクス Claude Roger-Marx	1947 1947
ネイヨ、ルイ NEILLOT Louis	『ルイ・ネイヨ礼賛』 <i>Éloge de Louis Neillot</i>	ジャン・ブーレ Jean Bouret	1962 1962
O: ウード、ジョルジュ OUDOT Georges	『ジョルジュ・ウード礼賛』 <i>Éloge de Georges Oudot</i>	ギ・ドルナン Guy Dornand	1962 1962
ウード、ロラン OUDOT Roland	『ロラン・ウード礼賛』 <i>Éloge de Roland Oudot</i>	クロード・ロジェ=マルクス Claude Roger-Marx	1958 1958
R: ロッド、ミシェル RODDE Michel	『ミシェル・ロッド礼賛』 <i>Éloge de Michel Rodde</i>	ジェラルド・ムルグ Gérard Mourgue	1963 1963
S: スゴンザック、デュノワイエ・ド SEGONZAC Dunoyer de	『デュノワイエ・ドスゴンザック礼賛』 <i>Éloge de Dunoyer de Segonzac</i>	モーリス・ロンクル Maurice Loncle	1965 1965
スーラ、ジョセフ=ルイ SOULAS Joseph-Louis	『J.-E. スーラの肖像』 <i>Portrait de J.-L. Soulas</i>	ジャック・ド・ラブラド Jacques de Laprade	1950 1950
U: ユトリロ、モーリス UTRILLO Maurice	『モーリス・ユトリロ礼賛』 <i>Éloge de Maurice Utrillo</i>	ルネ・ウィリー René Willy	1956 1956
V: ヴェルテス、マルセル VERTÈS Marcel	『マルセル・ヴェルテス礼賛』 <i>Éloge de Marcel Vertès</i>	ジョルジュ・ユイスマン Georges Huisman	1951 1951
ヴィヨン、ジャック VILLON Jacques	『ジャック・ヴィヨン礼賛』 <i>Éloge de Jacques Villon</i>	ジャック・ラセーニユ Jacques Lassaigue	1955 1955
ヴエイヤール、エドゥワール VUILLARD Édouard	『エドゥワール・ヴエイヤールの墓碑』 <i>Tombeau de Édouard Vuillard</i>	ジャン・ジロドゥー Jean Giraudoux	1944 1944
W: ワロキエ、アンリ・ド WAROQUIER Henry de	『H. ド・ワロキエ礼賛』 <i>Éloge de H. de Waroquier</i>	A.-H. マルティニ A.-H. Martinie	1945 1945

その他油彩等作品リスト

No.	作家名	作品名	素材・技法	サイズ(cm)	制作年	所蔵先
[建造物]						
A-1.	マルク・シャガール Marc Chagall	オペラ座の人々 Figures at the Opéra	油彩・キャンバス	129.8×97.0	1968/71	ポーラ美術館 (ポーラ・コレクション)蔵
A-2.	高島 達四郎 TAKABATAKE, Tatsushiro	食卓 At Table	油彩・キャンバス	80.9×99.8	1927	目黒区美術館蔵
A-3.	岡 鹿之助 OKA, Shikanosuke	信号台 Signal Station	油彩・キャンバス	45.7×53.2	1926	目黒区美術館蔵
A-4.	見島 善三郎 KOJIMA, Zenzaburo	窓からの風景 Landscape through Window	油彩・キャンバス	60.6×45.5	1925/28	目黒区美術館蔵
A-5.	角 浩 KADO, Hiroshi	パリの屋根 Roofs of Paris	油彩・キャンバス	80.7×100.2	1938	目黒区美術館蔵
A-6.	山口 薫 YAMAGUCHI, Kaoru	巴里の屋根 Roofs of Paris	油彩・キャンバス	45.6×37.7	1930	目黒区美術館蔵
A-7.	浜口 陽三 HAMAGUCHI, Yozo	パリの屋根 Roofs of Paris	カラーメゾチント・紙	14.8×19.9 (28.6×37.8)	1956	目黒区美術館蔵
A-8.	梅原 龍三郎 UMEHARA, Ryuzaburo	パリ市庁 Hôtel de Ville Paris	油彩・キャンバス	35.0×43.1	1908	目黒区美術館蔵
A-9.	萩須 高德 OGISU, Takanori	パリのカフェ Café in Paris	油彩・キャンバス	60.6×72.7	1931	目黒区美術館蔵
A-10.	山口 薫 YAMAGUCHI, Kaoru	クルニー美術館の裏庭 Landscape behind Musée de Cluny	油彩・キャンバス	49.0×59.0	1930	目黒区美術館蔵
A-11.	原 精一 HARA, Seiichi	ルーブル美術館夕景 Evening of the Louvre	油彩・キャンバス	65.5×91.6	1966頃	目黒区美術館蔵
A-12.	山口 薫 YAMAGUCHI, Kaoru	パリ、アレジアの教会 Church in Alésia, Paris	油彩・キャンバス	61.0×72.0	1932	目黒区美術館蔵
A-13.	山尾 薫明 YAMAO, Kunmei	夜のノートルダム Notre Dame at Night	油彩・キャンバス	81.1×53.1	1933	目黒区美術館蔵
A-14.	エミール・ベルナル Émile Bernard	城のあるスミュールの眺め View of Castle in Semur	油彩・キャンバス	73.5×61.0	1905	東京富士美術館蔵
[公園・道]						
A-15.	青山 義雄 AOYAMA, Yoshio	リュクサンブール公園 Garden of Luxembourg	油彩・キャンバス	45.4×37.8	1933	目黒区美術館蔵
A-16.	荒井 龍男 ARAI, Tatsuo	プラスサンミッシェル Place St-Michel	油彩・綿布	60.6×50.1	1935	目黒区美術館蔵
A-17.	近藤 吾朗 KONDO, Goro	サン・ミッシェル通り Boul. Saint-Michel	油彩・キャンバス	72.7×116.5	1957	目黒区美術館蔵
A-18.	安井 曾太郎 YASUI, Sotaro	パリの公園 Park in Paris	油彩・キャンバス	33.2×41.0	1911	目黒区美術館蔵
A-19.	矢橋 六郎 YABASHI, Rokuro	ポンヌフ Pont Neuf	油彩・キャンバス	80.4×100.0	1931	目黒区美術館蔵
A-20.	角 浩 KADO, Hiroshi	リュクサンブール公園 Garden of Luxembourg	油彩・キャンバス	53.0×65.0	1938	目黒区美術館蔵
A-21.	鹿子木 孟郎 KANOKOGI, Takeshiro	アブニューオッシュ Avenue Hoche	油彩・キャンバス	50.1×61.0	1916/17	目黒区美術館蔵
A-22.	横手 貞美 YOKOTE, Sadami	街路 Street	油彩・キャンバス	52.9×72.7	1927/30	目黒区美術館蔵
[風景]						
A-23.	田中 保 TANAKA, Yasushi	セーヌの宵 La Seine au soir	油彩・キャンバス	54×65	1920	有限会社 フランス画廊蔵
A-24.	辻 永 TSUJI, Hisashi	セーヌ川 the Seine	油彩・キャンバス	41.2×53.3	1921	目黒区美術館蔵
A-25.	島村 三七雄 SHIMAMURA, Minao	セーヌの釣り Fishing at the Seine	油彩・キャンバス	53.0×65.2	1929/36	目黒区美術館蔵

No.	作家名	作品名	素材・技法	サイズ(cm)	制作年	所蔵先
A-26.	デュノワイエ・ド・スゴンザック Dunoyer de Segonzac	風景 Paysage	油彩・キャンバス	65×81	1930頃	神奈川県立近代美術館寄託
[人物]						
A-27.	藤田 嗣治 FOUJITA, Léonard	赤毛の女 Red-Haired Woman	水彩・紙	26.5×20.0	1917	目黒区美術館蔵
A-28.	岡上 りう OKANOUE, Riu	青衣の女 (薩摩千代像) La Femme en bleu	油彩・キャンバス	65×50	1925/30	千田実氏蔵
A-29.	田中 保 TANAKA, Yasushi	窓辺の裸婦 Nu près de la fenêtre	油彩・キャンバス	103×102	1928頃	(株)飯田美術蔵
A-30.	田中 保 TANAKA, Yasushi	金髪の裸婦 Blond Nude	油彩・キャンバス	88.5×91.2		目黒区美術館蔵
A-31.	高野 三三男 KONO, Misaō	コロンビーヌ Colombine	油彩・キャンバス	116×73	1937	有限会社 フランス画廊蔵
A-32.	北蓮造 KITA, Renzo	コンセルジュ Concierge	油彩・キャンバス	146.3×113.8	1929	目黒区美術館蔵
[室内・静物・その他]						
A-33.	藤田 嗣治 FOUJITA, Léonard	カフェ・ラ・ロトンド Café la Rotonde	銅版・紙	19.0×14.5	1925	目黒区美術館蔵
A-34.	出島 春光 DESHIMA, Shunko	金魚 Poissons Rouges	絹本着色	47×38	1932	有限会社 フランス画廊蔵
A-35.	板東 敏雄 BANDO, Toshio	静物 Still Life	油彩・キャンバス	24.0×33.2		目黒区美術館蔵
A-36.	荻須 高德 OGUISS, Takanori	鯖 Mackerel	油彩・キャンバス	27.2×35.4		目黒区美術館蔵
A-37.	平賀 亀祐 HIRAGA, Kamesuke	牡蠣のある静物 Still Life with Oysters	油彩・板	46.0×55.0	1928	目黒区美術館蔵
A-38.	菅井 汲 SUGAI, Kumi	黒い手帖 Black Notebook	油彩・キャンバス	100.0×81.6	1963	目黒区美術館蔵
A-39.	今井 俊満 IMAI, Toshimitsu	黒い太陽 Black Sun	油彩・キャンバス	60.1×92.3	1956	目黒区美術館蔵
A-40.	田淵 安一 TABUCHI, Yasukazu	天の史 History of Heaven	油彩・キャンバス	85.1×72.8	1954	目黒区美術館蔵
[絵手紙など]						
A-41.	藤田 嗣治 FOUJITA, Léonard	手紙 (24点) Letters				目黒区美術館蔵
	藤田 嗣治 FOUJITA, Léonard	手紙 (4点) Letters				目黒区美術館蔵
	藤田 嗣治 FOUJITA, Léonard	葉書 (12点) Post Cards				目黒区美術館蔵

目黒区のアート・ブック 2003

会期：2003年12月6日～2004年1月11日（25日間）

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

目黒区美術館は、1987年の開館以来1998年度までの毎年、目黒区内在住・在勤の作家の方々の活動振りを、その年度に発表された作品を中心に、一作家一作品ずつのアニヴァーサリー形式で紹介し続けてきた。

2001年に目黒区美術協会、目黒区書作家協会、目黒区美芸作家協会と目黒区美術館（故・福永重樹館長）とが協議、2001年度から3年度にかけては、上記三団体と、同様に区内で書の普及にご貢献くださっている日本書道専門学校在勤作家の方々を加え、それぞれの仕事を紹介することになった。3回目となる本年は、目黒区美術家協会から16作家、目黒区書作家協会から10作家、日本書道専門学校から3作家、目黒区美芸作家協会から7作家、総計36作家の114点を出品した。

出品作品は、ここ数年の近作・新作を中心に、絵画の場合は30号～100号を3点（それ以上の大きさの場合2点まで）、版画・水彩などの紙作品の場合は150cm×150cm以下の作品ならば3点以内、20～50cm×20～50cm前後の小品ならば5点まで、工芸の場合は平面・立体とも同様のサイズと点数、書の場合は半切以上或いは3尺×8尺以下の作品3点を原則とした。

美術愛好者・鑑賞者の方々に目黒区のアート状況をご理解いただき、また、作家の方々の交流を深め、さらには作家同士の活動を触発し合い、区内アートを取り巻く環境を活性化するという目的の一端は果たせたのではないかと。

●出品目録

サイズ：A4中綴じ（ホッチキス留）

頁数：24頁（表紙・裏表紙共）

●ポスター

サイズ：B3（チラシ表裏を連続した画面）

材質：マットコート紙、135kg

●チラシ

サイズ：A4（表裏カラー）

材質：マット紙、90kg

●案内はがき

サイズ：大判細み、約11.0cm×約19.0cm（既成サイズ）

材質：片面ミラーコート紙、180kg



会場風景



ポスター

出品リスト

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
1.	青山孝(目黒区美術家協会)				
	1、陽を待つ合奏	2003	油彩・キャンバス	112.1×145.5	
	2、明日を想い黙考	2003	油彩・キャンバス	112.1×145.5	
	3、付き纏う陰・陽	2003	油彩・キャンバス	130.3×97.0	
2.	明田袁(目黒区美術家協会)				
	1、チキソフォン	1998	ブロンズ鑄造(鶏型 管楽器・トランペット 又はアルトサックス のマウスピース装着)	43.0×13.0×30.0	目黒区の美術・書-1998展(1998年2月、目黒区美術館)
	2、猫の楽団Ⅱ	2003	キャンバス・油彩	91.0×91.0	
	3、ガネーシャキムラ	2003	キャンバス・油彩	91.0×72.5	
	4、普賢音鬼ジャズ菩薩	2003	紙粘土・石粘土(立体)	60.0×60.0×30.0	
3.	渥美澄子(目黒区美術家協会)				
	1、想	2001	油彩・キャンバス	162.0×130.0	示現会展(2001年4月、東京都美術館)
	2、想	2002	油彩・キャンバス	162.0×130.0	示現会展(2002年4月、東京都美術館)
	3、想	2003	油彩・キャンバス	162.0×130.0	示現会展(2003年4月、東京都美術館)
4.	井上慎(目黒区美術協会)				
	1、中世の光芒	2001	油彩・キャンバス	162.2×162.2	第38回杜人展(2001年10月、東京銀座画廊美術館F館)
	2、曇るタオルミーナ(シチリア)	2002	油彩・キャンバス	130.3×162.2	第39回杜人展(2002年10月、東京銀座画廊美術館F館)
	3、響(在トルコ、古代ローマ遺跡)	2003	油彩・キャンバス	130.3×162.2	第40回杜人展(2003年10月、東京銀座画廊美術館F館)
5.	岩田染華(目黒区美術家協会)				
	1、峻嶽連なる	2001	紙本着色	193.9×130.3	第41回日本南画院展(2001年3月、東京都美術館)
	2、峻岳雪峰	2002	紙本着色	130.3×193.9	第42回日本南画院展(2002年3月、東京都美術館)
	3、水芭蕉	1988	紙本着色	53.0×65.2	個展(1988年7月、ギャラリー一砂絵布)
6.	牛込眞智子(目黒区美術家協会)				
	1、椿	1995	油彩・キャンバス	90.9×72.7	花展(1992年3月、兵庫県加西市)
	2、想う、パーツラフ広場	1999	油彩・キャンバス	130.0×162.0	第24回新芸術展(1999年11月、東京都美術館)
	3、香る	2001	油彩・キャンバス	73.0×61.0	個展(2001年9月、もみの木画廊、自由が丘)
	4、陽光のテーブル	2001	油彩・キャンバス	130.0×162.0	第26回新芸術展(銀賞、2001年11月、東京都美術館)
7.	小山内益郎(目黒区美術家協会)				
	1、雲の教会	1998	アクリル・キャンバス	194.0×130.0	行動美術教会(1998年9月、東京都美術館)
	2、瀧	1999	アクリル・キャンバス	194.0×130.0	行動美術協会展(1999年9月、東京都美術館)
8.	小菅智恵子(目黒区美術家協会)				
	1、階段のある風景	1999	油彩・キャンバス	145.0×112.0	示現会(1999年4月、東京都美術館)
	2、ペルージャの初夏	2000	油彩・キャンバス	112.0×145.5	示現会(2000年4月、東京都美術館)
	3、遺跡	2002	油彩・キャンバス	112.0×145.5	
9.	佐々岡義徳(目黒区美術家協会)				
	1、橋のある街	2000	油彩・キャンバス	112.1×145.5	一創会展(2000年2月、東京都美術館)
	2、廃屋	2002	油彩・キャンバス	72.7×90.0	一創会会員展(2002年8月、文芸春秋画廊)
10.	佐藤徳一(目黒区美術家協会)				
	1、城塞	2000	油彩・キャンバス	162.1×130.3	第38回全展(2000年8月、東京都美術館)
	2、漁夫の砦(ブダペスト)	2001	油彩・キャンバス	130.3×162.1	第39回全展(2001年8月、東京都美術館)
	3、塔の町(サン・ジミニヤーノ)	2002	油彩・キャンバス	130.3×162.1	第40回全展(2002年8月、東京都美術館)
11.	瀬川智貴(目黒区美術家協会)				
	1、奥入瀬・初夏	2003	油彩・キャンバス	65.2×91.0	個展(2003年6月、ギャラリー川徳、盛岡)

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
2.	奥入瀬・晩秋	2003	油彩・キャンバス	65.2×91.0	
3.	不二	2003	油彩・キャンバス	91.0×116.8	
12.	瀬谷貴久枝(目黒区美術家協会)				
1.	play I	2002	油彩・キャンバス	162.0×162.0	女流画家協会展(2002年5月、東京都美術館)
2.	'03play I	2003	油彩・キャンバス	162.0×162.0	目黒区美術家協会展(2003年11月)
3.	'03play II	2003	油彩・キャンバス	162.0×162.0	女流画家協会展(2003年5月、東京都美術館)
13.	染谷栄里(目黒区美術家協会)				
1.	Mt. クックの春(1)	2003	油彩・キャンバス	97.0×162.0	
2.	Mt. クックの春(2)	2003	油彩・キャンバス	146.0×97.0	
14.	中村邦子(目黒区美術家協会)(2003年2月1日 逝去)				
1.	悠久の時を超えて(アルハンブラの宮殿)	制作年不明	油彩・キャンバス	97.0×140.6	
2.	スペインの村	制作年不明	油彩・キャンバス	91.5×117.0	
3.	赤い屋根の教会	制作年不明	油彩・キャンバス	91.5×117.0	
15.	長谷川政子(目黒区美術家協会)				
1.	平和	1994	油彩・キャンバス	91.9×116.8	個展(1994年6月、資生堂ギャラリー、銀座)
2.	アネモネ	1998	油彩・キャンバス	40.0×31.8	長谷川政子回顧展(1998年9月、ギャラリー-82、長野市)
3.	想ふ少女	1998	油彩・キャンバス	40.9×31.8	長谷川政子回顧展(1998年9月、ギャラリー-82、長野市)
4.	花咲く頃	1999	油彩・キャンバス	145.5×112.1	立軌展(1999年2月、東京セントラル美術館)
5.	望郷	2002	油彩・キャンバス	116.8×91.1	立軌展(1999年2月、東京セントラル美術館)
16.	張替秀起(目黒区美術家協会)				
1.	愉快的仲間たち	2000	キャンバス・コラージュ	131.0×162.0	新構造展(2000年6月、東京都美術館)
2.	愉快的仲間たち	2002	キャンバス・アクリル	131.0×162.0	新構造展(2002年6月、東京都美術館)
3.	愉快的仲間たち	2003	キャンバス・アクリル	131.0×162.0	新構造展(2003年6月、東京都美術館)
17.	青木瑞苑(目黒区書作家協会)				
1.	彗星襲月 釈文：彗星襲月 出典：説苑	1994	紙・額	39.0×30.0	毎日書道展(1994年7月、東京都美術館)
2.	幽壙螢樓 釈文：幽壙螢樓 出典：季賀詩	2000	紙・額	39.0×30.0	毎日書道展(2000年7月、東京都美術館)
3.	瓊波碎壁 釈文：瓊波碎壁 出典：劉守元	2003	紙・額	39.0×30.0	毎日書道展(2003年7月、東京都美術館)
18.	飯田玲菊(目黒区書作家協会)				
1.	軌跡 釈文：私の心はプリーツスカート 風で心の襷がフワッと開くの 出典：自作詩	2002	紙・額	240.0×46.0	第19回読売書法展(2002年8月、サンシャインシティ文化会館)
2.	天上の詩 釈文：この青い青い大空 地上の悲しみをこめたブルー 出典：自作詩	2003	紙・額	240.0×53.0	第20回読売書法展(2003年8月、東京都美術館)
3.	ひかるまんげつ 釈文：まだかなと みんなどきどき のはらでは つきまつころ みちみちて そらを見あげる こねずみは ひげをびこびこ こだぬきは しっぽのていれ こうさぎは たんたかおどり こぎつねは でんぐりかえる しらぬまに ひがしのそらが ほんのりと ひかりはじめて しずしずと のぼるつきかけ いちめんにはらはをてらす こよひひかるまんげつ つきとしこ 出典：工藤直子「のはらうた」	2003	紙・額	240.0×53.0	

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
19.	石井絲烟(目黒区書作家協会)				
1.	芥川龍之介詩 釈文：心清無炎暑 端居思渺然 水雲涼自得 窓下抱花眠 鼎茶銷午夢 薄酒喚春愁 杳渺孤山路 風花似旧不 出典：新修墨場必携(日本篇)	2002	和紙・額	238.0×56.0	国際書画展(2002年1月、東京都美術館)
2.	和風清穆 釈文：熙熙令音 猗猗原陸 卉木繁榮 和風清穆 紛紛士女 趨時競逐 桑婦宵征 農夫野宿 出典：陶淵明詩「勸農」	2003	和紙・額	177.0×75.0	木鐸展(2003年8月、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
3.	松樹千年翠 釈文：松樹千年翠 出典：続灯録	2003	和紙・軸	70.0×80.0	
20.	岩田芳尊(目黒区書作家協会)				
1.	送元二使安西 王維 釈文：渭城朝雨浥輕塵 客舍青青柳色新 勸君更盡一杯酒 西出陽關無故人 出典：墨場必携	2002	和紙・額	240.0×60.0	国際書画展(2003年1月、東京都美術館)
2.	孫子之兵法 釈文：故兵以詐立 以利動 以分合為變者也 故其疾如風 其徐如林 侵掠如火 不動如山 難知如陰 動如雷震 掠鄉分衆 廓地分利 懸權而動 先知迂直之計者勝 此軍争之法也 出典：中国の思想(孫子)	2003	和紙・額	180.0×90.0	木鐸書展(2003年8月、朝日ギャラリー)
3.	飛翔 出典：大漢語林	2003	和紙・額	60.0×136.0	
21.	植木峰雲(目黒区書作家協会)				
1.	登錦城散花樓 李白 釈文：日照錦城頭／朝光散花樓／金窗夾繡戶／珠箔懸璫鉤／飛梯綠雲中／極目散我憂／暮雨向三峽／春江繞双流／今來一登望／如上九天遊 出典：漢詩を讀む	1994	和紙・額	225.0×53.0	木鐸書展(1994年8月、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
2.	山居秋暝 王維 釈文：空山新雨後／天氣晚來秋／明月松間照／清泉石上流／竹喧歸浣女／蓮動下漁舟／隨意春芳歇／王孫自可留 出典：標音「唐詩三百首」	2003	和紙・額	225.0×53.0	木鐸書展(2003年8月、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
3.	玉階怨 李白 釈文：玉階生白露／夜久侵羅幃／却下水精簾／玲瓏望秋月 出典：標音「唐詩三百首」	2003	和紙・額	68.0×70.0	
22.	岡部初子(目黒区書作家協会)				
1.	帰り花 釈文：帰り花 残月空に又白し 出典：水原秋櫻子	2001	和紙・額	83.0×114.0	現代女流100人展(渋谷東急百貨店)
2.	燕子花 釈文：翠微より蝶吹かれ落つ燕子花 出典：小山南史	2002	和紙・額	60.0×240.0	毎日書道展(東京都美術館)
3.	慈悲心鳥 釈文：慈悲心鳥 夜霧の涯に空光り 出典：堀口星眠	2003	和紙・額	90.0×90.0	堅香子会展(カトレヤサロン)
23.	相良翠谷(目黒区書作家協会)				
1.	万葉の歌 釈文：いづくにか ふなのりしけむ高島の香取りの浦ゆ漕ぎてくる船 出典：万葉集	1997	和紙・額	230.0×53.0	書壇受賞に輝く作家展(1997年1月、東京セントラル美術館)

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
2.	西行和歌二首 釈文：あはれ いかにか草葉の露のこぼるらむ 秋風立ちぬ 宮城野の原 出典：新古今 釈文：ふもとゆく 舟人いかに寒からむ くま山嶽をおろす嵐に 出典：山家集	制作年不明	和紙・額	230.0×53.0	日本書道院展(出品年不明、東京都美術館)
3.	李白詩 送裴十八圖南婦甲嵩山 其一 釈文：何處可為別 長安青綺門 胡姬招素手 延客醉金樽 臨當上馬時 我獨與君言 風吹芳蘭折 日沒烏雀喧 舉手指飛鴻 此情難具論 同婦無早晚 穎水有清源 出典：中国詩人選集より	2003	和紙・額	60.0×183.0 (2尺×6尺)	
24.	田淵観斎(目黒区書作家協会)				
1.	過故洛城 白居易 釈文：故城門前春日斜 故城門前裏無人家 市朝欲認不知處 漠々野田飛草花 出典：唐詩選	2002	和紙・額	54.0×135.0	木鐸書展(2002年7月、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
2.	墓碑名 浅野晃 釈文：ここに一人の若もの眠る/血色よき頬に安らかな笑みをたたへて——/彼は軍に従つて異國に死し/なきがらの求むべきものなし/ 老いたる父母 彼の魂を喚び返し/幼な妻 彼の魂を乞ひ取りて/ここ故山の松の根かたに/ねんごろに葬りしなり/彼 生前 好んで故山をうたひ/くだちゆく世に立ち交りて かたく言霊のさきはひを護らむとしき/その歌しらべ清らかに/深く松籟のひびきに通へば/きくものことごとく涙しぬ/光こぼるこの山かげ/流れさざめくこの岸辺こそ/げに彼が鎮まるべきところなれ/われここに彼の歌一首を録して/行人の看むことをねがふ 山の風そよ吹きおろす松原に/夏蟬きけば/過ぎし日おもほゆ 出典：浅野晃詩集	2003	和紙・額	99.0×198.0	木鐸書展(2003年8月、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
3.	濯足萬里流(左思語) 釈文：濯足萬里流 出典：輪墨自在	2001	和紙・額	238.0×56.0	国際書画展(2001年1月、東京都美術館)
25.	増田香蘭(目黒区書作家協会)				
1.	散る日 釈文：さくらの花が散る 惜げもなく己れを捨ててすばらしさ うれい顔がそれを眺める いま見たときから散りはじめたようなはなやかさを 出典：「現代詩文庫34金井直詩集」(思潮社)	2003	画仙紙・額	96.0×90.0	墨調書展(2003年4月、市ヶ尾ギャラリー、横浜)
2.	美しい夏の朝に 釈文：巨人になりたい 一日に一度打つ心臓 永遠をみつめる瞳 太陽に火傷する指先 日記には歴史をしるし 革命の悲慘を 裏切りの栄光を 残らず両手にすくいとる 巨人になりたい 暗黒の宇宙に身を投げ 銀河の流れに泳ぎ 両腕に地球を抱きしめ 黙って涙をこぼしている 限りなく無力な 巨人になりたい そうでなければむしろ 一匹の蟻になりたい 露草の迷路に果なく迷い いつまでも迷いつづけ それでいい この美しい夏の朝に 出典：「谷川俊太郎詩集続」(思潮社)	2003	画仙紙・額	87.0×178.0	
3.	ふるさとの夏 釈文：果てしない海原の胸に抱かれて/よみがえりよみがえりやまぬ生命よ 荒野にも人知れず野花は開き/傷ついた蝶をいざなう 我がふるさとの星 地球はみどり/故しらぬ宇宙の時の流れに くりかえしくりかえしやまぬ歴史よ/憎しみも喜びも終わらぬままに 沈黙の大地にいこう/我がふるさとの星 地球はみどり めくるめく青空の瞳みつめて/あこがれあこがれやまぬ我等よ 月へゆくおおいなる船より望む/せめぎあう人の住む故郷 我がふるさとの星 地球はみどり 出典：谷川俊太郎「空に小鳥がいなくなった日」(株 サンリオ)	2003	画仙紙・額	234.0×53.0	

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
26.	^{みかなぎ} 御巫肆芳(目黒区書作家協会)				
1.	前赤壁賦	1995		180.0×90.0	日書画展(1995年8月、都立産業貿易センター)
	釈文：壬戌の秋、七月既望蘇子客と船を汎べ赤壁の下に遊ぶ。 出典：東坡集卷19				
2.	飲酒	2001		240.0×60.0	日書画展(2001年11月、東京都美術館)
	釈文：盧を結んで人境に在り、而も車馬の喧しき無し 出典：陶淵明集卷三				
3.	国見の歌	2003		90.0×180.0	木鐸書展(2003年8月、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
	釈文：大和には群山あれど、とりよるふ天の香具山 出典：万葉集卷一第二歌				
27.	金子蒼原(日本書道専門学校)				
1.	山悠々	2003	紙・額	82.0×174.0	独立書展(2003年1月、東京都美術館)
	釈文：山悠々				
2.	恵	2003	紙・額	120.0×65.0	独立会員書展(2003年5月、東京セントラル美術館)
	釈文：恵(めぐみ)				
3.	一笑百慮忘	2003	紙・軸	135.0×35.0	
	釈文：一笑百慮忘る				
28.	溪口幽城(日本書道専門学校)				
1.	七言二句	2002	紙・額	240.0×60.0	独立書展(2002年1月、東京都美術館)
	釈文：一身常在閑中過。萬事肯於先處行。 出典：新註墨場必携				
2.	川路柳虹詩 期待	2003	紙・額	197.0×45.0	日本の書展(2003年2月、東京銀座画廊美術館)
	釈文：遠い雲の燃える山のはてを輝かしく見せる樹の葉よ 緑にちる光りのあとを黄金色のよろこばしさを いつも 暗い椎の蔭から見てはをれど 薄暮は小徑に黙れる百合よりも悲しく 荊棘よりも痛ましく わが光を影にみちびく 出典：現代詩人全集				
3.	登総持閑	2003	紙・額	240.0×60.0	
	釈文：高閣遍諸天 登臨近日邊 晴開萬井樹 愁看五陵烟 檻外低秦嶺 窓中小渭川 早知清浄理 常願奉金仙 出典：唐詩選				
29.	森本妙子(日本書道専門学校)				
1.	初東雲(鳥田とし子)	2002	本画仙紙・額	240.0×60.0	第50回独立書展(2002年1月、東京都美術館)
	釈文：初東雲かがり火あびて詣でけり 出典：歳時記				
2.	春(燕村)	2002	本画仙紙・額	135.0×70.0	現代女流百人展(2002年2月、渋谷東急本店)
	釈文：高麗舟の寄らで過ぎゆく霞かな。片町に更紗染むるや春の風 出典：歳時記				
3.	初曾我・・・(加藤良明)	2003	本画仙紙・額	240.0×60.0	第51回独立書展(2003年1月、東京都美術館)
	釈文：初曾我や鼓の冴えて幕あがる				
30.	飯田保子(目黒区美芸作家協会)				
1.	牡丹	1989	和紙	44.0×71.0	目黒区民作品展(1993年10月、目黒区美術館)
2.	アネモネ	2001	和紙	53.0×45.5	目黒区美芸作家協会展(2001年3月、大田区民ホール・アブリコ)
3.	果物	2003	和紙	45.5×62.0	目黒区美芸作家協会展(2003年3月、大田区民ホール・アブリコ)
31.	北野佳子(目黒区美芸作家協会)				
1.	椿	1993	麻布	113.0×56.0	第3回ラ・プロドリール-K展(1993年秋、ギャラリーミーム、白楽)
2.	海底散歩	1996	綿布	140.0×90.0	第5回ラ・プロドリール-K展(2000年、ギャラリーぬり彦、京橋)
3.	菊の舞い	1998	麻布	220.0×140.0	目黒区美芸作家協会展(会期不明、大田区民ホール・アブリコ、蒲田)
4.	カットワークのチューリップ	2001	麻布	150.0×90.0	第7回ラ・プロドリール-K展(2001年3月、ギャラリーぬり彦、京橋)
5.	ジャックと豆の木	2002	綿布	138.0×80.0	第8回ラ・プロドリール-K展(2002年11月、ギャラリーぬり彦、京橋)

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
32.	正南ほどう(目黒区美芸作家協会)				
	1、父祖たち	2003	粘土(素焼)・アクリル絵具	72.0×183.0×28.0	
33.	田中礼子(真嘉禮)(目黒区美芸作家協会)				
	1、熊野	1989	桐塑・布	10.0×12.0×30.0	横浜校10周年記念合同作品展(1989年、横浜産業貿易センター)
	2、古代雛	1992	桐塑・布	18.0×23.0×20.0	藤本教室作品展(1993年、藤沢さいかやデパート)
	3、藤原仲文	1995	桐塑・布・皮	26.0×38.0×24.0	東郷教室作品展(1995年、清月堂ギャラリー・銀座)
	4、五月の舞	1997	桐塑・布・皮	11.0×20.0×30.0	真多呂人形学院本校作品展(1997年、真多呂人形学院、御徒町)
	5、清少納言	1998	桐塑・布	37.0×40.0×20.0	はなえ会作品展(1998年、大八木画廊・銀座)
	6、和泉立雛	2001	桐塑・布	10.0×9.0×24.0/ 8.0×17.0×26.0	目黒区美芸作家展(2002年、大田区民ホール・アブリコ)
34.	はりお 唼尾かほる(目黒区美芸作家協会)				
	1、秋、枯れて	1985	絹(着物)	170.0×140.0	珠工会展(1985年9月、銀座松屋)
	2、桜	1988	絹(着物)	167.0×140.0	東雲展(1999年5月、くぼたギャラリー・京橋)
	3、童話	2003	絹(帯)	270.0×31.0	目黒区美芸作家展(2003年、大田区民ホール・アブリコ、蒲田)
35.	矢嶋邦男(目黒区美芸作家協会)				
	1、ペンダントヘッド(豆)	2003	銀950	7.5×1.0	
	2、カフス及タイピンset(竹)	2003	銀950	6.0×0.6(タイピン)／(2.5×1.5)×2(カフス)	
	3、バングル、リレグ、Eリングset	2003	銀950	4.5×6.0×1.3(バングル)／2φ×1.0(リング)／ (2.0×1.0)×2(Eリング)	
	4、楊枝入れ	2003	銀950	7.0×4.0×1.5	
	5、ペンダントヘッド	2003	銀950・18K	4.0×3.0	
36.	脇山晴枝(目黒区美芸作家協会)				
	1、旅の途中で(台北)	2002	針金・アクリル樹脂液	100.0×60.0×110.0	トウベ・デ IPPアート協会展(2002年4月、サンシャイン文化会館)
	2、日本の心	2000	針金・アクリル樹脂液・ 造形盆栽用土	70.0×100.0×115.0	個展・私の花物語(2000年11月、松崎画廊・銀座)
	3、冬華	2003	針金・アクリル樹脂液・ その他	70.0×80.0×80.0	

めぐろの子どもたち展

平成15年度目黒区立幼稚園、小・中学校連合展覧会

会期：2004(平成16)年1月17日～2月1日(14日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ 区民ギャラリー

主催：目黒区立幼稚園長会、目黒区立小学校長会、目黒区立中学校長会、目黒区立心身障害学級設置校長会、
目黒区教育会、目黒区美術館、目黒区教育委員会

担当学芸員：降旗千賀子

同時開催：米国ジョージア州チェロキー郡児童・生徒絵画展

本展は、目黒区立の幼稚園・小学校・中学校（心身障害学級を含む）の幼児・児童・生徒が平成15年度の授業中に創作した作品を展示し、区立学校における美術教育の成果を区民の方々に紹介するとともに、この鑑賞を介して子どもたちの情操を陶冶することを目的に開催した。

また、同時期に区民ギャラリーで、米国ジョージア州チェロキー郡の児童・生徒絵画展を開催した。

●リーフレット

寸法：A3（六つ折）

内容：ごあいさつ（主催者）／心身障害学級／幼稚園／小学校・図工／小学校・書写／中学校・美術／中学校・書写／米国ジョージア州チェロキー郡児童・生徒絵画展／展示室案内

●ポスター

サイズ：B3

●出品数：4,083点

（内訳…幼稚園：217点、小学校：2,152点、中学校：1,192点、身障学級：445点、興津学園：25点、米国：52点）



ポスター

目黒区美術館所蔵作品展〈でいてーるノ誘惑〉

会期：2004年2月11日(水)～4月11日(日)(53日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール

主催：目黒区美術館

担当学芸員：山田敦雄

同時開催：建築家・村野藤吾のディテール〈旧千代田生命本社ビル写真/図面〉展

作品をみるよろこびについて 思い起こすとき、わたくしたちの言葉と思考はひとまとまりの、ある出会い、経験へと向かう。一方、細部についての記憶はあいまいで頼りなく、指の間からこぼれる砂粒のように小さく遠ざかり、消えてゆくかのようなようである。

この展覧会は、そんな作品の細部（ディテール）にあらためて目を向けようとする試みで、絵画、立体などの約40点の作品に美術館の側から、それぞれ「全体の印象にとってとても大切な細部」を提示した。

●ポスター

サイズ：B2

●チラシ

サイズ：A3

建築家・村野藤吾のディテール〈旧千代田生命本社ビル写真/図面〉展

会期：2004年2月11日(水)～4月11日(日)53日間

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

協力：村野・森建築事務所、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、コダック株式会社、株式会社シグマラボ、株式会社イーストウエスト

担当学芸員：降旗千賀子

同時開催：目黒区美術館所蔵作品展〈でいてーるノ誘惑〉

平成15年1月、目黒区役所は村野藤吾（1891-1984）設計の旧千代田生命本社ビル（昭和41年）へ目黒区総合庁舎として移転した。その際、文化財としての価値を尊重しながら改修が行われ、村野の意匠の重要な部分は当時の姿をとどめている。

本展では、オフィスビルとしてユニークな設計が施されたこの建築の美しい細部（ディテール）を、写真家・新良太氏が改修前に撮影した写真約80点と、村野の丁寧な手仕事を感じられる建築図面31点で紹介した。

●カタログ

寸法：21×29.7cm

ページ数：31ページ

内容：開催にあたって／図版・図面・解説／展示室風景／出品リスト／千代田生命本社ビルから目黒区総合庁舎へー祝福された建物（降旗千賀子）／千代田生命保険相互会社本社社屋・1966年建築概要／目黒区総合庁舎・2003年建築概要／村野藤吾略年譜／建築リスト

印刷物デザイン：大森裕二

●ポスター

サイズ：B2

●チラシ

サイズ：A3

●主な関連催事

- 連続村野藤吾を語る－目黒区総合庁舎開庁1周年記念
講師：長谷川 堯（武蔵野美術大学教授・建築評論家）
 - 建築家村野藤吾のあゆみと旧千代田生命本社ビル（現目黒区総合庁舎）
日時：2004年2月27日(金) 18：00～20：00 目黒区総合庁舎大会議室
 - 村野藤吾の《和風》－オフィスビル空間のやすらぎ
日時：2004年3月7日(日) 13：30～15：30 目黒区美術館ワークショップ
 - 村野藤吾の装飾と意匠－ディテールの魅力
日時：2004年3月21日(日) 13：00～15：30
- 村野藤吾建築めぐり（日比谷から日本橋）
日時：4月3日(土) 10：30～16：00
- 旧千代田生命本社ビル（目黒区総合庁舎）建築ガイドツアー
日時：2月20日(金)、3月14日(日)、26日(金)、4月10日(土)
15：00～16：30

*ワークショップは、教育普及事業に記載



会場風景



ポスター

出品リスト

出品リストは、01-01から10-11までが〈1. 写真〉、11-01から11-31までが〈2. 建築図面〉、12-01から12-03までの〈3. 家具等〉で構成する。

1. 写真は全て新良太氏撮影。出品番号とタイトルの順に記載。すべて目黒区美術館所蔵。建築図面は、出品番号の下、図面の書き込みに忠実にタイトル、素材、寸法（縦×横cm）、日付の順。所蔵は全て京都工芸繊維大学美術工芸資料館で、最後に収蔵整理番号（AN番号）を付している。

家具類については品名のみ記載。

1. 写真

01-01 客用玄関車寄せ<南口玄関>	02-09 旧クラブ棟から池を見る	04-05 広場から小会議室、南口玄関棟方向を見る	06-03 ガラスモザイクのディテール
01-02 駒沢通りからの景観(改修後)1	02-10 旧社員食堂(現喫茶室)側から別館方向を見る	04-06 小会議室の窓	06-04 エントランスホールから階段を見る
01-03 駒沢通りからの景観(改修後)2	03-01 本館と別館をつなぐ渡り廊下	04-07 広場の外縁、階段状のテラスから池ごしに本館を見る	06-05 岩田藤七によるガラスブロック袖壁
01-04 築山への登り口、玄関棟方向を見る	03-02 渡り廊下	04-08 東口、屋内駐車場横の階段(1階)	06-06 東側の柱/窓/池の関係を見る1
01-05 広場から本館正面を見る	03-03 渡り廊下1階から西側を見る	05-01 T字形の庇と柱	06-07 東側の柱/窓/池の関係を見る2
02-01 <アルキャスト>-アルミ合金鋳物縦格子1	03-04 渡り廊下2階内部	05-02 硝子の風よけ室	06-08 西側の窓ごしに光庭を見る
02-02 光を吸収するバルコニー	03-05 築山から別館を見る	05-03 車寄せ庇	06-09 西側窓と2連十字照明器具を見る
02-03 <アルキャスト>-アルミ合金鋳物縦格子2	03-06 東側入り口と別館、妻面	05-04 庇の右側、林立する柱の脚元	06-10 西側窓と3組の2連十字照明器具
02-04 池につながるアルキャスト脚元(1階)	03-07 東側入り口と別館妻面脚元	05-05 庇の先端ごしに別館を見る	07-01 エントランス奥の階段ホール
02-05 アルキャスト脚元(1階)	04-01 本館屋上から広場、築山を見る	05-06 庇ごしに玄関棟パラベットを見る1	07-02 4階から階段を見る、釣り材に組込まれた照明
02-06 空に向かう本館と塔屋のパラベット	04-02 築山を囲む<せせらぎ>から玄関棟を見る	05-07 庇ごしに玄関棟角パラベットを見る2	07-03 繊細な加工による手摺りの造形1
02-07 小会議室(2階)前庭のパラベット	04-03 小会議室外側、<せせらぎ>の水源1	06-01 エントランスホールから南口玄関を見る(3階)	07-04 繊細な加工による手摺りの造形2
02-08 小会議室前庭パラベットごしに1階の池を見る	04-04 小会議室外側、<せせらぎ>の水源2	06-02 作野旦平によるガラスモザイクのトップライト	07-05 軽快な階段の上り口-改修後

07-06 2階から階段を見上げる	08-06 軒を支える鉄柱	09-05 平格子天井（現しじゅうからの間）	10-04 役員室廊下（4階）
07-07 釣り材組み込みの照明器具ディテール	08-07 枘形手水鉢	09-06 天井、出角のディテール	10-05 役員室ホール（4階）
07-08 4階から見た階段	08-08 茶庭の蹲い	09-07 平格子・簾網天井と十字型照明（現はぎの間）	10-06 特別応接室（4階）
08-01 茶庭と茶室	08-09 茶庭の吹き抜け	09-08 “円窓床”のある和室（現はぎの間）	10-07 特別応接室部分
08-02 半割竹を模した金属葺きの軒先	09-01 旧社員食堂側から和室（クラブ棟）を見る1	09-09 クラブ棟 和室、茶室に向かう通路	10-08 特別食堂
08-03 光天井のある茶室内部	09-02 旧社員食堂側から和室（クラブ棟）を見る2	10-01 オフィスの廊下	10-09 サンゴを用いた壁付け時計
08-04 露地から見上げる－コンクリートと杉板の網代天井	09-03 床の間（現しじゅうからの間）	10-02 旧社員食堂内部	10-10 役員室時計
08-05 明かり窓のリズム	09-04 池に面したモダンな障子（現しじゅうからの間）	10-03 役員室入口（4階）	10-11 テッセラ貼り

2. 建築図面

11-1 2F平面図 鉛筆／トレーシングペーパー 75.5×104.8 1964.10.08 AN 5013-91	11-4 S.T. [1階スケッチ] 鉛筆／和紙 56.8×83.4 － AN 5016-36	11-7 玄関庇詳細図 鉛筆／トレーシングペーパー 59.2×84.5 1965.07 AN 5014-59	11-10 “B,F A1鋳物足元現寸図2” 鉛筆／和紙 54.6×78.4 － AN 5014-83
11-2 I-J間断面図 鉛筆／トレーシングペーパー 56.8×81.4 1963.06.24 AN 5014-05	11-5 S.T. [断面スケッチ] 鉛筆／和紙 28.2×42.1 － AN 5013-83	11-8 本館矩計図（南面） 鉛筆／トレーシングペーパー 82.4×55.6 1964.11.09 AN 5014-14	11-11 小会議室廻りパラベット詳細 鉛筆／トレーシングペーパー 54.7×78.0 1965.11.13 AN 5014-79
11-3 本館立面図、H-I間断面図 鉛筆／トレーシングペーパー 57.6×81.0 1963.06.24 AN 5014-08	11-6 玄関庇詳細図 鉛筆／トレーシングペーパー 59.2×84.4 1965.07 AN 5014-58	11-9 “B,F A1鋳物足元現寸図1” 鉛筆／和紙 54.5×78.4 1965.05.04 AN 5014-82	11-12 小会議室廻りパラベットKB原寸1 鉛筆／和紙 80.0×55.0 1965.11.13 AN 5014-80

11-13 別館塔屋パラベツト廻り 鉛筆／和紙 39.8×55.5 — AN 5018-38	11-18 玄関ホール西側サッシ廻り現寸 詳細図 鉛筆／和紙 39.8×55.6 1965.09.29 AN 5014-52	11-23 G階段手すり廻り詳細現寸 鉛筆／和紙 79.7×55.1 1965.07.29 AN 5013-25	11-28 千代田生命本社役員ホール (2) 安楽椅子×12 鉛筆／トレーシングペーパー 28.2×39.2 — AN 5021-75
11-14 玄関附近詳細図ソノ2 鉛筆／トレーシングペーパー 58.2×83.1 1964.12.22 AN 5014-22	11-19 G階段展開図 鉛筆／トレーシングペーパー 55.0×78.8 1965.11.04 AN 5013-01	11-24 S.T.〔茶室平面スケッチ〕 鉛筆／和紙 39.8×55.0 — AN 5019-59	11-29 家具姿図 肘かけ椅子 鉛筆／トレーシングペーパー 28.2×39.2 — AN 5022-46
11-15 アクリドーム (玄関棟) 玄関ホ ール 鉛筆／和紙 80.1×55.9 1965.11.26 AN 5014-34	11-20 G階段 鉛筆／トレーシングペーパー 70.9×84.0 1965.09.16 AN 5013-28	11-25 茶室展開及詳細図 鉛筆／トレーシングペーパー 55.0×80.5 1965.12.13 AN 5019-57	11-30 S.T.〔家具姿図 ソファ〕 鉛筆／トレーシングペーパー 28.2×39.2 — AN 5022-54
11-16 ウサギ外部姿図 鉛筆／和紙 40.1×56.0 1965.12.10 AN 5014-54	11-21 G階段天井伏1F天井 鉛筆／トレーシングペーパー 54.9×79.8 1966.02.24 AN 5013-20	11-26 S.T.〔茶室吹抜部立面スケッチ〕 鉛筆／和紙 55.2×80.0 — AN 5019-63	11-31 S.T.〔家具姿図 ソファ〕 鉛筆／トレーシングペーパー 28.2×39.2 — AN 5022-55
11-17 玄関ホール西側サッシ姿図 鉛筆／和紙 39.8×55.4 1965.09.30 AN 5014-51	11-22 G階段釣材2 鉛筆／和紙 79.8×55.5 1965.12.01 AN 5013-13	11-27 千代田生命本社3階役員ホール (1) 卓子×3 鉛筆／和紙 28.2×39.2 — AN 5021-74	

3.その他の資料

12-01 応接セット 目黒区	12-02 大理石テーブル 目黒区美術館	12-03 時計 (役員室、応接室、エレベーター ホール) 目黒区
-----------------------	----------------------------	---

[平成16年度]

小林孝亘展—終わらない夏

会期：2004年4月24日(土)～6月20日(日) (50日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

協賛：株式会社資生堂

協力：西村画廊

担当学芸員：家村珠代

頭角を現しつつある同時代作家の作品を積極的に紹介し、サポートをしていくということを、美術館のひとつの重要な役割であるとする当館のシリーズ。『青木野枝展—軽やかな、鉄の森』(2000年)に継ぐ第2弾として開催した。

小林孝亘(1960年、東京生まれ)は、愛知県立芸術大学卒業後、文化庁の芸術家在外研修員としてバンコクに滞在し、その後いったんは帰国するものの、現在もバンコクと東京を往き来しながら油絵の制作を続ける、現在最も注目される作家のひとりである。

東京の美術館での初めての本格的な個展となる本展では、自らの姿を投影した潜水艦を描き続けることから始まった初期作品から<Sunbather>シリーズの新作に至る大型の油彩作品を中心に、これまであまり展示されることのなかったドローイングや制作ノートも紹介した。大型作品であるがゆえにこれまで一堂に会することのなかった初期の代表作を、当館の一番大きな展示室に、天窗からの自然光を利用してゆったりと展示をおこなったり、夢を見るシリーズの展示空間を、できるだけ私的な空間となるように仕上げたりと、描かれたテーマにそった展示構成を工夫し、好評を得た。

●カタログ

寸法：20×25.1cm

ページ数：135ページ

内容：ごあいさつ／謝辞／目次／断章・小林孝亘—その瞬膜のような [平出隆]／すぐ裏側の死 [藤原新也+小林孝亘]／小林孝亘の絵画 [家村珠代]／図版／制作ノート／略歴／展覧会暦／主要参考文献／油彩画作品総目録／

Like a Third Eyelid-Fragments for Takanobu Kobayashi/Death Just

Around the Corner/The Paintings by Takanobu Kobayashi/作品リスト

デザイン：笠原香苗(コギト)

●ポスター

サイズ：B2

デザイン：笠原香苗(コギト)

●チラシ

サイズ：A4

デザイン：笠原香苗(コギト)

●関連催事

*対談：舟越桂(彫刻家)+小林孝亘 「ひとを描くこと」

5月16日(日) 15:00~17:00

*対談：丸山直文(画家)+小林孝亘 「描き続けることについて」

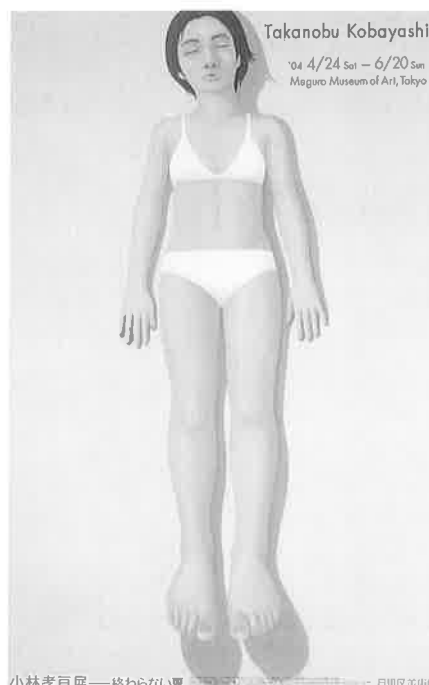
5月29日(土) 15:00~17:00

*作家によるギャラリー・トーク

5月8日(土)・6月5日(土) 14:00~15:00

*ワークショップ「小林孝亘による小林孝亘の世界ツアー」

5月22日(土)・23日(日) 全2日間 10:30~16:00



小林孝亘展—終わらない夏
ポスター

● 主要関連記事

- ・生田誠「[展評] 心地よい視覚体験を考える」産経新聞（夕刊）2004年5月4日
- ・「[今週の1点]「小林孝亘－終わらない夏」から」毎日新聞（夕刊）2004年5月5日
- ・菅原教夫「[文化・美術] 変わらぬ光への関心」読売新聞（夕刊）2004年5月6日
- ・「[美・博ビックアップ] 心の軌跡を描く」朝日新聞（夕刊）2004年5月13日
- ・Robert Reed「[ART] Eyes painted shut－Kobayashi's figures seen but unseeing」THE DAILY YOMIURI 2004年5月13日
- ・宝玉正彦「日常風物への共感映す」日本経済新聞（夕刊）2004年5月19日
- ・中村隆夫「[美術] 中間領域の扉としての魅力」東京新聞（夕刊）2004年5月22日
- ・大西若人「[文化・美術] 全身で味わう「光の絵画」」朝日新聞（夕刊）2004年5月26日
- ・島敦彦「[審美のアンゲル] バンコクで掴んだ濃密な時間」産経新聞（関西版・夕刊）2004年5月26日
- ・三田晴夫「[文化 批評と表現] 至福のまどろみ誘う画面」読売新聞（夕刊）2004年6月1日
- ・藤田一人「[美術] 微妙な人間関係の距離－小林孝亘展と野口里佳展」公明新聞（夕刊）2004年6月1日
- ・「小林孝亘展－終わらない夏」新美術新聞 2004年6月1日
- ・前田恭二「[回顧2004美術] 他分野との連携活発に－新しい方向模索する美術館」読売新聞（夕刊）2004年12月8日
- ・三田晴夫「[文化 批評と表現] 美術この1年 目立った草間の活動－美術館“冬の時代”に新たな胎動も」毎日新聞（夕刊）2004年12月14日
- ・「小林孝亘展－終わらない夏」『美術家名鑑』2005年刊 美術倶楽部
- ・山口裕美「散歩がてらに楽しめる展覧会」『CALIBER』Vol.0 2004年 p.39
- ・「[アーティスト訪問8] 南の彼方、その先にある光を求めて－言葉では説明できない何かが生えるところ、そこを信じて描いていく」『gallery』2004年5月号 pp.15-19
- ・山口裕美「タイ発、押しの強さを必要としない新しい表現」『Gainer』2004年5月号 p.103
- ・家村珠代「小林孝亘－終わらない夏」『東京アートナビ』2004年6月 p.7
- ・南仲坊「なんとなく好き・・・」『BRIO』2004年6月号 p.171
- ・「[今月のランキング]」『gallery』2004年6月号 pp.116-117
- ・「[今月のランキング]」『gallery』2004年7月号
- ・「[my favorite things] 接点の研究－ミツバチの巣箱の模型」『芸術新潮』2004年7月号 p.5,7
- ・布施英利「アジアの太陽の光」『ブレーン』2004年9月号 p.121
- ・斉藤博美「心地よくけだるい空気に包まれる空間」『びあ』2004年4月26日号 p.249
- ・「新日曜美術館－アートシーン」NHK 2004年5月23日
- ・「テレビ美術館」フジテレビ 2004年5月30日



会場風景

出品リスト

No.	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	所蔵先
1	Alone	1989	油彩、綿布張りパネル	182×227	作家
2	Fruit	1991	油彩、綿布張りパネル	250×364	作家
3	A Slide	1992	油彩、綿布張りパネル	150×400	作家
4	Class Room	1993	油彩、綿布張りパネル	200×200	高橋龍太郎氏
5	River	1994	油彩、綿布張りパネル	240×495	作家
6	Water Fountain	1994	油彩、綿布張りパネル	182×245	祥壽齋・吉田勝広氏
7	Tree	1995	油彩、綿布張りパネル	300×400	ギャルリ・ブス
8	House Dog	1995	油彩、綿布張りパネル	270×270	国立国際美術館
9	Beehive	1995-96	油彩、綿布張りパネル	275×275	高橋龍太郎氏
10	House	1996	油彩、綿布張りパネル	280×250	栃木県立美術館
11	Gate	1997-98	油彩、カンヴァス	285×400	広島市現代美術館
12	Small Death-小さな死	2001	油彩、カンヴァス	75×90	浅野浩氏
13	Dream, dreaming us-私たちを夢見る夢	2001	油彩、カンヴァス	85×85	神谷信寛氏
14	Dream, dreaming us-私たちを夢見る夢	2001	油彩、カンヴァス	80×80	個人
15	Dream, dreaming us-私たちを夢見る夢	2001	油彩、カンヴァス	85×77	神谷信寛氏
16	Small Death-小さな死	2001-02	油彩、カンヴァス	70×70	小池保氏
17	Small Death-小さな死	2001-02	油彩、カンヴァス	70×70	西村智恵子
18	Small Death-小さな死	2001-02	油彩、カンヴァス	50×50	個人
19	Dream, dreaming us-私たちを夢見る夢	2001-02	油彩、カンヴァス	40×40	祥壽齋・吉田勝広氏
20	Dream, dreaming us-私たちを夢見る夢	2001-02	油彩、カンヴァス	90×90	祥壽齋・吉田勝広氏
21	Sunbather 1	2003	油彩、カンヴァス	160×182	西村画廊
22	Sunbather 5	2003	油彩、カンヴァス	128×80	敦賀信弥氏
23	Sunbather 7	2003	油彩、カンヴァス	130.3×97	個人
24	Sunbather 8	2003	油彩、カンヴァス	194×259	高橋龍太郎氏
25	Sunbather 9	2004	油彩、カンヴァス	220×194	作家
26	Sunbather 10	2004	油彩、カンヴァス	194×259	作家
27	Untitled	1988	墨・パステル、紙	25.5×36	山崎信哉氏
28	Untitled	1988	墨・鉛筆、紙	28.5×35.5	山崎信哉氏
29	Untitled	1988	木炭、紙	109×78.5	山崎信哉氏
30	Untitled	1993	パステル、イラストボード	101×89	山崎信哉氏
31	Dream	1993	リトグラフ	25.5×35 (32×45)	目黒区美術館
32	Shell	1993	リトグラフ	25.5×35 (32×45)	目黒区美術館
33	Globe Jungle	1993	リトグラフ	35×25.5 (45×32)	目黒区美術館
34	Television	1993	リトグラフ	25.5×25.5 (45×32)	目黒区美術館
35	Class Room	1993	リトグラフ	35×25.5 (45×32)	目黒区美術館
36	Untitled	1994	インク・アクリル・コラージュ、紙	19×19	山崎信哉氏
37	River	1994	リトグラフ	25×60 (30×65)	目黒区美術館
38	Ant	1995	インク・ペン、紙	17.9×17.5	白井佐多子氏
39	House Dog	1996	銀箔・インク・アクリル、紙	17.5×15.2	株式会社トライヤード
40	Untitled	1996	インク・水性ペン、紙	12.9×18.5	尾崎清子氏
41	Untitled	1996	水性ペン・油性ペン・インク、紙	12.9×18.5	個人
42	Dish (with chopsticks)	1996	インク、紙	12×17 (35×25)	山崎信哉氏
43	Fly	1996	インク、紙	17×11.5	山崎信哉氏
44	Flies	1996	インク、紙	17.5×21.5	三木俊治氏
45	Untitled	1996	インク、紙	10.7×18.5	西村画廊
46	Honey Pot	1996	インク・フェルトペン、紙	18.5×13	西村画廊
47	Mosquito	1997	インク・油彩、紙	20×13.5	村馬亘氏
48	Gecko	1997	インク・鉛筆、紙	21.5×14	黒田悠子氏
49	A Wall	1997	インク・油彩、紙	12×15 (35×25)	尾崎清子氏
50	Gecko	1997	インク・アクリル、紙	29.5×21.5	山口ひとみ氏
51	Water Pistol	1998	インク・鉛筆、紙	34×22 (50×40)	杉田和美氏
52	Light	1998	インクなど、紙	9.5×12.5 (34×26)	
53	Television	1998	インク、紙	11.5×14 (13.5×18.5)	石井克治氏
54	Rider	1999	インク・色鉛筆、紙	12×9 (35×25)	浅野浩氏
55	Shower	1999	インク・アクリル、紙	15.5×10.5 (37.5×27.5)	菊地俊一氏

No.	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	所蔵先
56	Mosquito	1999	エッチング	8×8 (35×28)	西村画廊
57	Night Window (Night Butterfly)	2000	油彩・オイルパステル、紙	25.2×19.2	個人
58	Night Window (Gecko and Night Butterfly)	2000	油彩・オイルパステル、紙	35.2×28	小林貴彦氏
59	Fire Works	2000	インク、紙	64.2×34.6	菊地俊一氏
60	Gecko	2001	インク、紙	23.9×19.3	湯浅祥平氏

色の博物誌・黄 地の力 & 空の光^{くう}

会期：2004年7月17日(土)～9月8日(水) (46日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

助成：財団法人地域創造、芸術文化振興基金

協賛：コダック株式会社

協力：株式会社日光園、ラフォーレエンジニアリング株式会社

担当学芸員：降旗千賀子

当館では、人と色との関わりを“色材”からとらえる「色の博物誌」と題した企画をシリーズとして開催してきた。

'92年の青から始まり、'94年の赤、'98年の白と黒、'01年の緑と続き、今回は基本色としては最後になる黄色を取り上げ、本シリーズの最終回として開催した。

●カタログ

寸法：22.7×28cm

ページ数：88ページ

内容：ごあいさつ／再・中心としての黄色 [前田富士男]／Part1 黄色の力／Part2 黄色の意味と価値／Part3 素材と色材－黄／黄色絵の具小史－油絵の具を中心に [森田恒之]／黄色の話－地の力・空(くう)の光 [降旗千賀子]／黄－主な色材解説／作家略歴／作品リスト／催し物・教育プログラム／2003年プレ・ワークショップ黄色

印刷物デザイン：大石一義

●ポスター

サイズ：B2

●チラシ

サイズ：A4

●関連催事

* 光のタトゥー 街中にあふれる光の模様

講師：川端博哉 (グラフィックデザイナー)

7月18日(日) 15:00～17:00

* 黄色の秘密－花と花粉の中に発見

講師：田中 肇 (フラワーエコロジスト・花と昆虫の研究者)

7月31日(土) 13:30～15:30

* 「色の博物誌」をふりかえって

講師：降旗千賀子 (目黒区美術館学芸員)

8月6日(金) 18:00～20:00

* ワークショップは、教育普及事業に記載



会場風景



ポスター

出品リスト

作品番号	作家名	作品名	制作年／時代	技法／素材	寸法(cm)
Part1. 黄色の力 [黄色の存在—大地の力・物質の力]					
1-1	栗田宏一	Soil Library 1000 yellows	2004	土、ガラスピン、コルク	インスタレーション 15m
1-2	Wolfgang Laib	The Rice Meals／米の食事	1998	18枚の真鍮の皿(直径各30cm)、米、花粉	インスタレーション 30cm×10m
1-3	村岡三郎	左側の壁—Sulphur	1992	鉄、硫黄、熱、洗面台	180×600×20
1-4	ニルス・ウド	マロニエの葉、柳	1985	イルフォクローム	74×74
1-5	ニルス・ウド	リンゴ／Apples	1985	イルフォクローム	74×74
1-6	ニルス・ウド	ナラの葉／Oak leaves	1986	イルフォクローム	100×100
1-7	ニルス・ウド	インドの寺院	1994	イルフォクローム (4点)	60×40.59×59
1-8	若林奮	硫黄の味方／On Sulphur's Side	2000	鉄、硫黄	インスタレーション
【空(くう)の光】					
1-9	伊庭靖子	Untitled	1999	油彩／キャンバス	各123.0×96.0 (3点組)
1-10	伊庭靖子	Untitled	2000	油彩／キャンバス	183.0×148.0
1-11	片山雅史	皮膜2001	2001	顔料、アクリル、キャンバス	194.5×194.5
1-12	片山雅史	皮膜2001	2001	顔料、アクリル、キャンバス	194.5×194.5
1-13	鈴木省三	静かな呼吸 II	1994～95	油彩、オイルスティック、リキッドゴム／キャンバス、パネル	180.0×130.0
1-14	鈴木省三	地面からの空IV	1997	油彩、オイルスティック、リキッドゴム／キャンバス、パネル	180.0×130.0
1-15	高島野十郎	菜の花	未詳	油彩／キャンバス	53.2×72.8
1-16	武内鶴之助	雲 7	1908～12	パステル／紙	18.5×25.5
1-17	武内鶴之助	雲 8	1908～12	パステル／紙	17.6×25.5
1-18	武内鶴之助	雲 2	1908～12	パステル／紙	12.6×17.8
1-19	武内鶴之助	風景	1908～12	パステル／紙	18.2×24.3
1-20	武内鶴之助	夕景	1908～12	パステル／紙	18.4×25.4
1-21	徳永雅之	Untitled	1991	アクリル絵具(エアープラシ)／紙／8点構成	各57×39
1-22	徳永雅之	光景12	2003	アクリル絵具(エアープラシ)／雲肌麻紙、パネル	162.0×130.0
1-23	Ingrid Weber	Untitled (c-yellow)	1997	油、顔料／キャンバス	37.0×37.0×4.0
1-24	Ingrid Weber	Untitled (c-yellow, vag-green)	2004	油、顔料／キャンバス	37.0×37.0×4.0
1-25	山中信夫	マンハッタンの太陽13	1980	ピンホール写真・紙	20.4×25.4
1-26	山中信夫	マンハッタンの太陽18	1980	ピンホール写真・紙	20.4×25.4
1-27	山中信夫	マンハッタンの太陽32	1980	ピンホール写真・紙	20.4×25.4
1-28	山中信夫	東京の太陽 4	1980～81	ピンホール写真・紙	25.4×30.5
1-29	山中信夫	東京の太陽 65	1980～81	ピンホール写真・紙	25.4×30.5
1-30	吉田重信	Infinite Light 2004	2004	カッティングシート、自然光	—
1-31	吉田重信	Bio-Morph 2004	2004	光ファイバー(ひまわり集光機)、自然光	—
1-32	吉田重信	虹ヲアツメル 2004	2004	鏡、水、太陽光線	—

Part2. 黄色の意味と価値

【皇帝黄】

2-1	龍袍 黄地龍に十二章文様刺繍 (未仕立て)	19世紀末(中国／清、光緒期頃)	刺繍／絹	300×156 (布寸)
2-2	黄色牡丹花瓶	18世紀 (中国／清・乾隆期)	ガラス「乾隆」	h15.3、径6.9
2-3	黄色花鳥文鉢 (一对)	18世紀 (中国／清)	ガラス	h7.1、径左15.8、右16.0
2-4	黄色吉祥模様鼻煙壺1	19世紀 (中国／清)	ガラス	h6.6
2-5	黄色鼻煙壺2	19世紀 (中国／清)	ガラス	h5.7
2-6	黄色鼻煙壺3	19世紀 (中国／清)	ガラス	h5.5
2-7	黄色吉祥文鼻煙壺4	19世紀 (中国／清)	ガラス	h6.0
2-8	黄色鼻煙壺5	19世紀 (中国／清)	ガラス	h4.8
2-9	黄釉暗花 牡丹文碗 (一对)	19世紀 (中国／清、嘉慶)(景德鎮窯) 大清嘉慶年製		h6.9×14.0
2-10	青花黄彩 柘榴文盤	19世紀 (中国／清)(景德鎮窯)		口径27.0
2-11	澤部清五郎 満州国宮殿装飾 龍文御壁掛1／10試案	1941年	顔料着色／絹本	39.0×97.8
2-12	褥 (1組)	19世紀末 (チベット)	ウール	71.0×73.0、81.0×83.0

作品番号	作家名	作品名	制作年／時代	技法／素材	寸法(cm)
2-13		黄櫨染袍 - 明治天皇御料	20世紀 (明治時代)	黄櫨染頭文紗穀織	丈175.0、幅209.5
2-14		黄色木綿地雲に牡丹尾長鳥と菊模様衣装	19世紀 (琉球／第二尚氏時代)	紅型／木綿	丈129.1、衿58.2
2-15		黄色木綿地松皮菱菊椿扇子団扇模様ど衣	19世紀 (琉球／第二尚氏時代)	紅型／木綿	丈97.0、衿62.1
2-16		黄地井桁崩し模様絣着物	20世紀 (明治時代)	絣／絹	丈129.1、58.2
2-17		鬱金平絹地扇面松竹菊文様振袖	18世紀 (江戸時代)	友禅染／平絹地	丈140.0 衿68.5
2-18		羅紗羽織		羅紗	丈107.0、衿66.8
2-19		鼈甲簪・櫛・笄	19世紀 (江戸時代)		櫛10.0、笄26.0

Part3. 素材と色材－黄

【植物・鉱物・動物】

3-1	硫黄	シシリア島	2.0
3-2	硫黄	メキシコ産	1.5
3-3	硫黄溶岩	北海道斜里郡斜里町知床硫黄山	36.0
3-4	硫黄	群馬県草津町草津鉱山	12.0
3-5	硫黄 (結晶)	群馬県吾妻郡嬭恋村万座温泉	2.0
3-6	オーピメント	北海道札幌市定山溪	9.0
3-7	オーピメント	群馬県下仁田西ノ牧鉱山	10.0
3-8	オーピメント	中国湖南省石門	10.0
3-9	オーピメント	中国湖南省石門	12.0
3-10	鉄明礬石	群馬県吾妻郡六合村群馬鉄山	10.0
3-11	黄土／(高師小僧)	大阪府吹田市待兼山	7.5
3-12	硫カドミウム鉱	大分県大野郡緒方町尾平鉱山	4.0
3-13	紅鉛鉱	タスマニア (オーストラリア)	14.0
3-14	自然金	アメリカ、カリフォルニア州イーグルネスト	1.0
3-15	自然金	岐阜県荘川村大平鉱山	4.0
3-16	砂金	鹿児島県菱刈町菱刈鉱山	—
3-17	砂金	北海道深川市鷹泊	—
3-18	黄鉛鉱	メキシコ	9.0
3-19	黄銅鉱	秋田県大館市釈迦内鉱山	8.0
3-20	方解石	イタリア・トスカーナ	2.5
3-21	黄鉄鉱	ボリビア	20.0
3-22	黄鉄鉱	スペイン	13.0
3-23	ガンボージ (塊、色見本)	絵具 (絵画・染色)	30
	顔料 密陀僧	—	—
	顔料 黄土 11種	イタリア、フランス、日本ほか	—
	琥珀	—	—
3-24	膠	—	—
3-25	乾性油 (リンシード、ポピー)	—	—
	樹脂、コーパル、松脂	—	—
	蜜蝋	—	—
	松脂	—	—
3-26	顔料 石黄1, 2	—	—
	顔料 雄黄	—	—
3-27(1~11)	黄色染料素材〔植物〕、染色布〔西洋〕	タマネギ、ケルセチロン、 エニシダ、マリーゴールド、 ペルシャンベリー、フスチ ック、サフラン、セイタカ アワダチソウ、キンセンカ、 キバナモクセイソウ、ウエ ルド	—
3-28(1~7)	黄色染料素材、染織原毛	ウイコン、カリヤス、キハ ダ、エンジュ、ズミ、タマ ネギ、ベニバナ	—

日本近代洋画への道—山岡コレクションを中心に—

会期：2004(平成16)年10月9日(土)～12月5日(日)(50日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール

主催：目黒区美術館、産経新聞社

特別協力：(財)日動美術財団

協賛：日の丸自動車学校

担当学芸員：佐川夕子

江戸時代後期から明治時代にかけて、わが国にはさまざまな西洋文明とともに、西洋絵画の技法や表現が日本にもたらされたが、本展では、その日本近代洋画の揺籃期を考察する上で、貴重な宝庫でありつつも永らく「幻のコレクション」とされてきた山岡孫吉氏(1888-1962年、ヤンマーディーゼルの創業者)の収集品を中心に、わが国における近代洋画の歩みを紹介した。

江戸時代後期に新たな画風を示した司馬江漢らをはじめ、洋画の迫真性のなかに芸術表現としての価値を見いだした高橋由一ら明治初期の画家たちの作品、欧米に学び日本の画家たちに新鮮な刺激を与えた五姓田義松や黒田清輝、さらには藤島武二や青木繁など、当時を代表する画家たちの作品を展覧。来日した外国人のビゴーやワーグマンの絵画や、山下りん、ラギーザ玉、渡辺幽香ら初期の女性画家の作品を見られることも本展の見所のひとつとなった。

また、本展に併せた催事として、作品や技法についての講演会やワークショップを開催した。

●カタログ

寸法：28.9×22.5cm

ページ数：144ページ

編集：笠間日動美術館

発行：日動出版

内容：「はじめに」(長谷川徳七)／「山岡コレクションの公開に寄せて」(山岡淳男)／「『幻の』山岡コレクション」(青木茂)／作品図版／作家解説／作品リスト

●ポスター

サイズ：B2

デザイン：スペースM(三宅ひさこ)

●チラシ

サイズ：A4

デザイン：スペースM(三宅ひさこ)

●関連催事参加者募集チラシ

サイズ：A4(片面)

デザイン：スペースM(三宅ひさこ)

●主要関連記事

- ・「[美の森へ] 日本近代洋画への道—山岡コレクションを中心に—」
『週刊新潮』10月28日号 第49号第41号/通巻2470号 新潮社
- ・山盛英司「[文化/芸能] 一展逸点 東禅寺浪士乱入図 チャールズ・ワーグマン(1832～91)」
『朝日新聞』(夕刊) 2004年11月13日 10面
- ・(武)「[今週の一点] 房州根本海岸=「日本近代洋画への道」から」
『毎日新聞』2004年11月24日 26面

●関連催事

講演会 1

「山岡コレクションについて」

講師：青木 茂（文星芸術大学教授、町田市立国際版画美術館長）

日時：10月16日（土）午後2時30分～4時00分

講演会 2

「明治初期の油絵技法 ～高橋由一を中心に～」

講師：歌田眞介（東京藝術大学名誉教授、早稲田大学客員教授）

日時：10月31日（日）午後1時30分～4時30分

ワークショップ

《Aコース》「油絵のキャンバスづくり」

講師：渡辺一郎（修復研究所21 所長）

日時：11月7日（日）、14日（日）[2日間] 午前10時30分～午後4時30分

対象・定員：高校生以上 30名

《Bコース》「模写 ～由一の“鯛図”を描く」

講師：渡辺一郎（修復研究所21 所長）

日時：11月21日（日）、28日（日）[2日間] 午前10時30分～午後4時30分

対象・定員：ワークショップ《Aコース》を受講する方 20名

こどもサポートプラン

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）

日時：11月6日（土）午前10時30分～午後4時30分

対象・定員：週休2日制が導入されている小中学生 20名



会場風景



ポスター

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	備考
1	伝 信方	達磨図	不詳	墨、彩色・紙	37.0×51.6	
2	小川破笠	海魚	1740	墨、彩色・紙	23.3×40.2	
3	円山応挙	三十三間堂/支那風景	不詳	木版・手彩色・紙	各21.0×27.0	
4	伝 円山応挙	港の図	1767	墨、彩色・絹	36.0×31.5	
5	司馬江漢	風景	不詳	彩色・絹	49.0×68.0	
6	司馬江岷	七里ヶ浜	不詳	泥絵具・絹	27.3×50.5	
7	司馬道士	雲仙牧羊図	不詳	泥絵具・絹	30.7×43.6	
8	亜欧堂田善	浅草観音図	不詳	銅版画	25.0×52.0	
9	伝 小野田直武	ライオン図	不詳	墨、彩色・紙	90.0×33.1	
10	鋏形 斎	洋人舞踏図	不詳	墨・紙	16.1×25.1	
11	立原杏所	鳴門風景	不詳	墨、彩色・絹	60.0×95.5	
12	安田雷洲	外国戦争図 (ナポレオン戦争図)	不詳	墨、彩色・紙	54.5×69.3	
13	小林安治	芸妓立姿	不詳	墨、彩色・絹	78.5×35.1	
14	作者不詳	婦女弹琴図	不詳	泥絵具・紙	50.5×44.5	
15	長崎系洋風画 (伝 平賀源内)	薬草会議図	不詳	油彩・画布	45.7×90.2	
16	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人図	不詳	油彩・画布	50.1×31.3	
17	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人館	不詳	泥絵具・紙	104.5×58.3	
18	長崎系洋風画 (作者不詳)	異人夫妻図	不詳	油彩・画布	158.0×83.5	
19	泥絵 (作者不詳)	外桜田風景	不詳	泥絵具・紙	31.6×47.0	
20	泥絵 (作者不詳)	高縄風景	不詳	泥絵具・紙	31.6×47.3	
21	泥絵 (作者不詳)	向島風景	不詳	泥絵具・厚紙	25.0×52.5	
22	高橋由一	丁髷姿の自画像	1866-67	油彩・画布	48.0×38.8	
23	高橋由一	三偉人 リンカーン、ピスマルク、ガリバルディ	不詳	墨、淡彩・絹	36.3×28.6	
24	高橋由一	青年図	1874	水彩・紙	19.0×18.0	
25	高橋由一	住吉神社	1874	水彩・紙	28.0×20.0	
26	高橋由一	猫図	不詳	水彩・紙	21.5×25.0	
27	高橋由一	本牧海岸	1877	油彩・画布	51.7×63.9	
28	高橋由一	品川海晏寺紅葉図	1880	油彩・画布	45.7×69.9	
29	高橋由一	鮭図	1879-80	油彩・板	85.9×24.6	
30	高橋由一	鯛図	不詳	油彩・板	54.6×75.9	
31	伝 高橋由一	蔬菜図	不詳	油彩・紙	48.0×69.5	
32	エドワルド・キヨソーネ	川上操六中将図	1896	木炭・紙	59.0×45.5	
33	チャールズ・ワーグマン	廣東夫人	1858	鉛筆・紙	16.3×14.7	
34	チャールズ・ワーグマン	支那夫人	1858	水彩・紙	21.0×13.5	
35	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	水彩・紙	17.0×21.5	
36	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	水彩・紙	20.3×22.0	
37	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	1858	水彩・紙	22.7×25.2	
38	チャールズ・ワーグマン	廣東風景	不詳	水彩・紙	10.0×13.2	
39	チャールズ・ワーグマン	東禅寺浪士乱入図	不詳	水彩・紙	34.8×51.5	
40	チャールズ・ワーグマン	百合図	1878	油彩・画布	81.7×60.5	
41	チャールズ・ワーグマン	浦の風景	不詳	油彩・画布	45.5×76.5	
42	チャールズ・ワーグマン	桶屋	不詳	油彩・厚紙	19.5×25.0	
43	チャールズ・ワーグマン	武士の図	不詳	油彩・紙	41.6×32.4	
44	チャールズ・ワーグマン	小漁夫	不詳	油彩・画布	38.0×22.8	
45	チャールズ・ワーグマン	ワーグマン夫人像	不詳	水彩・紙	44.9×30.9	
46	チャールズ・ワーグマン	外国美人図	不詳	水彩・絹	36.3×24.6	
47	チャールズ・ワーグマン	漫画 (伍長は答えた。憲兵さん、あなたの言う通り)	不詳	鉛筆・水彩・紙	24.0×24.0	
48	チャールズ・ワーグマン	藩士扮装図	不詳	水彩・紙	27.5×22.5	
49	チャールズ・ワーグマン	明治の侍	不詳	水彩・紙	22.5×18.7	
50	チャールズ・ワーグマン	長久保風景	不詳	鉛筆、水彩・紙	23.7×29.5	
51	チャールズ・ワーグマン	富士山遠望	不詳	水彩・紙	23.0×30.5	
52	チャールズ・ワーグマン	上州風景	不詳	鉛筆・水彩・紙	23.5×30.7	
53	チャールズ・ワーグマン	東海道風景	不詳	水彩・紙	17.8×25.5	
54	チャールズ・ワーグマン	信州風景	不詳	水彩・紙	25.8×35.5	

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	備考
55	チャールズ・ワグマン	箱根風景	不詳	水彩・紙	22.1×29.5	
56	チャールズ・ワグマン	七里ヶ浜	不詳	水彩・紙	22.1×36.1	
57	チャールズ・ワグマン	新潟風景	1870	水彩・紙	23.5×30.0	
58	チャールズ・ワグマン	車夫	不詳	鉛筆・紙	14.0×19.3	
59	橋本雅邦	武官測量図	不詳	水彩・紙	24.4×26.5	
60	徳川慶喜	池畔風景	不詳	油彩・画布	17.6×33.0	
61	百武兼行	ブルガリアの女	1882	油彩・画布	93.3×71.3	
62	床次正精	城	不詳	油彩・画布	55.1×94.6	
63	床次正精	港湾図	不詳	油彩・画布	20.1×50.1	
64	田村宗立	人物	1880	油彩・画布	33.8×24.0	
65	小林清親	雪の日	不詳	硝子絵	30.0×40.0	
66	国沢新九郎	英国風景 (初春郊外)	不詳	油彩・画布	49.9×60.4	
67	権田守吉	各藩武士扮装図 (模写・近藤正純原画) 画帳	不詳	墨、彩色・紙	各37.8×26.0	18図収録
68	安達吟光	日本橋界隈	不詳	油彩・画布	34.5×52.0	
69	ラファエル・コラン	婦人像	不詳	油彩・画布	38.0×46.3	
70	ラファエル・コラン	洋装の婦人像	不詳	鉛筆・紙	26.5×21.5	
71	ラファエル・コラン	裸婦	不詳	鉛筆・紙	50.0×32.0	
72	ラファエル・コラン	横たわる裸婦	不詳	コンテ・紙	20.6×45.0	
73	山本芳翠	内海風景	不詳	油彩・板	19.4×36.2	
74	山本芳翠	日の出	不詳	油彩・板	20.5×33.0	
75	山本芳翠	婦女横笛	不詳	油彩・画布	31.5×42.4	
76	山本芳翠	鬼と少女	不詳	油彩・紙	44.4×33.4	
77	山本芳翠	琉球風景 (A)	1887-88	油彩・厚紙	46.9×37.0	
78	山本芳翠	琉球風景 (B)	1887-88	油彩・厚紙	46.8×37.0	
79	山本芳翠	けしと小鳥	1892	油彩・画布	40.6×55.6	
80	山本芳翠	菊図	不詳	油彩・画布	86.5×42.8	
81	山本芳翠	議會スケッチ (A)	1887	墨、彩色・紙	35.5×45.0	
82	山本芳翠	議會スケッチ (B)	1887	墨、彩色・紙	35.0×44.6	
83	川村清雄	双鶏の図	不詳	油彩・板	45.8×87.5	
84	川村清雄	花の宴	不詳	油彩・板	48.7×92.5	
85	川村清雄	パルスレイケン像	不詳	油彩・画布	65.2×53.1	
86	川村清雄	ベニス風景	不詳	油彩・板	91.2×45.3	
87	渡辺文三郎	多摩夕照図	1878	テンペラ・紙	40.7×53.5	
88	五姓田義松	少年法界坊	不詳	水彩・紙	31.5×24.2	
89	五姓田義松	富嶽図	不詳	油彩・画布	26.3×48.6	
90	五姓田義松	七里ヶ浜	不詳	油彩・画布	30.3×45.8	
91	五姓田義松	塩原風景	不詳	油彩・画布	34.3×48.6	
92	五姓田義松	駿河湾風景	不詳	油彩・画布	42.6×72.8	
93	五姓田義松	人形の着物	1883	油彩・画布	151.5×115.6	
94	浅井 忠	外国婦人図 (臨模)	1877	木炭・紙	52.0×35.0	
95	渡辺幽香	溪流	不詳	油彩・画布	33.7×91.2	
96	渡辺幽香	房州根本海岸	1897	油彩・画布	49.5×95.0	
97	小山正太郎	山村嫁女 (A)	不詳	油彩・紙	26.0×33.5	
98	小山正太郎	山村嫁女 (B)	不詳	油彩・画布	19.1×26.9	
99	小山正太郎	吉野山遠望	不詳	油彩・画布	33.6×45.7	
100	小山正太郎	山村風景	不詳	油彩・画布	33.5×45.5	
101	小山正太郎	御嶽村遠望	1892	鉛筆、水彩・紙	27.0×44.8	
102	小山正太郎	相模川右岸小倉村水車	1906	鉛筆・紙	44.0×28.0	
103	小山正太郎	妙義山	不詳	鉛筆・紙	44.0×28.0	
104	小山正太郎	五旬起臥セシ若狭丸ノ甲板	1900	鉛筆、水彩・紙	24.0×46.0	
105	小山正太郎	入間川西岸笹井村渡頭	1892	鉛筆・紙	25.0×43.5	
106	小山正太郎	皆野村	1908	鉛筆・紙	26.3×46.0	
107	小山正太郎	青梅風景	1902	油彩・画布	56.9×41.8	
108	曾山幸彦	お茶の水風景	不詳	油彩・画布	21.7×30.5	
109	山下りん	ヤコブ像 (使徒之図)	不詳	油彩・画布	71.2×58.0	

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	備考
110	山下りん	機密の晩餐	不詳	油彩・画布	27.3×48.7	
111	高橋源吉	小金井の桜	不詳	鉛筆、水彩・紙	22.0×34.9	
112	彭城貞徳	静物	不詳	油彩・画布	73.5×150.5	
113	ジョルジュ・ピゴー	万歳	不詳	油彩・画布	30.2×19.3	
114	ジョルジュ・ピゴー	武士の子	不詳	銅版画	18.5×12.0	
115	ジョルジュ・ピゴー	普仏戦争	1893	石版画	40.7×56.0	
116	高橋勝蔵	桑港海岸	1893	水彩・紙	23.4×35.7	
117	高橋勝蔵	函館港	1901	水彩・紙	32.5×48.8	
118	ラグーザ玉	蓮池	不詳	油彩・画布	30.5×91.0	
119	ラグーザ玉	保津川の溪流	不詳	油彩・画布	65.0×99.8	
120	合田 清	晩婦 (模写・エミール・アダン原画)	1886	木口木版	19.6×30.5	
121	松岡 寿	ホルバインの「エラスムス」臨模	不詳	鉛筆・紙	44.0×35.3	
122	二世 五姓田芳柳	富嶽図	不詳	油彩・画布	45.2×91.6	
123	二世 五姓田芳柳	上杉景勝一笑図	1890	油彩・画布	各56.0×41.2	
124	二世 五姓田芳柳	天津事変	不詳	油彩・絹	124.7×86.0	
125	二世 五姓田芳柳	大楠公	不詳	油彩・画布	130.4×96.0	
126	二世 五姓田芳柳	婦人像 (井田讓婦人)	不詳	油彩・画布	53.0×45.5	
127	二世 五姓田芳柳	自画像	不詳	油彩・画布	53.0×45.5	
128	長原孝太郎	百合図	1899	油彩・画布	67.0×39.4	
129	東城鉦太郎	平壤攻略図	不詳	油彩・絹	124.8×86.0	
130	東城鉦太郎	旅順開城	1911	油彩・画布	75.8×60.8	
131	中村不折	男の裸体	1902頃	油彩・画布	80.5×59.5	
132	中村不折	裸体図	不詳	油彩・画布	125.5×93.2	
133	中村不折	老漁夫	1906	油彩・画布	166.9×97.0	
134	中村不折	日本海海戦	不詳	油彩・画布	72.8×60.7	
135	久米桂一郎	習作	1889	油彩・画布	57.9×30.3	
136	山内愚僊	住吉神社	1902	油彩・画布	54.0×81.8	
137	黒田清輝	裸体	1889	木炭・紙	62.5×46.0	
138	黒田清輝	清国負傷兵広島着	1894	ペン、墨・紙	23.8×14.8	
139	黒田清輝	昔語り (画稿)	1896頃	木炭・紙	60.8×46.3	
140	黒田清輝	黒田清兼像	1907	油彩・画布	81.1×65.4	
141	黒田清輝	浜の丘 稲村ヶ崎海岸の積藁	1910頃	油彩・板	18.0×13.9	
142	藤島武二	観桜会	不詳	油彩・画布	32.1×41.0	
143	藤島武二	ヴェニス風景	1908-09	油彩・板	23.6×32.8	
144	岡 精一	搜索	1889	油彩・画布	87.0×49.4	
145	佐久間文吾	天神境内	不詳	油彩・紙	34.5×26.0	
146	佐久間文吾	北野神社	不詳	油彩・画布	61.4×100.7	
147	湯浅一郎	緑陰	1900	油彩・画布	91.0×70.0	
148	湯浅一郎	妓生の図	1913	油彩・画布	46.6×37.8	
149	岡田三郎助	彫刻師	1890-91	油彩・画布	64.5×45.9	
150	岡田三郎助	久保田米齋像	1901	木炭・紙	17.1×13.4	
151	鈴木烏川	能舞図「末廣」	不詳	油彩・板	37.2×91.0	
152	揚忠三郎	北野天神之図	1889	油彩・画布	79.5×66.5	
153	須田輝洲	唐犬と鶏	不詳	泥絵具・板	各24.5×17.9	
154	須田輝洲	牡丹と水仙	不詳	油彩・板	37.8×74.8	
155	白滝幾之助	霧のテーマズ河 (模写・ターナー原画)	不詳	油彩・画布	53.5×71.2	
156	満谷国四郎	かりそめの悩み	1907	油彩・画布	133.7×88.5	
157	満谷国四郎	かぐや姫	1909	油彩・画布	150.7×115.5	
158	満谷国四郎	東京慈恵医院行啓	不詳	油彩・画布	65.6×60.6	
159	鹿子木孟郎	日露役奉天入城	不詳	油彩・画布	72.0×55.5	
160	和田英作	田園風景	1897頃	油彩・画布	29.5×45.7	
161	和田英作	近江石山寺紫式部	1925	油彩・画布	52.9×41.1	
162	渡辺審也	百姓	不詳	油彩・画布	60.7×42.6	
163	渡辺審也	猿曳図	1898	油彩・画布	124.3×91.2	
164	渡辺審也	供待図	1909	油彩・画布	100.0×72.8	

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	備考
165	北 蓮蔵	静物	不詳	油彩・画布	60.0×80.4	
166	北 蓮蔵	静物(鼓)	不詳	油彩・板	53.0×60.0	
167	山本森之助	島原城址	不詳	油彩・画布	42.8×64.5	
168	小林鍾吉	舞妓図	1909	油彩・画布	45.1×33.0	
169	青木 繁	裸体	1903	木炭、赤チョーク・紙	63.3×46.5	
170	青木 繁	二人の少女	1909	油彩・画布	60.5×45.5	
171	橋本邦助	姉妹	不詳	油彩・画布	120.5×90.9	
172	中村 彝	肖像	1908	油彩・板	42.6×28.3	
173	司馬江漢	房州利根河今井渡	不詳	墨・絹	43.5×54.3	
174	荒木寛畝	春芳争妍図	1884	彩色・絹	38.0×54.5	
175	曾山幸彦	洋装少年	不詳	コンテ・紙	36.5×28.5	
175	高橋勝蔵	カリフォルニア風景	1892	水彩・紙	25.0×35.8	

目黒区の美術 2004

会期：2004年12月11日(土)～2005年1月16日(日)(25日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

目黒区美術館は、1987年の開館以来、目黒区内在住・在勤の作家の方々の近作を中心に、その活動振りを紹介し続けている。

2001年度からは、目黒区美術家協会、目黒区書作家協会、目黒区美芸作家協会と目黒区美術館（故・福永重樹館長）との話し合いで、上記三団体と日本書道専門学校在勤作家の方々の美術界の活性化に対する貢献を紹介してきた。

今回は、上記区内美術団体に属さない美術家、工芸作家、写真作家の方々のここ数年間の、国内外を問わない活動振りを現在進行形でご紹介できるよう、作家自薦の近作・新作を中心に構成した。

●出品目録

寸法：A4中綴じ（ホッチキス留）

ページ数：40ページ

●ポスター

サイズ：B3（チラシ表裏を連続した画面）

材質：マットコート紙、135kg

●チラシ

サイズ：A4（表裏カラー）

材質：マット紙、90kg

●案内はがき

サイズ：大判細み、約11.0cm×約19.0cm（既成サイズ）

材質：片面ミラーコート紙、180kg



会場風景



ポスター

出品リスト

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
1.	赤穴宏				
	1、海の記憶	2003(平成15)	油彩・キャンバス	162.0×194.0	第67回新制作展(2003年9月18日～10月3日、東京都美術館)
	2、集合の卓	2004(平成16)	油彩・キャンバス	130.0×162.0	第3回起展(2004年7月14日～20日、日本橋高島屋)
	3、朱色の思い出	2004(平成16)	油彩・キャンバス	130.0×130.0	第3回起展(2004年7月14日～20日、日本橋高島屋)
2.	甘利明子				
	1、アトリエ('00-5月・黒いストール)	2000(平成12)	油彩・キャンバス	145.5×112.5	第14回日洋展(2000年6月28日～7月2日(第1期)、上野の森美術館)
	2、アトリエ('01-5月・白いコスチューム)	2001(平成13)	油彩・キャンバス	145.5×112.5	第15回日洋展(2001年8月22日～30日(第3期)、東京都美術館)
	3、アトリエ2004・5裸婦立ポーズ(背)	2004(平成16)	油彩・キャンバス	145.5×112.5	第18回日洋展(2004年8月21日～30日(第3期)、東京都美術館)
3.	有本一美				
	1、PLEROMA 1	2003(平成15)	油彩・キャンバス	72.7×60.6	有本一美展(2004年10月11日～16日、藍画廊)
	2、PLEROMA 2	2003(平成15)	油彩・キャンバス	72.7×60.6	有本一美展(2004年10月11日～16日、藍画廊)
	3、PLEROMA 3	2002(平成14)	油彩・キャンバス	40.9×31.8	有本一美展(2002年9月30日～10月5日、藍画廊)
	4、PLEROMA 4	2002(平成14)	油彩・キャンバス	40.9×31.8	有本一美展(2002年9月30日～10月5日、藍画廊)
	5、PLEROMA 5	2004(平成16)	油彩・キャンバス	40.9×31.8	有本一美展(2004年10月11日～16日、藍画廊)
	6、PLEROMA 6	2004(平成16)	油彩・キャンバス	40.9×31.8	有本一美展(2004年10月11日～16日、藍画廊)
4.	到津(イトウヅ) 伸子				
	1、He lives in this town, and she also.....	2003(平成15)	油彩・キャンバス	101.5×84.2	個展(2004年4月1日～4月28日、アトスペース・サンカイビ)
	2、Lola(oil painting)	2003(平成15)	油彩・キャンバス	33.3×24.5	
	3、顔	2004(平成16)	油彩・キャンバス	33.3×24.2	
	4、Blue shadow	2004(平成16)	油彩・キャンバス	91.0×72.7	
5.	太田冬美				
	1、記憶の岸辺	1997(平成9)	アクリル・キャンバス	89.4×130.3	両洋の眼・現代絵画展(1998年2月3日～8日、日本橋三越本店7階ギャラリー)
	2、幻の城	2003(平成15)	アクリル・キャンバス	112.1×162.1	太田冬美展(2003年11月10日～18日、名古屋日動画廊)
	3、雨のあとの風景	2002(平成14)	アクリル・キャンバス	89.4×130.3	両洋の眼・現代絵画展(2003年2月8日～18日、松坂屋美術館)
6.	久保南海代				
	1、水シリーズ 2004	2004(平成16)	アクリル・麻紙	180.0×240.0	久保南海代個展(2004年7月5日～10日、村松画廊)
	2、水シリーズ 2004	2004(平成16)	アクリル・麻紙	180.0×240.0	久保南海代個展(2004年7月5日～10日、村松画廊)
	3、水シリーズ	2003(平成15)	岩絵の具・リキテックス・アクリル・ガッシュ・麻紙	180.0×240.0	久保南海代個展(2004年7月5日～10日、村松画廊)
7.	佐野美喜男				
	1、原風景 1	2003～4(平成15～16)	油彩・キャンバス	100.0×72.7	第64回美術文化展(2004年3月26日～4月4日、東京都美術館)
	2、夢	2001～3(平成13～15)	油彩・板	97.0×130.3	第63回美術文化展(2003年3月26日～4月4日、東京都美術館)
	3、原風景 2	2003～4(平成15～16)	油彩・キャンバス	100.0×72.7	第64回美術文化展(2004年3月26日～4月4日、東京都美術館)
8.	水藤澄子				
	1、'00-B	2000(平成12)	油彩・キャンバス	90.9×116.7	モダンアート協会明日への展望(2000年9月12日～17日、埼玉県立近代美術館)
	2、'03-A	2003(平成15)	油彩・キャンバス	162.1×162.1	第53回モダンアート協会(2003年4月6日～22日、東京都美術館)
	3、'04-C	2004(平成16)	油彩・キャンバス	116.7×90.9	
9.	瀬本容子				
	1、新生	2000(平成12)	板絵(テンペラ)	91.7×116.7	瀬本容子展(2000年4月20日～26日、日本橋高島屋美術画廊)
	2、朝のひびき	2003(平成15)加筆	板絵(テンペラ)	116.7×91.0	瀬本容子新作展(1994年4月11日～20日、みゆき画廊、銀座)
	3、夢を運ぶ時	2003(平成15)加筆	板絵(テンペラ)	91.0×65.2	瀬本容子展(2003年5月21日～27日、日本橋高島屋6階美術画廊)

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
10.	鶴岡義雄				
1.	世紀末	1997(平成9)	油彩・キャンバス	130.3×162.0	春季二科展(1997年3月12日～17日、銀座松屋)
2.	ワイングラス	2002(平成14)	油彩・キャンバス	162.0×130.3	春季二科展(2002年2月27日～3月4日、銀座松屋)
3.	韻	2003(平成15)	油彩・キャンバス	162.0×130.3	春季二科展(2003年3月4日～10日、銀座松屋)
11.	名畑成進				
1.	奥利根の雪景色	1993(平成5)	油彩・キャンバス	60.6×72.7	
2.	房総の海	1996(平成8)	油彩・キャンバス	53.0×65.2	
3.	夏の函館	1998(平成10)	油彩・キャンバス	50.0×60.6	
4.	夏の奥入瀬	1998(平成10)	油彩・キャンバス	50.0×60.6	
5.	紅葉の富士	2003(平成15)	油彩・キャンバス	53.0×65.2	
12.	平松譲				
1.	潮騒	1999(平成11)	油彩・キャンバス	162.0×112.0	第31回日展(1999年11月2日～24日、東京都美術館)
2.	犬吠崎	2001(平成14)	油彩・キャンバス	162.0×130.3	第34回日展(2002年11月2日～24日、東京都美術館)
3.	めぐろの坂	2004(平成16)	油彩・キャンバス	100変形	平松譲展(2004年4月20日～26日、日本橋三越本店6階美術特選画廊)
13.	柳瀬俊泰				
1.	「First Love」 in my room	2002(平成14)	油彩・キャンバス	162.0×130.3	第16回日洋展(2002年4月23日～5月7日、東京都美術館(以後巡回))
2.	an earthly paradise with ACTRESS & DOG	2003(平成15)	油彩・キャンバス	130.3×162.0	第17回日洋展(2003年6月24日～29日、東京都美術館(以後巡回))
3.	Somewhere in Japan	2004(平成16)	油彩・キャンバス	130.3×162.0	第18回日洋展(2004年7月27日～8月1日、大阪市立美術館(以後巡回))
14.	岩壁富士夫				
1.	海風	1982(昭和57)	紙本着色	227.3×181.8	第67回院展(奨励賞)(1982(昭和57)年9月1日～18日、東京都美術館)やまと生命所蔵
2.	雨にけふるマルポーン	1993(平成5)	紙本着色	130.3×194.0	第78回院展(1993年9月1日～16日、東京都美術館)茅ヶ崎市美術館蔵
15.	宮廻正明				
1.	水雲火	2002(平成14)	紙本着彩(屏風装)	180.0×360.0	第88回院展(2002年9月1日～16日、東京都美術館)
2.	壁中書	2003(平成15)	紙本着彩	65.2×91.0	Duet 2003 道 アップス・キアロスタミ 宮廻正明(2003年11月11日～17日、日本橋三越6階美術特選画廊)
3.	光量壳	2003(平成15)	紙本着彩	65.2×91.0	Duet 2003 道 アップス・キアロスタミ 宮廻正明(2003年11月11日～17日、日本橋三越6階美術特選画廊)
16.	水谷仁美				
1.	雨のあと	1994(平成6)	透明水彩絵具・紙(パネル張)	97.0×160.0	第53回水彩連盟展(会員賞受賞)(1994年3月26日～4月4日、東京都美術館)
2.	花の舞い	1994(平成6)	透明水彩絵具・紙(ワトソン紙パネル張)	116.7×116.7	第40回一陽展(1994年9月18日～10月3日、東京都美術館)
17.	井上勝江				
1.	豊麗 2	2002(平成14)	木版・紙	60.5×91.5	第52回日本版画院展(2002年6月11日～22日、東京都美術館)
2.	豊麗 4	2003(平成15)	木版・紙	60.5×90.5	第53回日本版画院展(2003年6月11日～22日、東京都美術館)
3.	想	2004(平成16)	木版・紙	60.5×91.5	第54回日本版画院展(2004年6月11日～22日、東京都美術館)
4.	豊麗 5	2004(平成16)	木版・紙	60.5×91.5	
18.	船坂芳助				
1.	My Space and My Dimension-M515	2004(平成16)	木版・シルクスクリーン・紙	60.5×45.5	船坂芳助・黒田茂樹二人展(2004年8月2日～7日、養清堂画、銀座)

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
2、	My Space and My Dimension - M514	2004(平成16)	木版・シルクスクリーン・紙	60.5×45.5	船坂芳助・黒田茂樹二人展(2004年8月2日～7日、養清堂画廊、銀座)
3、	My Space and My Dimension - M519	2004(平成16)	木版・シルクスクリーン・紙	60.5×45.5	船坂芳助・黒田茂樹二人展(2004年8月2日～7日、養清堂画廊、銀座)
4、	My Space and My Dimension - M513	2004(平成16)	木版・シルクスクリーン・紙	60.5×45.5	船坂芳助・黒田茂樹二人展(2004年8月2日～7日、養清堂画廊、銀座)
5、	My Space and My Dimension - M535	2004(平成16)	木版・シルクスクリーン・紙	60.5×45.5	船坂芳助・黒田茂樹二人展(2004年8月2日～7日、養清堂画廊、銀座)
19.	小関はるみ				
1、	エキゾチック・ナイト	1998(平成10)	アクリル絵具	103.0×72.8	第83回二科展(1998年9月1日～16日、東京都美術館)
2、	ドリーム・フォー・オアシス	1999(平成11)	アクリル絵具	103.0×72.8	第84回二科展(1999年9月1日～16日、東京都美術館)
3、	グリーンビューティー	2001(平成13)	アクリル絵具	103.0×72.8	第86回二科展(2001年9月1日～16日、東京都美術館)
4、	サマー イン フラワーアイランド	2002(平成14)	アクリル絵具	103.0×72.8	第87回二科展(2002年9月1日～16日、東京都美術館)
20.	石内都				
1、	SCAR - 1964, illness # 19	1998(平成10)	ゼラチンシルバープリント	76.5×111.0(額寸)	芸術と環境 - エコロジーの視点から(1998年10月8日～11月24日、国立国際美術館)
2、	25MAR1916	2000(平成12)	ゼラチンシルバープリント	111.0×76.5(額寸)	震災・記憶・芸術 その日に - 5年後、77年後(2000年9月1日～10月15日、川崎市岡本太郎美術館)
3、	SCAR - 1955, illness # 45	2002(平成14)	ゼラチンシルバープリント	111.0×76.5(額寸)	石内都展Mothers(2002年5月20日～6月15日、C.スクエア中京大学アートギャラリー)
4、	25MAR1916	2000(平成12)	ゼラチンシルバープリント	111.0×76.5(額寸)	震災・記憶・芸術 その日に - 5年後、77年後(2000年9月1日～10月15日)川崎市岡本太郎美術館
5、	SCAR - 1945.war.# 46	2002(平成14)	ゼラチンシルバープリント	111.0×76.5(額寸)	フォトネシア/光の記憶、時の果実(2002年7月3日～14日、那覇市民ギャラリー)
6、	SCAR - 1976.accident # 13	1998(平成10)	ゼラチンシルバープリント		芸術と環境 - エコロジーの視点から(1998年10月8日～11月24日、国立国際美術館)
21.	大石芳野				
1、	グラクさん(13歳) ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・木パネル	90.0×70.0(額装)	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
2、	ソミアさん(11歳)と母親ルグルさん(30歳) ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・額装	70.0×70.0	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
3、	カリマさん(10歳) ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・木パネル	100.0×70.0	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
4、	アビブくん(12歳) ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・額装	70.0×70.0(額装)	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
5、	アミナさん(12歳) ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・額装	70.0×70.0(額装)	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
6、	ハシーブくん(13歳) ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・額装	70.0×70.0(額装)	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
7、	コドラトくん ～アフガニスタン戦禍を生きぬく	2002～3(平成14～15)	カラープリント・木パネル	70.0×70.0(額装)	アフガニスタン戦禍を生きぬく(2003年11月7日～13日、富士フォトサロン東京(以後巡回))
22.	柴田敏雄				
1、	GUNNISON, COUNTY, COLORADO, USA	2000(平成12)	ゼラチンシルバープリント	91.4×114.3	INTERIOR, EXTERIOR(2000年10月21日～11月18日、イル・テンポ、東京)
2、	PARK COUNTRY, COLORADO, USA	2000(平成12)	ゼラチンシルバープリント	114.3×91.4	TOSHIO SHIBATA, FALLING WATERS(2003年3月8日～4月26日、LAURENCE MILLER GALLERY、ニューヨーク)
3、	山梨県中巨摩郡芦安村	1999(平成11)	ゼラチンシルバープリント	114.3×91.4	
4、	神奈川県愛甲郡清川村	1997(平成9)	ゼラチンシルバープリント	91.4×114.3	
5、	山口県岩国市	1999(平成11)	ゼラチンシルバープリント	114.3×91.4	TOSHIO SHIBATA, NEW WORKS(2001年11月24日～1月5日、GALLERY LUISOTTI、サンタモニカ、カリフォルニア)

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
23.	平野正樹				
1.	沈黙の価値(15点組)	2003~4(平成15~16)	デジタルカラープリント	42.0×30.0(×15点)	
24.	小林達也				
1.	夢む	2002(平成14)	黒御影・白御影石	65.0×35.0×165.0	一陽展(2002年9月19日~10月3日、東京都美術館)
2.	時空の環	2003(平成15)	赤御影・白御影石	45.0×33.0×145.0	一陽展(2003年9月19日~10月3日、東京都美術館)
3.	夢み	2004(平成16)	白御影石	86.0×78.0×165.0	一陽展(2004年9月18日~10月3日、東京都美術館)
25.	嶋康子				
1.	想Ⅲ	1999(平成11)	革	162.3×54.5×3.5	第31回日展(1999年11月2日~24日、東京都美術館)
2.	微風	2000(平成12)	革	78.5×46.0×4.0	第14回ト・オーロ展(2000年5月26日~31日、有楽町マリオン朝日ギャラリー)
3.	風に向って	2001(平成13)	革	124.1×90.7	第40回記念日本現代工芸美術展(2001年3月26日~4月4日、東京都美術館)
26.	栗田敬子				
1.	燦燦	2002(平成14)	金箔地(袋帯)	430.0×35.0 (部分展示)	栗田敬子刺繍展「AQUA・水の世紀へ想いをこめて」(2004年3月1日~8日、銀座和光ホール)
2.	麗華	2002(平成14)	ブルー箔地(袋帯)	430.0×35.0 (部分展示)	栗田敬子刺繍展「AQUA・水の世紀へ想いをこめて」(2004年3月1日~8日、銀座和光ホール)
3.	東風	2003(平成15)	三色箔地(袋帯)	430.0×35.0 (部分展示)	栗田敬子刺繍展「AQUA・水の世紀へ想いをこめて」(2004年3月1日~8日、銀座和光ホール)
4.	カルマンの華	2004(平成16)	箔地(袋帯)	430.0×35.0 (部分展示)	栗田敬子刺繍展「AQUA・水の世紀へ想いをこめて」(2004年3月1日~8日、銀座和光ホール)
5.	パイシスからアクエリアスへ	2003(平成15)	金箔地(袋帯)	430.0×35.0 (部分展示)	栗田敬子刺繍展「AQUA・水の世紀へ想いをこめて」(2004年3月1日~8日、銀座和光ホール)
28.	行吉志津枝				
1.	グラスゴーの窓Ⅱ	2004(平成16)	シルク、ロンシャン地	163.0×150.0	第43回日本現代工芸美術展(2004年3月26日~4月4日、東京都美術館)
2.	グラスゴー・室内	2004(平成16)	シルク、ロンシャン地	145.0×150.0	第36回日展(2004年11月2日~24日、東京都美術館)
29.	安河内敦子				
1.	飛翔	2001(平成13)	ガラス	20~30×40~ 55×30~50 (3点組み作品)	アートクラフトフェスティバル in 安曇野(2002年9月14日~19日、豊科近代美術館、長野)
2.	海と丘と	2003(平成15)	ガラス・ミラー、鉛線、鉛シート	90.0×90.0	(社)日本建築美術工芸協会・15周年記念展一技・業一(2004年2月6日~12日、江戸東京博物館)
30.	井高帰山				
1.	本窯彩風神雷神水指	2004(平成16)	磁器	17.5×径19.0	井高帰山新作陶芸展(2004年9月22日~28日、小田急百貨店本館6Fアートサロン)
2.	本窯彩風景壺	2004(平成16)	磁器	25.3×径24.5	井高帰山新作陶芸展(2004年9月22日~28日、小田急百貨店本館6Fアートサロン)
3.	柿の木坂(武蔵野シリーズ) 昭和10年頃の風景	2004(平成16)	彩磁	42.5×径35.0	
4.	谷頭(田頭)の池周辺(目黒区西北境 武蔵野シリーズ)昭和10年頃の風景	2004(平成16)	磁器	40.0×径35.0	
5.	本窯彩鳶の絵壺	2004(平成16)		28.0×径24.5	陶燿会第28回展(小田急本館6Fアートサロン)
31.	井高通				
1.	青盗水指	2004(平成16)	磁土、赤土	径18.0×17.0	
2.	青盗茶碗	2004(平成16)	磁土、赤土	径13.5×7.5	
3.	米色盗茶碗	2004(平成16)	磁土、赤土	径13.5×7.5	
4.	青盗花生け	2004(平成16)	磁土、赤土	径15.0×28	

No.	制作者・作品名	制作年	素材・技法	寸法(cm)	
32.	小山弘治				
1.	白磁金彩蓋物	2004(平成16)	白磁	18.0×12.0×h.13.0	小山弘治作品特集 (2004年6月15日～28日、日本橋三越本店)
2.	白磁花器	2004(平成16)	白磁	22.0×20.0×h37.0	小山弘治作品特集 (2004年6月15日～28日、日本橋三越本店)
3.	白磁紅彩壺	2004(平成16)	白磁	25.0×25.0×h25.0	
4.	白磁金彩蓋物	2004(平成16)	白磁	11.0×9.0×16.0	
5.	白磁台鉢	2004(平成16)	白磁	43.0×43.0×18.0	
33.	安原喜孝				
1.	いにしえのしらべ	2000(平成12)	炻器(陶磁器)	170.0×82.0×h.17.0	第34回日展(2000年11月2日～24日、東京都美術館)
2.	管のエチュード	2001(平成13)	炻器(陶磁器)	16.0×80.0×h18.0	第33回日展・特選 (2001年11月2日～24日、東京都美術館)
3.	管の花挿	2004(平成16)	炻器(陶磁器)	16.0×86.0×17.5	第43回日本現代工芸美術展 (2004年3月26日～4月4日、東京都美術館)

めぐろの子どもたち展

平成16年度目黒区立幼稚園、小・中学校連合展覧会

会期：2005(平成17)年1月22日～2月6日(14日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ 区民ギャラリー

主催：目黒区立幼稚園長会、目黒区立小学校長会、目黒区立中学校長会、目黒区立心身障害学級設置校長会、
目黒区教育会、目黒区美術館、目黒区教育委員会

担当学芸員：矢内みどり

同時開催：米国ジョージア州チェロキー郡児童・生徒絵画展、中国北京市崇文区児童・生徒書画作品展

本展は、目黒区立の幼稚園・小学校・中学校（心身障害学級を含む）の幼児・児童・生徒が平成16年度の授業中に創作した作品を展示し、区立学校における美術教育の成果を区民の方々に紹介するとともに、この鑑賞を介して子どもたちの情操を陶冶することを目的に開催した。

また、同時期に区民ギャラリーで、米国ジョージア州チェロキー郡の児童・生徒絵画展、及び中国北京市崇文区児童・生徒書画作品展を開催した。

●リーフレット

寸法：A3（六つ折）

内容：ごあいさつ（主催者）／心身障害学級／幼稚園／小学校・図工／小学校・書写／中学校・美術／中学校・書写／米国ジョージア州
チェロキー郡児童・生徒絵画展／中国北京市崇文区児童・生徒書画作品展／展示室案内

●ポスター

サイズ：B3

●出品数：3,897点

（内訳…幼稚園：136点、小学校：2,034点、中学校：1,163点、心身障害学級：399点、米国：60点、崇分区：105点）



会場風景



ポスター

所蔵作品展ⅨⅧ 「川村清雄」を知っていますか？ 初公開・加島コレクション展

会期：2005年2月16日(水)～4月10日(日)(47日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール

主催：目黒区美術館

担当学芸員：山田敦雄、降旗千賀子

近代洋画史に、弧高の存在感を示す川村清雄（1852～1934）。2003年、その貴重な未公開作品が目黒区美術館に寄贈され、旧蔵者にちなんでこれらの作品に「加島コレクション」という名称を冠した。コレクションの内容は、「村上彦四郎」（村上義光錦御旗奪還図）をはじめいずれも作品としての魅力と価値をかねそなえた30余点。本展では、すでに当館で収集していたイタリア時代の初期作品などをまじえ、「加島コレクション」全作品を初めて公開した。

●カタログ

寸法：22.4×29.7cm

ページ数：54ページ

内容：謝辞／ごあいさつ／展覧会について [山田敦雄]／加島虎吉と「至誠堂」 [降旗千賀子]／図版／会場写真／略年譜／出品作品リスト／参考図版

印刷物デザイン：福士峰生

●ポスター

サイズ：B3

●チラシ

サイズ：A4

●関連催事

[講談+ギャラリートーク]

講談・太平記より+ギャラリートーク「村上彦四郎」屏風をめぐって

講談：宝井琴調

ギャラリートーク：山田敦雄

開催日：3月5日(土)

[講演]

川村清雄の技法～展示作品の修復現場から

講師：山中和人（修復者・修復研究所21）

開催日：3月6日(日)

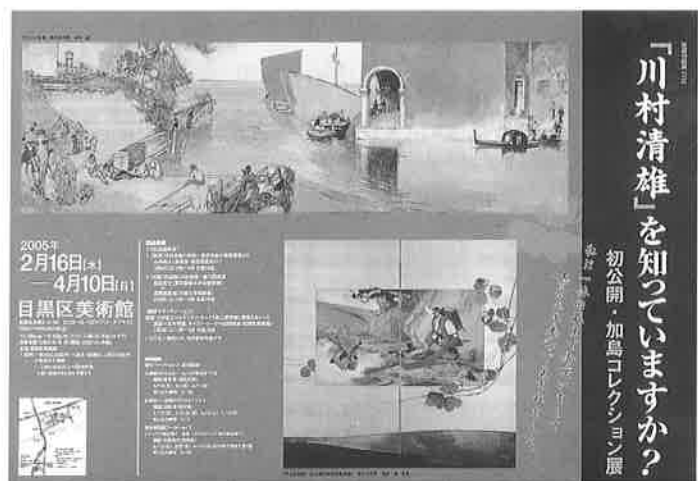
[対談]

作品論・川村清雄～魅力再発見

対談：歌田真介（東京藝術大学名誉教授）+

高階絵里加（京都大学助教授）

開催日：4月9日(土)



ポスター

出品作品リスト

本展の出品作品リストは次のように配列した。今回新しく収蔵した作品を〈K. 目黒区美術館新収蔵 加島コレクション／川村清雄作品〉、すでに当館が収蔵している作品を〈M. 目黒区美術館所蔵 川村清雄作品〉、加島コレクションに冠する下絵類を〈E. 江戸東京博物館所蔵 川村清雄資料〉、さらに、それ以外から拝借した作品を〈O・個人所蔵 川村清雄作品、資料〉、川村清雄が意匠を手がけた書籍や、川村や至誠堂関係の書籍をまとめて〈B・川村清雄関係書籍〉とした。特記事項があるものは、最後に*を付した。K・加島コレクションについては全図版も掲載した。所蔵区分けごとの各作品は、出品番号、名称、技法、支持体の材料、寸法cm（江戸東京博物館の下絵類は紙寸を記載）、会場、カタログで使用した複製写真のデータについては、作品リスト後の〈参考図版〉に配列した。

（本コレクションには、川村清雄との関係が不明な絵画も2点含まれており、◇印を付した。制作年については不明なものが多いため、あえて記載せず今後の研究課題としたい。）

- K-1
村上彦四郎（村上義光 錦御旗奪還図）
油彩、絹本・金箔 147.5×147.0
- K-2
高砂
油彩、絹本・銀箔 42.4×136.4
- K-3
鳴
油彩、絹本・銀箔 42.6×178.2
- K-4
ベネチア風景
油彩・水性絵具、板 38.3×121.8
- K-5
布袋と唐子
油彩、絹本・銀箔 19.6×62.0
- K-6
花
油彩、キャンバス 27.4×45.4
- K-7
梅に雀
油彩、板 30.2×53.5×3.0
- K-8
沙羅に葉袋
油彩、板 27.2×46.1×1.0
*表に昭和8年、裏に大正10年の年記がある。
- K-9
小督
油彩、板・黒漆塗 26.9×36.3
- K-10
いにしへの奈良の都
油彩、板・銀箔 φ42.0
- K-11
三色すみれ
油彩、板 φ34.7
- K-12
色紙1
油彩、絹本・金箔 27.2×24.2
- K-13
色紙2（小督）
油彩、絹本・金箔 21.2×18.1
- K-14
色紙3
油彩、紙本・金箔 21.2×18.3
- K-15
鈴と絵馬
油彩、絹本・扇面色紙 21.9×47.4
- K-16
かれい
油彩、絹本・扇面色紙 21.7×47.4
- K-17
姫小松
油彩、紙本・扇面色紙 22.1×47.0
- K-18
短冊1（左）
油彩、絹本 36.2×6.1
*短冊2と組物
- K-19
短冊2（右）
油彩、絹本 36.3×6.1
*短冊1と組物
- K-20
短冊3
油彩、絹本 36.2×6.0
- K-21
短冊4
油彩、絹本 36.3×6.0
- K-22
短冊5（お玉が池）
油彩、絹本 36.2×6.0

- K-23
短冊6
油彩、絹本 36.2×6.0
- K-24
短冊7（竹芝）
油彩、絹本 36.3×6.1
- K-25
短冊8
油彩、絹本 36.2×6.0
- K-26
檀溪を飛ぶ劉備（三国志）（原画）
油彩、板 32.7×42.0×2.8
- K-27
孟母断機（原画）
油彩、板 32.3×41.9×2.9
- K-28
柘榴
油彩、皿 φ23.3
- K-29
帯
油彩、絹・黒縹子
- K-30
頼山陽像（原画）
油彩、紙 27.4×24.4
- K-31
『洗心廣録』表紙原画
油彩、紙 25.8×17.4
- K-32
◇聖母子と聖人たち
作者不詳
油彩、キャンバス 41.6×23.6
- K-33
◇サムソンとデリラ
作者不詳
油彩、キャンバス 22.6×32.0
- K-34
太田道灌
油彩、板・黒漆角盆 22.8×22.8
- K-35
朝顔につるべとられてもらい水
油彩、板・黒漆角盆 22.8×22.8

K-36
おうむ
鸚鵡

油彩、板・朱漆塗

*寄託作品（平成17年度に収蔵予定）

K-37

静物（紫陽花とチゴハヤブサ）

油彩、キャンバス 53.0×70.0

*寄託作品（平成17年度に収蔵予定）

M. 目黒区美術館所蔵 川村清雄作品

末尾に収蔵作品番号を付した。

M-1

水差し

明治8（1875）年

鉛筆・黒鉛、紙 29.5×48.0

か007-001

M-2

裸体習作（裏面：女の顔習作）

明治9～14（1876～81）年

コンテ、有色紙 23.9×31.9

か007-002

M-3

裸体習作

明治9～14（1876～81）年

コンテ、有色紙 31.5×23.5

か007-003

M-4

幼児石膏習作

明治6～14（1873～81）年

コンテ、紙 12.0×11.8

か007-004

E. 江戸東京博物館所蔵 川村清雄資料

末尾に収蔵作品番号を付した。

E-1

下絵 黄海の海戦

鉛筆、紙

01001216

E-2

下絵 ヴェニス風景

鉛筆・トレースインク、紙 32.4×55.5

01001238

E-3

下絵 静物（鯛・蛤・茄子）

墨（セピア）、紙 34.3×62.7

01001241

E-4

下絵 静物（鯛）

墨（セピア）・着彩、紙、32.0×25.5

01001244

E-5

下絵 ヴェニス風景

墨（セピア）、紙 30.5×73.2（39.8×110.8）

01001245

E-6

下絵 騎馬図

鉛筆・墨、紙 37.0×46.0

01001263

E-7

下絵 鳩

墨（セピア）・着彩、紙 33.0×49.0

01001369

E-8

下絵 静物

鉛筆・着彩、紙 40.0×80.0

01001435

E-9

下絵 人物（かがみこむ武士）

墨、紙 25.1×17.8

01001571

E-10

下絵 花と巾着袋

墨・着彩、紙 51.6×25.0

01001583

E-11

下絵 猿

鉛筆・墨・着彩、紙 22.0×23.6

01001598

E-12

下絵 花鳥（オウム）

墨、紙 75.4×32.1

01001600

E-13

下絵 縁側の女性

油彩、黒い紙 38.8×32.0

01001620

E-14

下絵 静物（豆文様容器）

墨・黒インク・コンテ、紙 51.6×50.0

01001633

E-15

下絵 鳥（鴨）

鉛筆・墨、紙 50.0×54.8

01001676

E-16

水彩画 風景（鐘楼）

着彩、紙 38.2×21.5

01001832

E-17

図面習作 透視図（建築物部分）

鉛筆、紙 34.1×53.9

01001837

E-18

滝

油彩、板 19.2×5.7

01001905

E-19

図面 ドージェ宮殿内部透視図

ペン、紙 74.0×81.0

01001975

E-20

袱紗包（風呂敷） 海老

大正11（1922）年

絹（ちりめん）65.5×66.0

01001987

O. 個人所蔵 川村清雄作品、資料

O-1

まな・あらな

昭和4（1929）年

油彩、絹本・銀箔 36.5×73.0

O-2

ヴェニス風景

大正2～3（1913～1914）年

油彩・板 30.1×51.8

O-3

梅に雀

昭和2（1927）年頃

油彩、絹本・金箔 44.0×123.0

O-4

瀑布（滝）

油彩、絹本・金箔 123.0×36.0

O-5

ばら

油彩、板 18.1×60.2

O-6
下絵 三条橋と橋上の人
鉛筆・紙 23.5×13.0
* 『兎糞録』口絵

O-7
絵具箱、パレット、絵の具

O-8
雲形定規 (短・長)

B・川村清雄関係書籍

出品番号、書名、著者 (編者)、出版年 (初版)、出版社、所蔵
末尾に記載のないものは個人蔵。

B-1
『自暴自棄』廣津柳浪
明治39 (1906) 年
春陽堂
冬扇文庫蔵

B-2
『唾玉集』
伊原青々園・後藤宙外共編
明治39 (1906) 年 春陽堂

B-3
稿本 『川村清雄 作品と其の人』
木村駿吉
大正15 (1926) 年 私家版 (限定100部)
青木文庫蔵

B-4
『白馬城』
杉浦楚人冠
大正14 (1925) 年 至誠堂

B-5
『中等教育 作文自習宝鑑 全』
友田宜剛
明治43 (1910) 年 至誠堂
* 川村清雄表紙画

B-6
『兎糞録』 (大正名著文庫 第1編) 14版
和田垣謙三
大正2 (1913) 年 至誠堂
目黒区美術館蔵
* 川村清雄挿画2点 (三条橋と橋上の人)
<美人と噴水>

B-7
『吐雲録』 (大正名著文庫 第5編)
和田垣謙三
大正3 (1914) 年 至誠堂
目黒区美術館蔵
* 川村清雄口絵 (吐雲)、挿画 (舌切雀)

B-8
『罵倒録』 (大正名著文庫 第4編) 11版
村上浪六
大正3 (1914) 年 至誠堂
目黒区美術館蔵

B-9
『洗心録』 (大正名著文庫 第8編)
幸田露伴
大正3 (1914) 年 至誠堂
目黒区美術館蔵
* 川村清雄装幀

B-10
『活修養』 (大正名著文庫 第10編) 8版
前田慧雲 2版
大正3 (1914) 年 至誠堂
目黒区美術館蔵

B-11
『悦楽』 (大正名著文庫 第16編) 3版
幸田露伴
大正4 (1915) 年 至誠堂
* 川村清雄装幀 (表紙にCKの空押し)

B-12
『西遊スケッチ』 (大正名著文庫 第20編)
再版
和田垣謙三
大正4 (1915) 年 至誠堂
* 川村清雄挿画 (舞姿)

B-13
『妄人妄語』 (大正名著文庫 第14編)
森鷗外
大正4 (1915) 年 至誠堂
日本近代文学館蔵
* 川村清雄装幀

B-14
『破木杓』 (大正名著文庫 第12編) 再版
大内青替
大正4 (1915) 年 至誠堂

B-15
『三又文存』 (大正名著文庫 第9編)
竹越三又
大正3 (1914) 年 至誠堂

B-16
『幽芳集』 (大正名著文庫 第18編)
菊池幽芳
大正4 (1915) 年 至誠堂

B-17
『海軍館大壁画史』
昭和16 (1941) 年 東亜振興会
* 川村清雄画 (黄海の海戦) (日清戦役) 明
治30 (1897) 年頃

B-18
『迷信と宗教』 (大正名著文庫 第24編) 再
版
井上円了
大正5 (1916) 年 至誠堂
目黒区美術館蔵

B-19
『洗心廣録』6版
幸田露伴
大正15 (1926) 年 至誠堂
* 川村清雄装幀、表紙

B-20
『詳解全訳 漢文叢書 第一巻 日本外史
上』大町桂月訳
昭和元 (1926) 年 至誠堂書店
* 川村清雄画 口絵 (頼山陽像)、見返し

B-21
『詳解全訳 漢文叢書 第三巻 日本政記、
日本楽府』大町桂月訳
昭和2 (1927) 年 至誠堂書店
* 川村清雄画 見返し (王朝の春)

B-22
『副島五十枝』
副島八十六 大正14 (1925) 年
* 川村清雄挿画 (小督弾琴図)

B-23
『新婦人』第2年11月の巻
大正元 (1912) 年 至誠堂
* 川村清雄表紙 (親の愛) カラーリトグ
ラフ

B-24
『新小説』第10年第12号
明治38 (1905) 年 春陽堂
* 川村清雄挿画 (恋と意地) カラーリトグ
ラフ

B-25

『新小説』第16年第10巻

明治44（1911）年 春陽堂

*川村清雄表紙〈住吉物語〉カラーリトグラフ

B-26

『新小説』第13年第5巻

明治41（1908）年 春陽堂

*川村清雄表紙〈浅草観音〉カラーリトグラフ

B-27

『演芸倶楽部』第1巻第2号

明治45（1912）年 博文館

*川村清雄表紙〈出雲の阿国〉カラーリトグラフ

[平成17年度]

目黒不動尊の近代美術 書家・豊道春海と彫刻家・後藤良～伝統と近代の相克

会期：2005年4月23日(土)～5月22日(日)(26日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館

共催：天台宗目黒不動尊瀧泉寺、目黒区教育委員会、目黒区(観光・雇用課)

助成：財団法人地域創造

協力：東京急行電鉄株式会社、目黒不動商店街振興組合、大鳥前商栄会、権之助坂商店街振興組合、大鳥前元競馬通り商店街振興組合、田道商店会、油面地藏通り商店街振興組合、不動前駅通り商店街振興組合

監修：豊道春海・篇＝印南溪峻、後藤良・篇＝安原喜孝

担当学芸員：正木 基

目黒不動尊仁王門『仁王尊像』の作者・後藤良(ごとう・なおし)と境内の石碑『春洞西川先生碑』の揮毫者・豊道春海(ぶんどう・しゅんかい)。二人の軌跡を追うと、日本の性急な近代の受容の仕方への慎重な姿勢に共通点を見出す。彼らの作品が、私たちに何を示唆するのか。明治、大正、昭和と繰り広げられた彼らの制作の軌跡を通じて、日本の近代のあり方を再考した。

●カタログ

寸法：22.4×29.7cm

ページ数：176ページ

内容：豊道春海・篇：ごあいさつ／「回想」豊道春海作品欧米著名美術館へ 大島清次／(再録)「日本豊道春海書法展覧」-北京- 西川寧／(再録)「春洞西川先生碑推拓記」北川博邦／豊道春海の軌跡、そして書作品の再評価のために～書入門者のためのインタビュー 印南溪峻／図版／豊道春海年譜資料／豊道春海篇出品作品一覧

後藤良・篇：ごあいさつ／後藤良の軌跡、そして彫刻作品の再評価のために～入門者のインタビュー 綿貫孝司・安原喜孝／後藤良略年譜／図版／後藤良略年譜／図版／後藤良関連文献／後藤良篇・作品一覧

●ポスター

サイズ：B2/B3

デザイン：辻 耕

●チラシ

サイズ：A3

デザイン：辻 耕

マップ：高橋英美、平賀涼子

●豊道春海・篇 全出品作品釈文(会場配布パンフレット)

サイズ：A4

編・解説：印南溪峻

●バナー

寸法：60×100cm

●主要関連記事

山盛英司「美術 造形集団 海洋堂の軌跡」展 「書家・豊道春海と彫刻家・後藤良」展 朝日新聞(夕刊)2005年5月12日

●関連催事

*ギャラリートーク「目黒不動尊の春洞西川先生」と「豊道春海の芸術」
菅原教夫(読売新聞東京本社文化部長) vs 印南溪峻(書家、豊道春海・孫)



ポスター

*ギャラリートーク「目黒不動尊仁王尊像と後藤良の芸術」

綿引孝司（彫刻家、仁王像制作スタッフ）vs 安原喜孝（陶芸家、後藤良・孫）

*ギャラリー座談会「文化資源としての“目黒不動尊”と地域振興」

宮廻正明（日本画家、東京芸術大学教授）vs 中山正（御菓子司玉川屋支配人）vs 青木英二（目黒区長）



豊道春海篇出品作品

No.	作品名	制作年	寸法	
1	『行書千字文』	一九一四(大正三)年、三七歳	一一一・〇cm×四一・六cm	東叡山寛永寺藏 中国個展
	<p>天地玄黃 宇宙洪荒 日月盈昃 辰宿列張 寒來暑往 秋收冬藏 閏餘成歲 律呂調陽 雲騰致雨 露結為霜 金生麗水 玉出崑岡 劍號巨闕 珠稱夜光 果珍李柰 菜重芥薑 海鹹河淡 鱗潛羽翔 龍師火帝 鳥官人皇 始制文字 乃服衣裳 推位讓國 有虞陶唐 吊民伐罪 周發殷湯 坐朝問道 垂拱平章 愛育黎首 臣伏戎羌 遐邇壹體 率賓歸王 鳴鳳在樹 白駒食場 化被草木 賴及萬方 蓋此身髮 四大五常 恭惟鞠養 豈敢毀傷 女慕貞絜 男效才良 知過必改 得能莫忘 罔談彼短 靡恃己長 信使可覆 器欲難量 墨悲絲染 詩讚羔羊 景行維賢 剋念作聖 德建名立 形端表正 空谷傳聲 虛堂習聽 禍因惡積 福緣善慶 尺璧非寶 寸陰是競 資父事君 曰嚴與敬 孝當竭力 忠則盡命 臨深履薄 夙興溫清 似蘭斯馨 如松之盛 川流不息 淵澄取映 容止若思 言辭安定 篤初誠美 慎終宜令 榮業所基 籍甚無竟 學優登仕 攝職從政 存以甘棠 去而益詠 樂殊貴賤 禮別尊卑 上和下睦 夫唱婦隨 外受傳訓 入奉母儀 諸姑伯叔 猶子比兒 孔懷兄弟 同氣連枝 交友投分 切磨箴規 仁慈隱惻 造次弗離 節義廉退 顛沛匪虧 性靜情逸 心動神疲 守真志滿 逐物意移 堅持雅操 好爵自縻 都邑華夏 東西二京 背芒面洛 浮渭據涇 宮殿碧巒 樓觀飛甍 圖寫禽獸 畫綵仙靈 丙舍傍敞 甲帳對楹 肆筵設席 鼓瑟吹笙 升階納陛 弁轉疑星 右通廣內 左達承明 既集墳典 亦聚群英 杜稿鍾隸 漆書壁經 府羅將相 路挾槐卿 戶封八縣 家給千兵 高冠陪輦 驅轂振纓 世祿侈富 車駕肥輕 策功茂實 勒碑刻銘 磻溪伊尹 佐時阿衡 奄宅曲阜 微旦孰營 桓公匡合 濟弱扶傾 綺迴漢惠 說感武丁 俊乂密勿 多士寔寧 晉楚更霸 趙魏因橫 假途滅虢 踐土會盟 何遵約法 韓弊煩刑 起翦頗牧 用軍最精 宣威沙漠 馳譽丹青 九州禹跡 百郡秦并 嶽宗恒岱 禪主云亭 雁門紫塞 雞田赤城 昆池碣石 鉅野洞庭 曠遠絳遙 巖岫杳冥 治本於農 務茲稼穡 俶載南畝 我藝黍稷 稅熟貢新 勸賞黜陟 孟軻敦素 史魚秉直 庶几中庸 勞謙謹敕 聆音察理 鑑貌辨色 貽厥嘉猷 勉其祗植 省躬讎誠 寵增抗極 殆辱近恥 林阜幸即 兩疏見機 解組誰逼 索居閑處 沈默寂寥 求古尋論 散慮逍遙 欣奏累遣 感謝歡招 渠荷的歷 園莽抽條 枇杷晚翠 梧桐早彫 陳根委翳 落葉飄颻 遊鵲獨運 凌摩絳霄 耽讀詩書 寓目囊箱 易輟攸畏 屬耳垣牆 具膳餐飯 適口充腸 飽飫烹宰 饑厭糟糠 親戚故舊 老少異糧 妾御績紡 侍巾帷房 紈扇圓潔 銀燭煌煌 晝眠夕寐 藍筍象床 弦歌酒譟 接盃舉觴 矯手頓足 悅豫且康 嫡后嗣續 祭祀蒸嘗 稽顙再拜 悚懼恐惶 箋牒簡要 顧答審詳 骸垢想浴 執熱愿涼 驢驘犢特 駭躍超驤 誅斬賊盜 捕獲叛亡 布射僚丸 嵇琴阮嘯 恬筆倫紙 鈞巧任鈞 釋紛利俗 並皆佳妙 毛施淑姿 工嘖研咲 年矢每催 曠暉朗曜 旋璣懸幹 晦魄環照 指薪脩祜 永綏吉劭 矩步引領 俯仰廊廟 束帶矜莊 徘徊瞻眺 孤陋寡聞 愚蒙等詭 謂語助者 焉哉乎也</p> <p>甲寅春日 春海僧慶中書</p>			
2	『福・祿・壽』	一九一四(大正三)年、三七歳	一三三・八cm×四三・〇cm	月江山慈雲寺実相院藏
	<p>福 無驗分求事而不費財積陰德者自得福焉 祿 思君親之恩而慎行謹守天命者自得祿焉 壽 禁飽食大酒而遠乞慾養氣血者自得壽焉 歲在甲寅八月書於瑞雲山房 春海僧中</p>			
3	『般若心經』	一九一五(大正四)年、三八歳	一二五・七cm×四〇・〇cm	早稲田大学會津八一記念博物館藏
	<p>摩訶般若波羅蜜多心經 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色 不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨不 增不減是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至無意識界無無明 亦無無明盡乃至無老死亦無老死盡無苦集滅道無智亦無得以無所得故菩提薩埵依般若波羅蜜 多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故得阿 耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等呪能除一切苦真矣 不虛故說般若波羅蜜多呪即說呪曰 羯諦羯諦 波羅羯諦 波羅羯諦 菩提薩婆訶 般若心經 維時大正四年歲在乙卯秋八月望日 為 恩師春洞翁追善 春海僧慶中拜寫</p>			
4	『七言絕句』	一九二〇(大正九)年、四三歳	一四六・〇cm×三九・〇cm	大田原市教育委員會藏
	<p>鑿鑿猶為萬里遊 米洲行盡又歐洲 倫城歌舞已都酒 孰與驪山紅葉秋</p>			

No.	作品名	制作年	寸法	
	大正庚申晚秋本堂老兄遊歐米歸朝因同諸友會飲於 目黒羅漢寺賦小詩博一祭 天台春海			
5-1	『春洞西川先生碑(拓本、目 黒不動尊)』(拓本：松丸東魚)	一九二一(大正一〇)年、四四歳 (建碑は翌年一九二二(大正一一)年)	四五〇・〇cm×二〇〇・〇cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展、 春洞西川先生碑
5-2	『春洞西川先生碑陰記(拓本、 目黒不動尊)』(拓本：松丸東魚)	一九二一(大正一〇)年、四四歳 (建碑は翌年一九二二(大正一一)年)	四五〇・〇cm×二〇〇・〇cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展
	津八一記念博物館蔵、中国個展 先生諱元讓字子謙號春洞別有如餅人茹古山民大夢道人等號西川氏世以醫仕唐津侯考諱寧廣 稱元琳妣伊東氏先生從東條一堂海保漁邨受經又學書於中澤雪城年甫十四書三體千字文供將 軍台覽有神童之稱雪城嘗謂先生曰子學書須遡晉唐究其淵源因授以歐陽詢書皇甫誕碑搨本從 是其技大進元慶之間海內騷擾先生慨然投筆結交四方士盡瘁國事明治初奉職大藏省無幾致仕 卜居江東以翰墨自娛從遊逾衆乞字者日踵門先生之於書也咀古嚼今莫體不該若漢魏六朝亦能 拔其萃渾然成一家之風又通說文金石學善篆隸繪畫人稱其博涉精蘊蓋今日至書道之隆盛者先 生之力居多焉先生龐眉隆準長髯如雪性嫺雅洒落而天資孝友恒敬神佛接人不設城府故弟子視 先生猶父云大正四年八月十日以病沒享年六十有九葬根津大恩寺配高邨氏男寧承後今茲十年 丁先生七周忌辰余等門人胥謀樹碑於西目黒邨瀧泉寺以傳其遺德先生嘗有題畫蘭詩能見其高 操今取以代銘曰託根幽谷裏敢願上高堂雖與荊榛伍終然擅國香 大正十年八月 門人 武田白謹撰 豊道慶中謹書 田沼太右衛門 小島重太郎 大多喜守忍 永田二郎 入山喜舞 加藤榮太郎 酒井八右衛門 来澤春暁 瀧口吉藏 今井春帆 杉谷雲洞 太田春旭 中山喜之助 山崎箏洞 殿木春洋 木下春陰 澤春塘 天瀬櫟亭 牧田春庭 山内白峰 春日翠香 吉岡蒼陰 石井稻香 印南霞艇 中邨瑞亭 中邨春蘭 玉塚春岡 玉塚春舫 外山青洞 外山春華 小川春月 水橋義軒 島田木堂 神戸信山 伴野鶴軒 梅岡薰莊 梅岡香雪 加藤旭窓 石井春雲 明治書道會 同鎌倉支部 横濱書法研究會 瑞雲會 發起者 武田霞洞 豊道春海 諸井春畦 中邨春坡 諸井華畦 岩楯春梢 安本春湖 花房雲山 井龜泉刻			
5-3	『春洞西川先生碑』(目黒不動尊境内、 二〇〇五(平成一七)年撮影写真パネル 『春洞西川先生碑』)	一九二一(大正一〇)年八月 (建碑は翌年一九二二(大正一一)年)、 目黒不動瀧泉寺(東京都目黒区下目黒)		
	撰文：武田霞洞、刻者：井龜泉、碑：『春洞西川先生碑』。碑陰：『春洞西川先生碑陰記』行30字、13行。			
6	『関東大震災横死者供養塔(拓本、 天台宗行元寺)』(拓本：清水 路石)	一九二五(大正一四年)、四八歳	正面・裏面タテ五四・〇cm×五九・〇cm、 左右側面五三・〇cm×五八・〇cm	和井田家先祖累代/板倉家先祖累代/大野家先祖累代/森井家先祖累代/小島家先祖累代/成 願院大律師妙澄/大震災横死者供養塔/豊道家先祖累代/ 川上家先祖累代/印南家先祖累代/小林家先祖累代/西川家先祖累代/神田家先祖累代/當山

No.	作品名	制作年	寸法	
	<p>信徒総代和井田/福太郎君號稱近福/夙歸依教最信本尊/ 千手觀世音及金龍大/明王曾盡力於施餓鬼/萬人講社明治二十四年八月二日開神田市/場果 物仲置商鋪於神/田區北神保街干時有/ 靈識知黑龍明王為我/守護神當尊崇馬蓋和/井田家護持尊像者先/住妙澄尼所手授君也/大正 七年三月十一日/本願成就遂為果物問/ 屋榮業神田區連雀街/販路大開家運益隆欣/喜不措乃建黑龍地藏/尊石像於當山境內以/吊大 震災橫死者盡併/刻關係諸家盡表報賽/意使野衲其事/ 大正十四年五月一日/行元寺第十七世/沙門豐道慶中識/井龜泉刻</p>			
7	『惟善為寶』 惟善為寶/昭和庚午春日於養真山房/春海龍壽書	一九三〇(昭和五)年、五三歲	三三・〇cm×一三一・〇cm	大田原市教育委員會藏
8	『五言聯』 歲在辛未春日/塵外黃公市/雲間李白樓 春海龍壽書	一九三一(昭和六)年、五四歲	(塵の幅) 一五〇・〇cm×二〇・三cm+ (雲の幅) 一五〇・〇cm×二〇・五cm	龍頭山不動院龍泉寺藏
9	『日新其德』 日新其德/昭和乙亥春日/春海龍壽書	一九三五(昭和一〇)年、五八歲	五二・五cm×一九七・〇cm	大田原市立佐久山小学校藏 第三回謙慎展、中国個展
10	『般若心經』 佛說般若波羅蜜多心經 觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空度一切苦厄舍利子色 不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是 舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨 不增不減是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼界乃至 無意識界無 無明亦無無明盡乃至無老死亦無老死盡苦集滅道無智亦無得以無所得故菩提薩埵依般若波 羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等呪能除一切苦 真實不虛故說般若波羅蜜多呪即說呪曰羯諦羯諦 波羅羯諦波羅僧羯諦 菩提薩婆訶 昭和十九年十二月廿五日謹寫斯經與多慶子 以為和雄出征記念 父慶中時年六十有七	一九四四(昭和一九)年、六七歲	二五・五cm×二・八cm	
11	『白樂天詩 對酒五首之二』 蝸牛角上爭何事 石火光中寄此身/隨富隨貧且歡樂 不開口笑是癡人/昭和丁亥黃梅節書於谷 門行元精舍 居中庵 古希海翁	一九四七(昭和二二)年、七〇歲	三一・八cm×三七・一cm	
12	『山窗畫睡』 身在雲房夢亦閑/松頭鶴影枕屏間/一聲隔谷鳴華雉 信手推窗滿眼山 昭和丁亥夏日書於居中庵古希海翁	一九四七(昭和二二年)、七〇歲	一三四・四cm×二七・〇cm	
13	『七言二句』 階前碎月鋪花影/天外斜陽帶遠颿 古希春翁	一九四七(昭和二二年)、七〇歲	八六・一cm×一七・九cm	
14	『司馬光 七言二句』 詩書作我閑中地/風月知人醉裡天 古希海翁	一九四七(昭和二二年)、七〇歲	一〇八・〇cm×二五・八cm	
15	『菜根譚語』 雲生破衲	一九四八(昭和二三)年、七一歲	六七・五cm×二五・〇cm	
16	『寒山詩』 衆星羅列夜明深/巖點孤燈月未沈/圓滿光華不磨瑩/挂在青天是我心 書於居中庵海翁	一九四八(昭和二三)年、七一歲	一三四・〇cm×三四・〇cm	第四回日展、東京国立近代美術館藏
17	『詠風』	一九五二(昭和二七)年、七五歲	四二・五cm×六二・〇cm	中国個展、日本現代美術展覽會

No.	作品名	制作年	寸法	
	帶花疑鳳舞 向竹似龍吟/月動臨秋扇 松清入夜琴 書於養真山房 天門海翁時歲七十有五			
18	『福壽無量』 福壽無量 昭和歲在癸巳新春 天門海翁	一九五三(昭和二八)年、七六歲	五〇・〇cm×一九〇・〇cm	天台宗日黒不動尊瀧泉寺藏、中国個展
19	『無我天真』 無我天真 昭和甲午新春 書於養真山房 天門海翁時歲七十有八	一九五四(昭和二九)年、七七歲	四七・六cm×一八六・四cm	天台宗日黒不動尊瀧泉寺藏、第一六回謙慎展、中国個展
20	『幽雅』 幽雅 昭和歲在甲午新緑節書於養真山房 天門海翁時七十有七	一九五四(昭和二九)年、七七歲	二二・五cm×七五・二cm	第六回毎日書道展
21	『清神』 清神 天門海翁時歲七十有七	一九五四(昭和二九)年、七七歲	一四八・〇cm×七〇・〇cm	東叡山寛永寺藏
22	『孟浩然詩 題義公禪房』 義公習禪寂 結宇依空林 戶外一峰秀 階前衆壑深 夕陽連雨足 空翠落庭陰 看取蓮花淨 方知不染心 天門海翁書於養真山房	一九五五(昭和三〇)年、七八歲	三七・二cm×六〇・〇cm	第七回毎日書道展
23-1	『日光山輪王寺石柱(拓本)』 (拓本:松丸東魚) 天平神護二年勝道上人開山 日光山輪王寺 昭和三十年一月建 日本藝術院會員天台沙門豐道慶中書	一九五五(昭和三〇)年、七八歲	各四六五・〇cm×八四・〇cm(三点組)	早稲田大學會津八一記念博物館藏、中国個展
23-2	『日光山輪王寺石柱』	一九五五(昭和三〇)年撮影写真パネル		
23-3	『日光山輪王寺本坊』の前の 豊道春海八五歲	一九六二(昭和三七)年撮影写真パネル		
23-4	『日光山輪王寺門跡』	一九六二(昭和三七)年撮影写真パネル		
23-5	『心』碑(日光山輪王寺境内、 下部は郭沫若の書)	一九七九(昭和五四)年撮影写真パネル		
24	『陶淵明句』 林園無俗情 天門海翁于時七十有八	一九五五(昭和三〇)年、七八歲	一八二・二cm×四七・八cm	栃木県立美術館藏 中国個展
25-1	『金龍山浅草寺觀音堂正面左右大柱 聯 草書 五七言句聯』の行書草稿 實相非莊嚴 金碧裝成安樂刹 昭和丙申春日 真身絶表象 雲霞畫出補陀山 僧慶中謹書	一九五六(昭和三一)年、七九歲	四五五・〇cm×三五・七cm(対幅)	
25-2	『金龍山浅草寺觀音堂正面 左右大柱聯』(草書)	二〇〇五(平成一七)年撮影写真パネル		

No.	作品名	制作年	寸法	
26	『先憂後樂』 先憂後樂 昭和三十一年歳在龍集 丙申秋日 天門海翁于時 歳七十有九	一九五六(昭和三一)年、七九歳	六〇・〇cm×三二七・〇cm	品川区立第四日野小学校蔵、第一九回謙慎展
27	『禄』 禄 思君親之恩而慎行蹟守天命者自得禄 昭和三十三年歳在丁酉孟秋天門海翁時歳八十	一九五七(昭和三二)年、八〇歳	三一・三cm×五二・七cm	
28	『牛頭山』 牛頭山 昭和三十三年歳在丁酉秋九月初一 行元精舎十七世僧正慶中時歳八十	一九五七(昭和三二)年、八〇歳	二九・六cm×一三〇・四cm	
29	『無塵』 無塵 八十一叟天門海翁	一九五八(昭和三三)年、八一歳	二〇一・〇cm×八六・〇cm	天台宗目黒不動尊瀧泉寺蔵 第二回朝日二十人展、中国個展
30	『清池明月照禅心』 清池明月照禅心 八十一叟海翁	一九五八(昭和三三)年、八一歳	六七・〇cm×二九・五cm	
31	『嘉言名句』 一忍成百事 一静鎮百動 昭和歳在戊戌孟春	一九五八(昭和三三)年、八一歳	一八二・〇cm×四五・〇cm	東京都現代美術館蔵
32	『程ほど』(旧題『よの中は』) 世の中は総てほど程 花は半開酒は微酔 天門海翁時年八十有一	一九五八(昭和三三)年、八一歳	一八三・三cm×四五・四cm	栃木県立美術館蔵、改組第一回日展、中国個展
33	『八風吹不動』 八風吹不動 八十二叟天門海翁	一九五九(昭和三四)年、八二歳	一九九・〇cm×四二・〇cm	東京国立博物館蔵、第二回日展、中国個展
34	『七言二句』 萬法皆空歸性海 一塵不染證心禪 昭和歳在乙寅主春節 八十二叟天門海翁	一九五九(昭和三四)年、八二歳	一五二・〇cm×三六八・八cm (六曲半雙屏風)	月江山慈雲寺実相院蔵、第一一回毎日展、中国個展
35	『寒山詩』 千雲萬水間 中有一閑士 白日遊青山 夜歸巖下睡 倏爾過春秋 寂然無塵累 快哉何所依 静若秋江水 天門海翁時年八十有二	一九五九(昭和三四)年、八二歳	一三一・〇cm×四三・五cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展
36	『傳教』 傳教 昭和三十四年歳在巳亥春四月旬二於比叡山麓芙蓉園書此以為慶慶 八十二叟父慶中	一九五九(昭和三四)年、八二歳	二六・〇cm×二三・〇cm	
37	『漢崔子玉座右銘の一節』 (附自詠和歌)	一九六一(昭和三六)年、八四歳	一六九・二cm×一五三・八cm (二曲半雙屏風)	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、 第四回日展、中国個展

No.	作品名	制作年	寸法	
	<p>こころせむ人にあえて忘るとも うけし恩義はとわにわすれじ 施人慎勿念 受施慎勿忘 漢崔子玉座右銘一節余生平愛誦不舍矣 昭和歳在辛丑仲秋八十四叟天門海翁</p>			
38	<p>【敬愛】 敬愛 佐久山出身書於東都養真山房 八十四僧天門海翁</p>	一九六一(昭和三六)年、八四歳	一〇二・〇cm×二一七・四cm	大田原市立佐久山中学校蔵、中国個展
39	<p>【正義】 正義 昭和三十六年歳在辛丑秋日書此以為 大田原中学校囑</p>	一九六一(昭和三六)年、八四歳	一〇二・〇cm×二一八・〇cm	大田原市立大田原中学校蔵、中国個展
40	<p>【忍】 忍 臨大故而全大義忍也 其德不及持戒苦業矣 昭和歳在壬寅仲秋天門海翁時年八十有五</p>	一九六二(昭和三七)年、八五歳	一八七・五cm×四七・三cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、 第五回日展、中国個展
41	<p>【比叡山延暦寺大講堂木額草藁】 大講堂</p>	一九六三(昭和三八)年、八六歳	七六・五cm×二五五・五cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展
42	<p>【虚堂集語】 萬里無雲孤月圓 八十六叟天門海翁</p>	一九六三(昭和三八)年、八六歳	一五〇・七cm×二六・三cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展
43	<p>【心花】 心花 昭和歳在癸卯夏日 八十六叟天門海翁</p>	一九六三(昭和三八)年、八六歳	一一三・〇cm×一〇九・〇cm	大田原市蔵、中国個展
44	<p>【天意無私】 天意無私</p>	一九六三(昭和三八)年、八六歳	五四・〇cm×一五三・〇cm	大田原市蔵
45	<p>【壽而康】 壽而康 八十七翁僧慶中篆</p>	一九六四(昭和三九)年、八七歳	二三三・四cm×五五・八cm	早稲田大学會津八一記念博物館、中国個展
46	<p>【洗硯石泉香】 洗硯石泉香 昭和歳在甲辰夏日八十七叟天門海翁篆</p>	一九六四(昭和三九)年、八七歳	一九七・〇cm×五二・七cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展
47	<p>【四六言二句】 左琴右書誰識個中趣味 南隣北里那知物外佳遊 書於養真山房天門海翁于時八十有七</p>	一九六四(昭和三九)年、八七歳	一九八・七cm×五一・一cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、中国個展
48	<p>【宿山寺】 尋幽偶到古禪關 樓閣高低紫翠間 山鳥不鳴人境寂 爐煙輕上白雲閑 八十七叟天門海翁</p>	一九六四(昭和三九)年、八七歳	二〇〇・三cm×五〇・七cm	早稲田大学會津八一記念博物館早稲田蔵、 第一六回毎日展

No.	作品名	制作年	寸法	
49	『山崎闇齋詩有感』 坐憶天公洗世塵 雨過四望更清新 光風霽月今猶在 唯缺胸中灑落人 書於居中禪室八十七叟天門海翁	一九六四(昭和三九)年、八七歳	七一・五cm×一四六・〇cm	早稲田大学會津八一記念博物館蔵、第七回日展
50	『凌樹屏句』 爽氣淡心神 天門海翁時年八十七	一九六四(昭和三九)年、八七歳	一八〇・〇cm×六四・八cm	天台宗目黒不動尊瀧泉寺蔵、中国個展
51-1	『圓融』 無礙天真 〇字の中に「融」の字 昭和歳在甲辰春日 天門海翁時年八十七	一九六四(昭和三九)年、八七歳	八八・五cm×一四三・七cm	衝立 天台宗圓融寺(目黒区碑文谷)
51-2	『圓融碑』 (天台宗圓融寺境内、二〇〇五 (平成一七)年撮影写真パネル)			
52	『飛龍』 飛龍 八十九叟天門海翁	一九六六年(昭和四一)年、八九歳	三〇・〇cm×五五・〇cm	
53	『草書閑適』 野水無心自去留 八十九叟天門海翁	一九六六(昭和四一)年、八九歳	一八〇・〇cm×三五・〇cm	東京都現代美術館蔵 第一回瑞雲書道会展
54	『一輪梅花天地心』(複製) 一輪梅花天地心 低下下慶中時歳九十一	一九六八(昭和四三)年、九一歳	四四・〇cm×三〇・〇cm	月江山慈雲寺実相院蔵
55	『寶鏡三昧語』 潜行密用如愚如魯只能相續名主中主 九十一叟天門海翁敬書	一九六八(昭和四三年)、九一歳	四四・〇cm×三〇・〇cm	
56	『心』 心 九十三叟	一九七〇(昭和四五)年、九三歳	七四・〇cm×八九・〇cm	日本芸術院蔵、第二回改組日展
57	『菜根譚語』 林間松韻 石上泉聲 静裡聽來識天地自然鳴佩 草際煙光 水心靈陰 間中觀去見乾坤最上文章 春海龍壽書	制作年不明(六六歳以前)	一四九・〇cm×六九・五cm	天台宗目黒不動尊瀧泉寺蔵
58	『李白詩 早發白帝城』 朝辭白帝彩雲間 千里江陵一日還 兩岸猿聲啼不住 輕舟已過萬重山 春海龍壽書	制作年不明(六〇代頃)	一四七・〇cm×三九・〇cm	大田原市教育委員会蔵
59	『楊泉 八言二句』 積善之家厥福惟昌 積惡之門必有餘殃 納春海書	制作年不明(六〇代頃)	一三四・〇cm×三二・〇cm	大田原市教育委員会蔵
60	『五言絶句』 白雲作素屏 碧嶂是虚壁 終日水聲間 焚香讀周易	制作年不明(六〇代頃)	一三〇・〇cm×三二・〇cm	大田原市教育委員会蔵

No.	作品名	制作年	寸法	
	於屈伸禪室僧春海書			
61	『七言二句』 四海浪平龍睡穩 九天雲靜鶴飛高	制作年不明（六〇代頃）	一〇九・〇cm×三六・〇cm	大田原市教育委員会蔵
62	『扇面一 蘇東坡詩 喜薰風』 人皆苦炎熱 我愛夏日長 薰風自南來 殿閣生微涼 一為居所移 苦樂永相忘 願言均此施 清陰分四方 昭和辛巳夏日書於屈伸禪室 春海龍壽	一九四一（昭和一六）年	六四歳、骨の長さ二〇cm・ 開いて三四cm	
63	『扇面二』 心誠神明則應之 昭和乙亥夏日為多慶子 春海	一九三五（昭和一〇）年、五八歳	骨の長さ一五cm・開いて二五cm	
64	『扇面三』 福壽 八十八叟海翁	一九六五（昭和四〇）年、八八歳	骨の長さ二二cm・開いて三八cm	
65	『扇面四』 忍之一事 衆妙之門 内正其心 外修其行 形如死灰 心若鐵石 春海中書 春海龍壽書	制作年不明	骨の長さ一八cm・開いて三〇cm	
66	『扇面五 墨場必携』	制作年不明	骨の長さ二二cm・開いて四九cm	
67	『扇面六 墨場必携』	制作年不明	骨の長さ二二cm・開いて四〇cm	
68	『扇面七 墨場必携』	制作年不明	骨の長さ二二cm・開いて四〇cm	
69	『扇面八 墨場必携』	制作年不明	骨の長さ二二cm・開いて四〇cm	
70-1	『壽字幅（西川春洞門下七福神（諸井春畦、安本春湖、花房雲山、武田霞洞、中村春坡、諸井華畦、豊道春海）壽字寄せ書き）』 祝 春涯雅正授號 謙慎書堂會 社中書壽 字為紀念 春畦題于時 辛亥一月吉	一九一一（明治四四）年、三四歳	八二・五cm×二八・〇cm	
70-2	七福神そろって（右から三人 目が豊道春海）写真パネル			
71	『扇面九 壽字（西川春洞門下七福神（諸井春畦、安本春湖、花房雲山、武田霞洞、中村春坡、諸井華畦、豊道春海）壽字寄せ書き）』	一九一九（大正八）年四月、四二歳	骨の長さ一六cm・開いて二七cm	

No.	作品名	制作年	寸法
	大正八年乙未春四月吉且壽 家萱七十七齡 春坡 春畦 霞洞 雲山 華畦 春海 春湖 七友同會於養真山房以為記念 慶中		
72	『扇面一〇 壽字（西川春 洞門下七福神（諸井春畦、 安本春湖、花房雲山、武 田霞洞、中村春坡、諸井 華畦、豊道春海）寄せ書 き）』 華畦 霞 雲山 春畦 春湖 春海	制作年未調査	骨の長さ一六cm・開いて二七cm
73	『湖月』、木刻額 湖月 春海龍壽題	一九三五(昭和一〇)年頃、五八歳	九〇・〇cm×一八一・六cm
74	『文部省』、銅看板 文部省	制作年不明	九九・二cm×三二・七cm×五・五cm 文部科学省蔵
75	『洗心和塵』、刻字額 洗心和塵 八十二叟天門低下下慶中	一九五九(昭和三四)年、八二歳	三八・五cm×二九・五cm×二・〇cm 天台宗目黒不動尊瀧泉寺蔵
76	『王勃句』刻字額、(今井閑仙刻) 閑雲潭影日悠悠 天門海翁書	制作年不明	三七・五cm×四八・八cm

●參考資料一覽

參考1-1、『從心所欲帖』

參考1-2、『從心所欲帖』

參考2、硯

雨端第十世

六十翁英齊作

參考3-1、筆

古梅園謹製

參考3-2、筆

極技

瑞雲

海翁珍玩

仿古堂思齊作

參考3-3、筆

東京高木壽穎造

温恭堂改□

有便堂再改造

參考3-4、筆

無款

參考3-5、筆

無款

參考4、『春海自用印矩』(手製：西川春洞、題字：西川寧、刻字：二世中村蘭臺、所用：豊道春海、一五·〇cm×二·七cm×〇·八cm、一九四八年)

春洞府君手製戊子一月奉貽海翁先生寧謹記

秋刻字

參考5-1、木印『無有恐怖』(刻 二世中村蘭臺)、一九六四年、二一·〇cm×六·〇cm、早稲田大學會津八一記念博物館藏

無有恐怖

參考5-2、木印『天門慶中』(刻 二世中村蘭臺)、一九六四年、一一·五cm×一一·五cm、早稲田大學會津八一記念博物館藏

天門慶中

參考5-3、木印『春海』(刻 二世中村蘭臺)、一九六四年、一一·五cm×一一·五cm、早稲田大學會津八一記念博物館藏

春海

參考6-1、『漢籍國字解全書、第十卷孫子·唐詩選』荻生徂徠、服部南郭識、早稲田大學出版部、一九一一年(左上)

參考6-2、『國譯漢文大成·文學部第六卷·三體詩』國民文庫刊行會、一九二四年

參考6-3、『新編 筆陣書家自在』奈良松齋編著 汲古書院一九三三年

參考6-4、『詳解 三隱詩集』(野畑一男著、興文社、一九四〇年)

參考6-5、『墨場必携』、洛東書院、一九三七年

參考7-1、『酒仙滴堂』陶壺(春來能槃山造)、一九五五年

酒仙滴堂

天門海翁時歲七十有八

参考7-2、『酒仙満堂』陶板（春來能槩山作）、一九五五年
酒仙満堂
天門海翁時歳七十有八

参考8-1、湯呑『游神』（安原喜明との合作）、一九五六年
游神
為多希子
海翁于時七十有九

参考8-2、茶碗『一樂』（安原喜明との合作）、一九五六年
一樂
為印南海翁時有七十九

参考8-3、湯呑『吉福』（安原喜明との合作）、一九五六年
吉福
安原雅兄清鑒海翁

参考9-1、『獻壽帖』、一九二四年、瑞雲書道會本部

参考9-2、『瑞雲會創立三十年記念帖』、一九四三年、瑞雲書道會

参考10-1、『華甲紀念墨蹟帖』、一九三九年、瑞雲書道會

参考10-2、『皇紀二千六百年第十四回展覽會記念寫真帖』、一九四〇年、光明社出版部

参考11-1、『勅語四體帖』（「隸行 乾」+「楷草 坤」）、大正一九二〇年、瑞雲書道會

参考11-2、『春海先生書三體帖』、一九三二年、泰東書道院

参考11-3、『豊道春海草書正氣歌』、一九三三年、泰東書道院

参考11-4、『春海先生艸書飲中八仙歌』、一九三四年、瑞雲書道會

参考11-5、『常用漢字三體千字文 草書篇』、一九三五年、泰東書道院出版部

参考12-1、『真書千字文』（春海自著）、一九二五年

参考12-2、『豊道春海先生三體千字文』、一九四二年、泰東書道院出版部

参考13-1、『教育漢字三體帳』、一九五三年、瑞雲書道會

参考13-2、『教育漢字三體帳』のための下書き草稿

参考14-1、『天台宗総本山比叡山延暦寺綜覧』、一九五五年、比叡山延暦寺綜覧出版部

参考14-2、『觀世音菩薩普門品 第二十五』（複製）、一九六五年、瑞雲書道會

参考15、『天門春海帖』、一九六五年、二玄社

参考16、『訪中旅情（自詠自書）』、一九六八年、瑞雲書道會

参考17-1、『書道』、第一卷第一号、一九三二年一月、雄山閣、『書道』、第七卷第九号昭和十三年、九月一日、泰東書道院出版部

参考17-2、機関紙『瑞雲』、第一号（一九六六年九月一日）+第二号（一九六六年一〇月一日）+第三号（一九六六年十一月一日）、瑞雲書道會

- 参考17-3、『わが書道と宗教』、一九六二年、瑞雲書道会
- 参考18-1、第一回中国訪問「芳名帳」、一九五八年六月、写真：記帳する郭沫若
- 参考18-2、『書品』（書道代表訪中団記念集）、第九二号、一九五八年八月、東洋書道協会
- 参考18-3、『近代書道グラフ』（日本書道代表団中国紀行画報）、No. 八、一九五八年八月、近代書道研究会
- 参考19-1、『日本豊道春海書法展覧』（カタログ）、一九六四年
- 参考19-2、中国個展（第二回訪問、一九六四年七月）豊道和雄撮影写真アルバムから（写真右・息子と雄と）
- 参考19-3、『書品』（日本豊道春海書法展覧）、第一六四号、昭和四〇年九月、東洋書道協会
- 参考20-1、『私の履歴書-三五-』（豊道春海ほか、日本経済新聞社編）、昭和四四年一月二八日、日本経済新聞社
- 参考20-2、『海翁百話』（桑原喬林子）、昭和四〇年九月一〇日、五禾書房
- 参考20-3、『書道美術第』、一七四号、一九七〇年一〇月一日＋一七五号、一九七〇年十一月一〇日、日本書道美術院
- 参考20-4、『第四日野小学校三十五周年記念誌』、一九六一年、品川区立第四日野小学校
- 参考21、趣意書：文部省日本美術展覧に書を加ふる趣旨、一九四七年五月
- 参考22-1、小学校毛筆習字復興に関する陳情（控え）（裏&表）、一九四九年三月一八日
- 参考22-2、Important Items for Calligraphy in the Elementary School（発行時期不明）
- 参考22-3、小學校習字、正科復興に對する意見、一九四九年二月一日
- 参考22-4、書學に於て毛筆習字の必要な事項、一九四九年三月一三日
- 参考23-1、書道教育振興に関する請願（ガリ版刷り）、一九五五年一〇月一二日、日本書道連盟
- 参考23-2、書道教育振興に関する請願（コロタイプ）、一九五五年一〇月一二日、日本書道連盟
- 参考23-3、書道教育振興に関する請願（墨書）、一九五五年一〇月一二日、日本書道連盟
- 参考23-4、小中学校習字科（書道）独立必修科とする請願書、一九五五年一〇月、日本書道連盟
- 参考23-5、陳情書（年月不明）
- 参考23-6、小學校習字科復活運動（不明）
- 参考24-1、芸術院会員増員に関する説明原稿、墨書き、一九五九年十一月一六日
- 参考24-2、陳情書 文部大臣松田武千代殿、一九五九年七月
- 参考24-3、日美発第二一三号報告者に對する意見、一九六〇年八月
- 参考24-4、芸術院問題メモ書き、ペン書き、時期不明
- 参考24-5、相馬議員談、一九六〇年七月
- 参考24-6、日本芸術院に會員に對する長期鉄道乗車証交附請願、一九四九年四月

参考25-1、懇清書一九六三年三月

参考25-2、『私の書道観』、墨、執筆時期不明

参考25-3、日本書道館建設趣旨（案）、一九六三年三月

参考26、宣書道場美真房落成式参列者芳名記念帖、一九五〇年九月一八日

●写真パネル

- 1、『皇軍戦歿忠魂供養塔』、一九〇六（明治三九）年四月八日、金讃（かなさな）大師大光普照寺（埼玉県児玉郡神川町）
表：『皇軍戦歿忠魂供養塔』、裏：『明治三十九年四月八日建』高さ3間、巾3尺。
 - 2、『國講師權僧正岩邨師頌徳碑』、一九〇九（明治四二）年八月、金蔵寺（神奈川県橘駒林、現横浜市港北区日吉本町）
撰文：三島中洲、刻者：内藤慶雲
碑：『國講師權僧正岩邨師頌徳碑』。碑陰：人名を列挙、刻者：片野藤吉。篆額：『頌徳碑』。
 - 3、『一輪梅花天地心碑』、一九六八（昭和四三）年四月七日、金蔵寺（同寺の「寺子屋100年祭」のために建立）
 - 4、『行元寺』、一九一七（大正六）年一二月、行元寺（東京都品川区西五反田）
右石柱表：『行元寺』。裏：『奉納 大正六年十二月 東京深川 島田藤吉』。左石柱裏：『當山現住慶中代』。
関連：行元寺入口階段を登りきった所にある左右2本の石柱。右石柱表の『行元寺』は隷書、裏の『奉納 大正六年十二月 東京深川 島田藤吉』は楷書、左石柱裏の『當山現住慶中代』は行書で書かれている。
 - 5、『大震災横死者供養塔』、一九二五（大正一四）年五月十日、行元寺（東京都品川区西五反田）
刻者：井龜泉
関連：正面中央に『大震災横死者供養塔』を隷書で揮毫し左右に関係12家先祖累代を楷書で揮毫。左面から左回りに3面にわたり大震災横死者並びに関連の霊位の用いが揮毫されている。豊道春海（慶中）は行元寺第17世にあたり18世は印南溪龍（慶隆）、19世は印南溪峻（慶俊）になる。
 - 6、『重修石垣碑』、一九二二（大正一一）年三月、深大寺（東京都調布市深大寺元町）
撰文：輪王寺門跡大僧正圓朗、刻者：内藤慶雲
碑：『重修石垣碑』行28字10行。碑陰：寄進人名を列挙。篆額：『除災招福』天台座主大僧正源應。
 - 7、『施無畏』碑、一九八〇（昭和五五）年、寛永寺境内（上野）
 - 8、『洗心』（水屋）、一九三四（昭和九）年、東叡山護国院（上野）境内
 - 9、『甲子講創立十五周年記念碑』、一九三九（昭和一四）年揮毫・建立、東叡山護国院（上野）境内
 - 10、『高林謙三翁頌徳碑』、一九五〇（昭和二五）年、川越大師・星野山喜多院（埼玉県川越市）境内、製茶機械の発明で茶の普及に貢献した高林謙三（一八三二（天保三）年～一九〇一（明治三四）年）をたたえる碑
 - 11、『南無釋迦牟尼佛』一九六五（昭和四〇）年五月三日、天台宗安養院
 - 12、『参衆殿』、一九二八（昭和三）年、氷川神社（品川区西五反田）
 - 13、『三井銀行 ロゴタイプ』、一九五五（昭和三〇）年頃
 - 14、『足利銀行 ロゴタイプ』、一九六〇（昭和三五）年頃
 - 15、『久月総本店 ロゴタイプ』、昭和初期
- その他、中国個展会場写真、大字揮毫などの記録写真パネル多数。

後藤良篇出品作品

No.	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	
●出品作品一覧					
1	『レリーフ インド人』	1895(明治28)頃 (10代前半)	木彫	径45.0×2.2	個人蔵
2	『埋もれたる古都』	1925(大正14)	木彫彩色	101.0×78.0×193.0	第6回帝展、(株)東急レクリエーション蔵
3	『能彫 瀬尾要君の熊坂』	1930(昭和5)	素材不明	110.0×105.0×205.0	第11回帝展、交詢社蔵 (展覧会後寄贈により、筑波大学蔵)
4	『能彫 狸々』	1930(昭和5)	木彫彩色	14.0×13.6×26.0	個人蔵
5	『道成寺』	1932(昭和7)	木彫彩色	61.5×52.0×187.0	第12回帝展、道成寺蔵(和歌山県)
6	『寶生重英匠能姿國栖』	1935(昭和10)	木彫	90.0×77.0×h.145.0	文展招待展(昭和11年)、耕三寺博物館蔵(広島県豊田郡瀬戸田町)
7	『鍾馗』	1936(昭和11)	木彫彩色	22.8×20.6×37.8	個人蔵
8	『葵上』	1936(昭和11)	木彫彩色	15.0×13.5×34.0	出品展不明、個人蔵
9	『葵上』	1936(昭和11)	木彫彩色	15.0×13.5×34.0	出品展不明、個人蔵
10	『道成寺』	1936(昭和11)		11.5×12.0×33.5	個人蔵
11	『立花供養』	1937(昭和12)	木彫彩色	69.0×63.0×h.167.0	第1回新文展、耕三寺博物館蔵(広島県豊田郡瀬戸田町)
12	『狛犬』	1940(昭和15)頃	木彫	阿:19.4×12.2×21.6 昨:20.5×13.8×24.0	個人蔵
13	『聖徳太子像』	1943(昭和18)	木彫	4.3×3.4×9.5 (厨子:11.2×9.4×18.5)	個人蔵
14	『羽衣 写野口兼資師能姿』	1943(昭和18)	木彫彩色	17.0×14.6×33.8	個人蔵
15	『能彫 小鍛冶 金剛巖師能姿』	1944(昭和19)	木彫(箱)	34.0×31.5×66.0	戦時特別文展、個人蔵
16	『能野口兼資師黄石公』	1946(昭和21)	木彫彩色	25.0×27.8×56.2	第2回日展(特選、政府買上)、東京芸術大学大学美術館蔵
17	『能彫 黄石公』	1946(昭和21)	木彫彩色	17.8×16.6×34.5	個人蔵
18	『能彫 熊野』	1946(昭和21)	木彫彩色	16.0×15.1×23.0	個人蔵
19	『玉椿』	1950(昭和25)以前		10.0×11.5×17.7	個人蔵
20	『能彫 石橋』	1950(昭和25)	木彫	37.3×29.7×45.6	第6回日展、個人蔵
21	『翁(面)』	1950(昭和25)	木彫彩色	13.5×6.5×41.0	御菓子司玉川屋蔵
22	『蘭』	1951(昭和26)	木彫彩色	19.6×18.7×58.0	第7回日展、後藤方子・正治蔵
23	『能彫「嫉捨」野口兼資師能姿』	1953(昭和28)	木彫彩色	23.8×22.2×42.0	第9回日展、御菓子司玉川屋蔵
24	『翁』	1954(昭和29)	木彫彩色	20.9×20.4×39.0	第8回能彫会展、個人蔵
25	『能彫 船弁慶(宝生九郎師能姿)』	1954(昭和29)	木彫彩色	40.0×48.0×73.0	第10回日展、個人蔵
26	『観世音菩薩』	1955(昭和30)以前	木彫	15.3×13.2×47.0	常行寺(広重堂)蔵
27	『安藤広重像』	1955(昭和30)	木彫	19.3×17.3×25.5	常行寺(広重堂)蔵
28	『能彫 隅田川 土岐善磨博士能姿』	1955(昭和30)	木彫彩色	18.9×17.1×h.35.4	第11回日展、個人蔵
29	『帯止め 翁』	1956(昭和31)	木彫(箱)	4.3×2.0×6.6	個人蔵
30	『鶏』	1957(昭和32)	木彫彩色	13.5×5.9×8.4	個人蔵
31	『持花少女』	制作年不明	石膏	22.0×19.0×h.68.0	耕三寺博物館蔵(広島県豊田郡瀬戸田町)
32	『鍾馗』	制作年不明	木彫彩色	16.4×15.0×34.7	個人蔵
33	『観世音菩薩』	制作年不明	木彫	5.3×4.7×8.4 (厨子:8.4×7.3×12.6)	個人蔵
34	『能面、増女』	制作年不明	木彫(箱)	13.0×7.2×21.2	個人蔵
35	『能面、獅子口』	制作年不明	木彫(箱)	16.3×10.0×20.4	個人蔵
36	『鶏』	制作年不明	木彫(箱)	11.0×4.5×6.7	個人蔵
37	『レリーフ 観音像』	制作年不明	ブロンズ・レリーフ(額)	45.0×53.5×(厚)5.0(額寸)	個人蔵
38	『文鎮・羽衣』	制作年不明		径0.5×1.0	個人蔵
39	『壁掛け 竹』	制作年不明	木彫	22.3×36.6×(厚)1.2	個人蔵
40	『壁掛け・蔬菜』	制作年不明		22.4×33.3×1.8	個人蔵
41	追加出品、『巻絹』	1957(昭和32)	木彫彩色		能彫会十周年記念展、個人蔵

No.	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	
●石膏原型一覧					
P-1	『目黒不動尊仁王像(阿・吽)』 (1尺原型)	1956	石膏	阿：16.0×13.0×32.6 吽：15.3×12.6×32.7	個人蔵
P-2	『目黒不動尊仁王像(阿・吽)』 (1/3、3尺原型)	1957	石膏	阿：29.0×44.0×94.0 吽：27.0×41.0×89.0	目黒不動尊蔵
P-3	『瀬尾要君の熊坂』 (第11回帝展出品作品原型)	1930(昭和5)	石膏	21.6×23.0×34.1 (銘：昭和五年春日後藤良作)	筑波大学蔵
P-4	『鮎川義介氏の像』	1935(昭和10)	石膏	14.0×10.5×46.0 (銘：昭和十年)	筑波大学蔵
P-5	『翁 野口兼資師能姿』	1938(昭和13)	石膏	19.0×14.7×33.0 (良作)	筑波大学蔵
P-6	『狛犬 (箱根神社)』	1940(昭和15)頃	石膏	阿：11.4×19.9×21.8 吽：11.5×20.4×22.8	個人蔵
P-7	『能野口兼資師黄石公』 (第2回日展出品作品原型)	1946(昭和21)	石膏	32.8×23.5×54.7	東京芸術大学大学美術館蔵
P-8	『能 野口兼資師 黄石公』 (作品No.17原型)	1946(昭和21)	石膏	18.0×15.6×34.1 (銘：良作)	筑波大学蔵
P-9	『熊野』(作品No.18原型)	1946(昭和21)	石膏	14.0×12.0×31.6 (昭和二十一年五月、良作)	筑波大学蔵
P-10	『石橋』(第3回日展出品作品原型)	1947(昭和22)	石膏	31.0×26.0×54.5 (銘：昭和二十二年八月二日、良作)	筑波大学蔵
P-11	『能 狸々』	1948(昭和23)	石膏	19.5×17.5×33.7	筑波大学蔵
P-12	『葵上』	1948(昭和23)	石膏	18.0×16.8×46.0 (銘：昭和二十三年三月良作)	筑波大学蔵
P-13	『吉野静』	1948(昭和23)	石膏	33.5×32.5×65.0 (銘：後藤良作、昭和二十三年八月三日)	筑波大学蔵
P-14	『能彫 小鍛冶』 (第5回日展出品作品原型)	1948(昭和23)	石膏	22.6×21.5×43.3 (銘：昭和二十三年十一月二日)	筑波大学蔵
P-15	『菊慈童』	1948 (昭和23)	石膏	16.5×14.0×32.0 (銘：昭和二十三年十二月、良作)	筑波大学蔵
P-16	『玉椿』(作品No.31原型)	1950(昭和25)以前	石膏	12.2×9.2×18.0	筑波大学蔵
P-17	『蘭』(第7回日展出品作原型)	1951(昭和26)	石膏	19.8×18.6×58.7 (良作)	第7回日展出品作(後藤家蔵)原型、筑波大学蔵
P-18	『草紙洗小町』*	1952(昭和27)	石膏	18.5×18.2×34.8 (銘：昭和二十七年二月、良作)	筑波大学蔵
P-19	『喜多長世師能姿 小鍛冶 前シテ』 (第12回日展出品作品原型)	1952(昭和27)	石膏	25.0×17.5×36.5 (銘：昭和二十七年十一月十日)	筑波大学蔵
P-20	『能彫 越捨 野口兼資師能姿』 (第9回日展出品作品原型)	1953(昭和28)	石膏	24.2×22.5×42.6 (銘：昭和二十八年八月二… (不明)、良作)	筑波大学蔵
P-21	『翁』(第8回能彫会展出品作品原型)	1954(昭和29)	石膏	18.0×19.5×37.7、(銘：良作))	個人蔵
P-22	『能彫 船弁慶(宝生九郎師能姿)』 (第10回日展出品作原型)	1954(昭和29)	石膏	38.0×39.0×71.5 (銘：昭和二十九年八月、後藤良作)	筑波大学蔵
P-23	『安藤広重像』(作品No.26原型)	1955(昭和30)以前	石膏	20.8×17.8×25.5 (良作)	常行寺蔵作原型、筑波大学蔵
P-24	『土岐善磨氏 能姿 隅田川』 (第11回日展出品作品原型)	1955(昭和30)	石膏	15.0×14.3×33.0 (銘：良作)	筑波大学蔵
P-25	『随神』(原型)	1955(昭和30)頃	石膏	26.0×27.0×43.0+26.0×28.5×h43.0	根津神社蔵
P-26	『海老沢翁御夫妻木彫座像』	制作年不明	石膏	夫：18.2×16.0×23.4 (良作) 妻：16.8×16.2×22.0	筑波大学蔵
P-27	『江口 後ジテ』*	制作年不明	石膏	18.0×18.0×33.3 (銘：読解不能)	筑波大学蔵
P-28	『祇王 後ジテ』*	制作年不明	石膏	29.0×28.2×53.2 (銘：読解不能)	筑波大学蔵
P-29	『葦刈』	制作年不明	石膏	21.3×20.7×29.2 (銘：良作)	筑波大学蔵
P-30	『敦盛／経正』*	制作年不明	石膏	22.0×15.6×38.0 (銘：良作)	筑波大学蔵
P-31	『公家』*	制作年不明	石膏	18.7×19.2×14.2	筑波大学蔵
P-32	『観世音菩薩』*	制作年不明	石膏	21.2×21.2×66.0	筑波大学蔵

No.	作品名	制作年	素材	寸法(cm)	
P-33	『観世音菩薩』*	制作年不明	石膏	13.2×13.2×38.8	筑波大学蔵
P-34	『地藏菩薩』*	制作年不明	石膏	11.5×11.5×30.2	筑波大学蔵
P-35	『武神立像』*	制作年不明	石膏	20.5×12.4×31.0	筑波大学蔵

*は、本展で付した仮タイトルである。

**以上の作品は、幅×奥行き×高さを基本に、後藤良が、手をかけたと思しき石膏台までも含め、全体の幅、奥行き、高さの最長値を測定した。

●出品資料一覧

『自筆履歴書』				個人蔵
後藤良作品絵葉書など一括 (含「玉川屋しおり」)				個人蔵
京都伏見神社『神馬』関係写真				個人蔵
『目黒不動尊仁王像』				目黒不動尊蔵
『目黒不動尊仁王像』制作関係写真				個人蔵
『能彫会』展リーフレット				個人蔵
亀谷了『目黒不動仁王像の 出来るまで』	1961	青蛙房		目黒区美術館蔵
その他				

●写真パネル展示一覧

後藤良『目黒不動尊仁王像』	1960	木造彩色	h.9尺+9尺	目黒不動尊仁王門設置(写真パネル展示)
後藤良『目黒不動尊狛犬』	1978(安原喜武による 石膏修復・型起こし)	ホワイトセメント		目黒不動尊仁王門設置(写真パネル展示)
後藤良『獅子頭』	1931(昭和6)	木造彩色	未採寸	牛島神社蔵(写真パネル)
後藤良『石彫 獅子狛犬』	1937(昭和12)			北海道函館八幡宮(写真パネル:萬野友良氏撮影)
後藤良『石彫 獅子狛犬』	1940(昭和15)			神奈川県箱根神社(写真パネル:萬野友良氏撮影)
後藤良『石彫 獅子狛犬』	1941(昭和16)			宮城県護国神社(写真パネル:萬野友良氏撮影)
後藤良『石彫 獅子狛犬』	1941(昭和16)			和歌山県竈山神社(写真パネル:萬野友良氏撮影)
後藤良『石彫 獅子狛犬』	1943(昭和18)			福井神社(写真パネル:萬野友良氏撮影)
後藤良『神馬』	1938(昭和13)	木彫彩色		京都府伏見神社(写真パネル:オリジナル写真(個人蔵)複写)

●参考出品

作者不詳『仁王尊像』	1856(安政3)	未採寸		東叡山護国院(大黒天)蔵
後藤貞行『御愛馬 金華山号』	1884(明治17)	ブロンズ(箱)	19.4×7.2×10.2	個人蔵

●展覧会全体参考出品

川端竜子『目黒不動尊本堂 天井画』複製	(原画:1949(昭和24) 制作、1975(昭和50) 災禍)		90.0×179.0	2002(平成14)年目黒不動尊瀧泉寺複製、 目黒不動尊瀧泉寺蔵
------------------------	--	--	------------	-------------------------------------

目黒区美術館コレクション展 —新収蔵品を中心に—

会期：2005(平成17)年5月28日(土)～6月26日(日)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール

主催：目黒区美術館

担当：佐川夕子

目黒区美術館の作品収集が始められたのは、開館の1987年に先立つこと6年、美術館がまだ開設準備室だった頃の1981年までさかのぼる。美術館の作品収集は、購入以外にも、所蔵家の方々や作家およびご遺族の方々からの寄贈や、作品との思いがけない出会いが契機となってなされる場合がある。

本展では、近年新たに収蔵された作品とこれまでに寄贈された作品を中心に、当館の長い収集活動を振り返りながら当館のコレクションを紹介した。作品の配置を、その作品が当館に「収蔵された年度」の順番にあえて並べたことによって、当館のコレクション活動の歩みが俯瞰できる展覧会となった。

●ポスター

サイズ：B3(横)

デザイン：スペースM(三宅ひさこ)

●チラシ

サイズ：A4

デザイン：スペースM(三宅ひさこ)

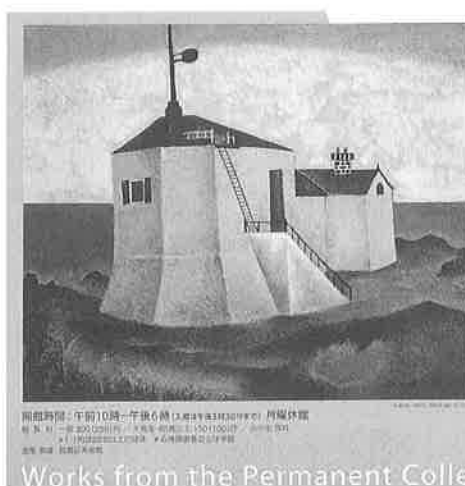
●関連催事

当館学芸員によるギャラリー・トーク

日時：6月4日(土)、6月18日(土) 各日とも午後2時から



会場風景



ポスター

目黒区美術館
コレクション展
—新収蔵品を中心に—

2005年
5月28日(土)～6月26日(日)



目黒区美術館
Museum of Modern Art Tokyo
目黒区美術館
〒150-8501 東京都目黒区目黒1-10-1
TEL: 03-3711-1001 FAX: 03-3711-1002
http://www.mmata.jp

出品作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	備考
<A展示室>						
A-1	藤田 嗣治	動物群	1924	油彩・キャンバス	97.0×145.5	1981年度/第1回 購入
A-2	国吉 康雄	風景	1929	油彩・キャンバス	50.8×76.5	1981年度/第1回 購入
A-3	須山 計一	自画像	1926	油彩・キャンバス	53.0×41.0	1981年度/第1回 寄贈
A-4	須山 計一	自画像	1929	コンテ・紙	35.7×26.5	1981年度/第1回 寄贈
A-5	児島 善三郎	フランス風景	1927	油彩・キャンバス	65.3×80.4	1982年度/第2回 購入
A-6	横手 貞美	風景	1927-30	油彩・キャンバス	52.0×72.0	1982年度/第2回 寄贈
A-7	矢橋 六郎	アルルカン	1933	油彩・キャンバス	92.2×65.5	1983年度/第3回 寄贈
A-8	田中 阿喜良	顔 (タバコ)	制作年不詳	油彩・キャンバス	33.4×41.7	1983年度/第4回 寄贈
A-9	里見 勝蔵	雪景	1925頃	油彩・キャンバス	65.4×80.6	1983年度/第5回 購入
A-10	山尾 薫明	夜のノートル・ダム	1933	油彩・キャンバス	81.1×53.1	1983年度/第5回 寄贈
A-11	藤田 嗣治	静物(インク壺)〔シャーマン・コレクション〕	1926頃	銅版・紙	27.0×34.5	1983年度/第5回 購入
A-12	藤田 嗣治	陶器 燭台女〔シャーマン・コレクション〕	1947	陶器	径15.5 高25.5	1983年度/第5回 購入
A-13	藤田 嗣治	人形 Kiss me〔シャーマン・コレクション〕	制作年不詳	木・彩色	幅19.0×奥行4.5×高8.5	1983年度/第5回 購入
A-14	村井 正誠	ゴルジュ・ド・ルー	1928	油彩・キャンバス	80.4×100.4	1984年度/第6回 寄贈
A-15	近藤 吾朗	マルセーユの心象	1960	油彩・キャンバス	91.0×73.4	1984年度/第6回 寄贈
A-16	岡 鹿之助	信号台	1926	油彩・キャンバス	45.7×53.2	1985年度/第7回 購入
A-17	高島 達四郎	食卓	1927	油彩・キャンバス	80.9×99.8	1985年度/第7回 購入
A-18	岡田 謙三	銀	1954-55	油彩・キャンバス	159.5×213.5	1985年度/第8回 寄贈
A-19	荒川 修作	無題	1964	油彩・キャンバス	158.1×114.4	1986年度/第9回 購入
A-20	長谷川 潔	サン・ポール・ド・ヴァンスの村	1929	メゾチント・紙	画13.7×17.8	1986年度/第10回 購入
A-21	長谷川 潔	コップのダリア	1930	メゾチント・紙	画23.8×18.7	1986年度/第10回 購入
A-22	浜口 陽三	パリの屋根	1956	カラーメゾチント・紙	画14.8×19.9	1986年度/第10回 購入
A-23	駒井 哲郎	静物	1975	アクアチント、ソフトグラウンドエッチング・紙	画18.3×15.0	1991年度/第14回 購入
A-24	清原 啓子	領土	1981	エッチング・紙	画49.4×40.8 シート61.5×50.8	1990年度/第13回 寄贈
A-25	蒲地 清爾	蜃気楼	1988	エッチング、アクアチント・紙	画60.2×45.2 シート77.8×53.0	2003年度/第24回 寄贈
A-26	久保 卓治	Brazilian Dragonfly	1988	エングレーヴィング・紙	画15.0×18.0 シート38.0×28.5	2003年度/第24回 寄贈
A-27	安原 喜明	窯変青釉花生	1935頃	陶	径28.0 高37.0	1988年度/第11回 寄贈
A-28	安原 喜明	花器灰かむり焼きメ	制作年不詳	陶	幅33.0×奥9.0×高40.0	1988年度/第11回 寄贈
A-29	安原 喜明	炆器多口瓶花挿	制作年不詳	陶	径20.0 高41.5	1988年度/第11回 寄贈
A-30	古茂田 守介	静物	1957	油彩・キャンバス	61.0×80.5	1990年度/第13回 寄贈
A-31	赤穴 宏	作品 (邑)	1961	油彩・キャンバス	145.5×112.0	1991年度/第14回 寄贈
A-32	住川 忠夫	無題I	制作年不詳	アクリル・キャンバス	100.0×100.0	1991年度/第14回 寄贈
A-33	住川 忠夫	無題II	制作年不詳	アクリル・キャンバス	100.0×100.0	1991年度/第14回 寄贈
A-34	村上 友晴	無題I	1984	油彩、アクリル・紙	59.0×47.2	1992年度/第15回 寄贈
A-35	村上 友晴	無題II	1984	油彩、アクリル・紙	59.0×47.2	1992年度/第15回 寄贈
A-36	野村 耕	集	1964	油彩、紙型、カシュー・ボード	151.0×91.0	1989年度/第12回 寄贈
A-37	木村 嘉子	作品M	1963	油彩・キャンバス	137.0×75.0	1991年度/第14回 寄贈
A-38	下村 良之介	鳥たちの壁B	1964	紙粘土、顔料、紙・合板	182.0×268.8	1993年度/第16回 寄贈
<B展示室>						
B-1	三浦 景生	布象嵌 サクランボ 貝文	1994	布象嵌、染、顔料、絹布・額装仕立て	20.0×15.0 額40.0×31.0×3.0	1998年度/第20回 寄贈
B-2	麻田 脩二	偶	1962	ステンシル・布	110.0×154.0	1998年度/第20回 寄贈
B-3	野村 久之	透明な太陽	1958	顔料、箔・紙	80.0×121.0	1999年度/第21回 寄贈
B-4	野村 久之	メカニズム	1959	顔料、箔・紙	120.0×187.5	1999年度/第21回 寄贈
B-5	山田 光	陶標	1971	陶、かけ利・流し掛け	幅17.0×奥16.0×高112.0	2000年度/第22回 寄贈
B-6	山田 光	銀泥 矩形とパイプ	1995	陶、銀泥	幅38.5×奥8.0×高56.5	2000年度/第22回 寄贈

No.	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ(cm)	備考
B-7	小堀 四郎	モンシーニ老人	1930	油彩・キャンバス	71.0×59.0	2001年度/第23回 寄贈
B-8	小堀 四郎	フランスの朝	1928	油彩・キャンバス	60.5×73.0	2001年度/第23回 寄贈
B-9	小堀 四郎	コルドバ	1932	油彩・ボード	32.6×40.7	2001年度/第23回 寄贈
B-10	小堀 四郎	マラケシュ	1932	油彩・ボード	32.4×41.6	2001年度/第23回 寄贈
B-11	小堀 四郎	ローマ	1933	油彩・板	18.7×24.1	2001年度/第23回 寄贈
B-12	荻須 高德	パリのカフェ	1931	油彩・キャンバス	60.6×72.7	1992年度/第15回 購入
B-13	荻須 高德	サンマルタン通り	1960	水彩・紙	32.0×50.0	2003年度/第24回 管理換え (ピリエの会寄贈)
B-14	高野 三三男	人形を持ったパリジェンヌ	1924-40	油彩・キャンバス	65.0×49.5	1995年度/第18回に寄託を受け ていたものを翌年度に購入
B-15	高野 三三男	白衣夫人	1939	油彩・キャンバス	91.2×65.1	1998年度/第20回 寄贈
B-16	高野 三三男	きつねと女	1926頃	油彩・キャンバス	130.0×195.0	2004年度/第26回 寄贈
B-17	小柳 正	虎と女	1920-37	油彩・キャンバス	97.0×130.0	2004年度/第26回 寄贈
B-18	田淵 安一	天の史	1954	油彩・キャンバス	85.1×72.8	1985年度/第8回 購入
B-19	田淵 安一	花の中にまた花が	1975	油彩・キャンバス	99.0×131.0	2004年度/第26回 寄贈
B-20	田淵 安一	春 No.4	1997	油彩・キャンバス	133.0×97.0	2004年度/第26回 寄贈
<C展示室>						
C-1	青木 野枝	雲垣 (5点組)	1997	ドライポイント・紙	シート 各52.0×43.0	2001年度 購入 (版画集)
C-2	小林 孝亘	Untitled	1988	木炭・紙	109.0×78.5	2004年度/第26回 寄託
C-3	小林 孝亘	Untitled	1993	パステル・イラストボード	101.0×89.0	2004年度/第26回 寄託
C-4	小林 孝亘	Untitled	1993	インク、アクリル、コラージュ・紙	19.0×19.0	2004年度/第26回 寄託
C-5	小林 孝亘	Dream	1993	リトグラフ・紙	画25.5×35.0 シート 32.0×45.0	2003年度 購入 (版画集)
C-6	小林 孝亘	Television	1993	リトグラフ・紙	画25.5×25.5 シート 45.0×32.0	2003年度 購入 (版画集)
C-7	小林 孝亘	Class room	1993	リトグラフ・紙	画35.0×25.5 シート 45.0×32.0	2003年度 購入 (版画集)
C-8	小林 孝亘	Dish (with chopsticks)	1996	インク・紙	画12.0×17.0 シート 35.0×25.0	2004年度/第26回 寄託
<1階エントランス・ホール>						
E-1	青木野枝	Untitled	1994	鉄	高300.0 径120.0 7パーツ	2003年度/第24回 寄贈

アートオブ スター・ウォーズ エピソード3展

会期：2005年7月8日(金)～9月4日(日) (51日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ

主催：目黒区美術館、シーボルト財団、フジテレビジョン

企画：ルーカスフィルム、財団ハタスタフティング

後援：朝日新聞社

協力：日本航空

他会場同時開催：アートオブ スター・ウォーズ エピソード3展

会期：2005年7月8日～8月21日

会場：東京国際フォーラム

主催：シーボルト財団、フジテレビジョン

巡回スケジュール：2005年3月18日～6月26日 愛知万博ささしまミュージアム

2005年9月9日～10月22日 北海道立近代美術館

1977年に始まった映画「スター・ウォーズ」シリーズの最終回「エピソード3」の公開に合わせた展覧会。悪の化身「ダース・ベイダー」がいかにして誕生したかを描いており、ルーカスフィルムの協力のもと物語の完結に欠かせないセットや小道具など様々な作品175点を展示した。

●カタログ

寸法：22.4×29.7cm

ページ数：278ページ

●ポスター

サイズ：B2

●チラシ

サイズ：A3

●バナー

寸法：60×110cm



会場風景



会場風景



ポスター

チャールズ&レイ・イームズ—創造の遺産

会期：2005年10月8日(土)～12月11日(日)(56日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ 区民ギャラリー(11月22日～)

主催：目黒区美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会

協賛：hhstyle.com、花王株式会社、コダック株式会社、宝塚造形芸術大学・大学院、立川ブラインド工業株式会社・図書印刷株式会社、日本アイ・ピー・エム、ハーマンミラージャパン株式会社、非破壊検査株式会社、ビーバンジョア株式会社

協力：日本航空

後援：アメリカ大使館、日本インテリア学会

担当学芸員：降旗千賀子

日本展巡回スケジュール：2004年11月2日～12月26日 和歌山県立近代美術館

2005年3月3日～3月14日 大丸ミュージアム・東京

2005年3月24日～4月4日 大丸ミュージアム・梅田

2005年4月14日～4月25日 大丸ミュージアムKYOTO

2005年5月3日～6月12日 愛媛県美術館

20世紀、アメリカの高度成長期を背景に活躍したイームズ夫妻は、21世紀に入りますますその評価が高まり、最近では、家具やインテリアだけにとどまらない彼らの多彩な仕事の展開に対しても、様々な視点から再評価されるようになってきた。

二人の絶妙なコンビネーションによる仕事は、グラフィック、展覧会構想、展示デザイン、短編映画制作、教育、遊具作成などにも及び、私たちに「本当のデザインとは何か？」を考えるヒントを今も与えてくれる。

イームズフィルム34本を所蔵する当館では、1997年から始まった世界巡回展の日本ツアー最終会場、完全版として開催した。

●カタログ

寸法：22.7×30.2cm

ページ数：181ページ

内容：はじめに／ご挨拶 [ジェームズ・H・ビリングトン]／序文 [アレクサンダー・フォン・フェガサック]／謝辞 [アイリーン・チェインバーズ]／序論 [ドナルド・アルブレヒト]／イームズを他から分けるもの・イームズがつなぐもの [藤田治彦]／デザインは行為の計画である [ドナルド・アルブレヒト]／チャールズ・イームズとレイ・カイザーのオフィス：主な足跡 [ジョーゼフ・ジヨバンニニ]／導き出された<かたち>たち：イームズの家具・プロトタイプ・実験をめぐるフォト・エッセイ [ドナルド・アルブレヒト]／ポップ・カルチャーにおけるイームズ的美学：イームズ・チェア—小史 (参考解説) [今井美樹]／しあわせなタコ：科学を学び、それを映像で教えるチャールズとレイ [フィリップ&フィリス・モリソン]／イームズ・ハウスについての考察 [ピアトリス・コロミーナ]／チャールズ&レイ・イームズのパースペクティブ：現在に私達が得るべきもの [降旗千賀子]／評価／フィルムグラフィック／参考文献

●ポスター

サイズ：B2

デザイン：大森裕二

●チラシ

サイズ：A4・A5

デザイン：大森裕二

●バナー

寸法：60×100cm

デザイン：大森裕二

●関連催事

○イームズ展開催記念公演会 チャールズ&レイ・イームズ創造の遺産

1. イームズ・デミトリアス（イームズ・オフィス）+植田実（建築評論家）

2005年10月30日（日）14：00～17：00 目黒区民センターホール

2. イームズ、ネルソン、ジラード 企業とデザイナーのパートナーシップと社会貢献－ハーマンミラー社の実践

ジョン・ベリー（前ハーマンミラー社広報担当役員、現グレイストン社シニアコンサルタント）

2005年11月4日（金）18：30～18：30 目黒区民センターホール

3. 芸術とコミュニケーション21世紀イームズ・デザインの社会的可能性

藤田治彦（環境芸術学、デザイン史、大阪大学教授）+塚田耕一（近代建築史、近代デザイン史、杉野服飾大学教授）

2005年11月6日（日）14：00～16：30

○映画上映

1. イームズフィルムセレクション〔アメリカのミッドセンチュリー〕

2005年11月23日（日）14：00～16：30

2. イームズフィルムセレクション〔芸術と科学〕

2005年11月27日（日）14：00～16：30

*ワークショップは、教育普及事業に記載



会場風景



ポスター

BIOGRAPHY

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
1	猫のマスクをつけたレイ	1971	写真パネル	1	143×207
2	道化師のマスクをつけたチャールズ・イームズ	1977	写真パネル	1	143×207
3	c) 『アーツ&アーキテクチャー』誌表紙デザイン	1940頃	色鉛筆、鉛筆、トレーシングペーパー	1	41.3×34.6
4	レイ・イームズ作、チャールズのためのコラージュ	1960	(複製)	1	36.2×27.6
5	レイ・イームズのデザイン、『アーツ&アーキテクチャー』誌表紙 a) 42年4月 b) 44年1月	1942 - 44	印刷物	2	each 34×27
6	チャールズ・イームズ作、1929年の旅行スケッチより、ヨーロッパ市街		エッチング、紙	1	32.4×18.4
7	レイ・カイザー (イームズ) 作、ファッション画	1930代	鉛筆、紙	1	12.7×7.62
8	レイ・カイザー (イームズ) 作、ニューヨークのマディソン・スクエア・ガーデンで開かれたリングリング・ブラザーズ・サーカス公演のスケッチとメモ	1938	鉛筆、紙	3	25.7×20.8×3点
9	ドット・パターンの布を手にするレイ・イームズ	1947頃	写真 (複製)	1	36×?
10	チャールズのイラスト「デザインとは何か」、パリの装飾美術館の展覧会より	1969	写真パネル	1	95×103
11	a) 「マスマティカ」展のコンセプトモデルと夫妻 b) オフィスの夫妻 c) イームズ夫妻のデザイン、1946年のクリスマスカード		写真パネル	3	47×207
12	チャールズ・イームズのデスク	1976	写真 (複製)	1	36×
13	レイ・イームズのデスク	1976	写真 (複製)	1	36×
14	成型合板の飛行機用安定板	1943	成型合板	1	174×11.5×78
15	ダイニング・チェア (DCW)	1945	成型合板、ゴム	1	74×50×55.4
16	ダイニング・チェア (DCW)	1945	成型合板、ゴム	1	73×49.5×55
17	「インド報告書」最初のページ	1958	タイプ	1	28×22
18	タイトル不明		紙 平面作品		
19	若き日のイームズ夫妻	1948	写真パネル	1	143×207
20	レイ・イームズのデザイン、『アーツ&アーキテクチャー』誌表紙 12点	1942 - 44	印刷物 (複製)	12	
21	インタビュー集『オーラル・ヒストリー』×2台		映像	2	
22	『901・45年間の仕事ののち』	1989	映像	1	

SPACE

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
23	①ケース・スタディ・ハウス8 (初期) ・9、敷地配置図②③ケース・スタディ・ハウス、窓とドアのある案④ケース・スタディ・ハウス、正面及び断面図⑤ケース・スタディ・ハウス、透視図敷地配置図、断面図⑥ケース・スタディ・ハウス、敷地配置図、断面図⑦ケース・スタディ・ハウス、正面⑧ケース・スタディ・ハウス、正面と細部⑨ケース・スタディ・ハウス図面⑩ケース・スタディ・ハウス螺旋階段図面	1948 - 49 頃	青写真 (複製) を収めたポスターラック	10	ポスターラックのサイズ115×170
24	組み上げられたばかりのイームズ・ハウスのスチール・フレームの上に立つチャールズとレイ	1949	写真パネル	1	143×207
25	ビリー・ワイルダーのビヴァリー・ヒルズの家、初期案	1950頃	色鉛筆、トレーシングペーパー	1	45.4×52.4
26	ビリー・ワイルダーのビヴァリー・ヒルズの家、内部鳥瞰図	1950頃	鉛筆、トレーシングペーパー	1	
27	ビリー・ワイルダーのビヴァリー・ヒルズの家、初期敷地配置図	1950頃	鉛筆、トレーシングペーパー	1	
28	ビリー・ワイルダーのビヴァリー・ヒルズの家、平面と立面図	1950頃	鉛筆、トレーシングペーパー	1	
29	ビリー・ワイルダーのビヴァリー・ヒルズの家、透視図 (案)	1950頃	色鉛筆、トレーシングペーパー	1	

SPACE

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
30	ピリー・ワイルダーのビヴァリー・ヒルズの家、透視図 (案)	1951	色鉛筆、トレーシングペーパー	1	
31	イームズ・ハウス 第一案 (図面)	1945頃	(複製)	1	36.8×54×2.5
32	ハング・イット・オール	1952 - 53 デザイン、 1953 - 57 製造	スチールワイヤ、木	1	39×50.5×16.5
33	チャールズのイラスト「家とは何か」、『アーツ・アンド・アーキテクチャー』誌1944年7月号	1944	写真パネル	1	143×207
34	イームズ収納ユニットのパンフレット	1950頃	印刷物	1	22.2×28.6
35	ハンス・ホフマンが描いた絵画	1930代	(複製)	1	70×70
36	カードの家 (ハウス・オブ・カード) 現代版	1952		1	43×64.6×40.5
37	イームズ・ハウス模型1:15	1997	造形	1	64×381×76.8 (2パーツで構成)
38	『ハウス・5年間の居住ののち』『ハウス・48年間の居住ののち』	1955・ 1997	映像	2	

CULTURE

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
39	『アメリカの光景』	1959	映像	1	
40	カルチャー・プロセス・インターラクティブ		映像	1	
41	デザイン・プロセス・インターラクティブ		映像	1	
42	櫛のコレクション	?	小物	65?66?	カバー-30.5×41.3×91.4
43	メキシコ、インド民芸のコレクションa) インドの彩色胸像b) インドの無彩色胸像c) 赤い塔d) 箱e) 横たわる犬f) 虎g) 牛h) メキシコの金属の樹i) インドの像j) 立っている赤い犬k) 刺繍したバッグl) ボウル	1958頃	小物	12	カバー-a) b) 71×51.4×26.7 c) 47.6×18.4×18.4 d~g) 26×122×21.6 h) 56×56.5×21.6 i) 106.7×71×127
44	イームズ・オフィスのコレクション11点 人形2点 (寝かせて)、ワイヤーのオブジェ、人形 (立たせて) 2点、量り、箱入り時計、拡大鏡、定規、足、ペーパーウェイト	?	小物	11	カバー-a~c) 26×34.3×24 d-e) 35×20×20 f~i) 25.4×56×36.2
45	モスクワで開かれた「アメリカ博」のドーム模型の中のチャールズ・イームズ	1959	写真パネル	1	143×207
46	「アメリカ博」のために映画フィルムを手に、モスクワに向けてロサンゼルスを出発する夫妻	1959	写真 (複製)	1	36×?
47	「アメリカ博」で発表された『アメリカの光景』	1959	写真 (複製)	1	36×?
48	5) インドの写真6点 (パネル1枚) 6) インドの水壺の写真6点 (パネル1枚)	?	写真パネル	12	5) 47×69 6) 47.5×69
49	モスクワの「アメリカ博」で行われた「台所論争」(ニクソン副大統領とフルシチョフ首相)	1959	写真 (複製)	1	36×
50	映画『アメリカの光景』のストーリー計画	1959	(複製)	1	56.5×22.5
51	映画『アメリカの光景』カメラレポート	1959	鉛筆、紙	1	18×22
52	『アメリカの光景』台本	1959	(複製)	1	54.3×33
53	レイ・イームズのデザイン、タイム・ライフ・ツール 現代版 9点		木	9	
54	インドのイームズ・オフィスの同僚、シャー氏の家族からレイ・イームズ宛ての新年の手紙	1981	ボールペン、紙	1	28.7×23
55	インド国立デザイン研究所、プレム・バラ氏とアショク・チャタージーからレイに送られた季節の挨拶状	1977	印刷物	1	38×55
56	H.Y.シャラダ・プラサド氏からアショク・チャタージー氏に宛てた手紙、チャールズについて言及	1977	タイプ	1	26×20.8
57	リビングルームのイームズ夫妻	1958	写真 (複製)	1	

BEAUTY

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
58	アトリエのジャクソン・ポロック (画家)	1950	写真パネル	1	143×103
59	イームズ・オフィスのスライドコレクション(581枚)	?	スライド(複製)	2	
60	レイ・イームズ作、成型合板で作った立体作品	1943	成型合板	1	78.7×45.1×43.2
61	『水槽』	1970	映像	1	
62	『アスファルト：校庭を洗う物語』	1952頃	映像	1	

SCIENCE

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
63	「マスマティカ」展の研究メモ	1961	タイプ、色鉛筆、紙	1	22.2×28.6
64	『パワーズ・オブ・テン』関連作品 (変更あり)	1977頃	色鉛筆、写真コラージュ	1	直径約13.4
65	メビウスの輪	1961	(複製)	1	210×90×90
66	『パワーズ・オブ・テン』	1977	映像	1	
67	『コマ』	1969	映像	1	
68	『パワーズ・オブ・テン』のプロダクションパネル32点	1977頃	(複製)	1	each114.3×109.2×7.2

FURNITURE

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
69	座面と背もたれの調整ジグ (治具)	1945	写真 (複製)	1	12×
70	「カザム!マシン」を置いたイームズ夫妻のロサンゼルスのアパート	1941	写真 (複製)	1	12×?
71	成型合板の副木 (レッグ・スプリント)	1941頃	成型合板	1	10×107×20
72	「面積あたりの販売促進-チャールズ・イームズの家具の展示方法」パンフレット	1954頃	印刷物	1	開いて21.6×56
73	背もたれつきチェア 金属ベース試作品 (3点)	1945	スチール	3	53.4×51.9×74.51(ほか)
74	成型合板チェアの金属の脚で「ピン留め」されたイームズ夫妻	1947	写真パネル	1	143×207
75	タンデム・スリング・シーティングに座るスタッフのジム・サマーズ	1962頃	写真パネル	1	143×207
76	ハーバート・マター作、フォトコラージュ	1946	複製	1	435×291 (枠付き)
77	繊維ガラス強化プラスチック・チェアを製造するための金型	1950頃	金属	1	130×118×~122 (200kg)
78	成型合板チェアの強度をデモンストレーションするためにイームズ・オフィスが造った回転ドラム	1946	木ほか (複製)	1	185×175×117.5
79	カザム!マシン	1941	木ほか (複製)	1	99×107×102
80	傾斜・回転ラウンジ・チェア “インドア・アウトドア”	1958-59デザイン、製造	アルミニウム、スチール、布、プラスチック	1	89×54.5×72
81	コーヒー・テーブル (ETR)	1951デザイン、1952-64製造	合板、プラスチック板、クロム鋼のワイヤ	1	25.5×74×226
82	繊維ガラス強化プラスチック製のスタッキング・チェア (DSS) 16点	1954デザイン、1955-60製造	繊維ガラス強化プラスチック、金属、ゴム、プラスチック	16	168×59×48
83	ラウンジ・チェアとオットマン (No.670/671)	1956-60デザイン、製造	成型合板、アルミニウム、皮革、ゴム、プラスチック	1	a) 43×65.2×53.5 b) 84×84.5×85
84	折り畳み式スクリーン (FSW6)	1946デザイン、1946-55製造	成型合板、キャンバス地	1	折り畳んで173×15×25
85	折り畳み式ソファ 試作品	1951デザイン	ワイヤ、木	1	95×189.5×86
86	ダイニング・チェア (DKR1)	1951デザイン、1951-54製造	クロムスチールワイヤ、布、スチール	1	83.5×48.5×53
87	コーヒー・テーブル (CTW3)	1945デザイン、1947-49製造	成型合板、木	1	40×86.6×86.6

FURNITURE

No.	作 品 名	制作年	素材	点数	サイズ (H×W×D) cm
88	ラウンジ・チェア (LCW)	1945・46デザイン、1945・49製造	成型合板、ゴム	1	67.8×55.8×59.8
89	ロッキング・チェア (RAR)	1948-50デザイン、1950・55製造	繊維ガラス強化プラスチック、スチールワイヤ、木、ゴム	1	68×63×68.5
90	ソファ・コンパクト (S73)	1954デザイン、1960・64製造	スチール、クロムスチール、布ほか	1	88×182×76
91	ハーマンミラー社1949年ロサンゼルスショールーム内部設計図面	1949頃	鉛筆、写真コラージュ、紙	1	23.5×29
92	アルミニウム・シェーズ (ES106)	1968デザイン・製造	アルミニウム、皮革	1	73×46×190
93	アルミニウム・チェアのパーツ (サイド2点、バック3点)	1958	アルミニウム (復刻)	5	21×73×73.5
94	「ラ・シェーズ」の成形型	1948	プラスチック、木	1	79×161×105
95	タンデムスリング・シーティング 現代版 2点		金属、クッション	2	86.5×185×71

めぐろの子どもたち展

平成17年度目黒区立幼稚園、小・中学校連合展覧会

会期：2006(平成18)年1月14日～1月29日(14日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ワークショップ 区民ギャラリー

主催：目黒区立幼稚園長会、目黒区立小学校長会、目黒区立中学校長会、目黒区立心身障害学級設置校長会、
目黒区教育会、目黒区美術館、目黒区教育委員会

担当学芸員：山田敦雄

本展は、目黒区立の幼稚園・小学校・中学校（心身障害学級を含む）の幼児・児童・生徒が平成17年度の授業中に創作した作品を展示し、区立学校における美術教育の成果を区民の方々に紹介するとともに、この鑑賞を介して子どもたちの情操を陶冶することを目的に開催した。

●リーフレット

寸法：A3（六つ折）

内容：ごあいさつ（主催者）／心身障害学級／幼稚園／小学校・図工／小学校・書写／中学校・美術／中学校・書写／目黒区図画工作部
門研究会／展示室案内

●ポスター

サイズ：B3

●出品数：3,879点

（内訳…幼稚園：74点、小学校：2,213点、中学校：1,275点、心身障害学級：283点、奥津学園：34点）



会場風景



ポスター

村田朋泰展—俺の路・東京モンタージュ

会期：2006年2月11日(土・祝)～3月31日(金)(42日間)

会場：展示室A、B、C 展示ロビー エントランスホール ラウンジ

主催：目黒区美術館

協賛：

助成：財団法人朝日新聞文化財団

財団法人花王芸術・科学財団

財団法人地域創造

財団法人野村国際文化財団

協力：NHK/NHKエンタープライズ

展示協力：デザインアンダーグラウンド

担当学芸員：家村珠代

同時開催：

本展は、「青木野枝展—軽やかな、鉄の森」(2000年)、「小林孝亘展—終わらない夏」(2004年)と開催した、頭角を現しつつある同時代作家の作品を積極的に紹介し、サポートをしていくというシリーズの第3弾として開催した。

村田朋泰(1974年、東京生まれ)は、東京芸術大学大学院在学中から、第5回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門の優秀賞をはじめ、国内外の数々の賞を受賞、また人気アーティストMr.Childrenのプロモーションやツアー用ビデオを次々に手掛けるなど、現在、多方面から最も注目を浴びる映像作家のひとりである。

東京の美術館での初めての個展となる本展では、当館の300㎡におよぶ凹凸のある空間に4面1組のインスタレーション映像<東京モンタージュ>、<藍の路>をはじめとする新作映像、それまでのパペット・アニメーション作品に登場する人形たちに絵コンテを加えた展示、さらにセットを再構成して作った<新世界/デロデロ横丁>、LEDの光が音楽に連動して壁一面に踊る<ピコピコ30>とその前に不器用に逆立つくさだちくん>、お腹に自らの映像を流すロボット<ROBO 2006>、村田の妄想世界を箱の中に収めたかのような10個の立体作品、ブルーバードもあれば、村田部屋もある、さらに団地の鉄扉で構成された映画館、駄菓子屋でみかけるガチャガチャなど、まさに美術館全体が村田朋泰の世界となった。中にはギャラリー・ツアーで来館した小学生たちが100円玉をもってやってきてガチャガチャをし、作家からサインをもらった景品をさげ展示室に登っていく、あるいは、お孫さんがおじいちゃん、おばあちゃんの手をひっぱってやってくるといった、微笑ましい姿も珍しくなかった。

●カタログ

寸法：19.2×13.4cm

ページ数：448ページ

内容：『村田朋泰 全絵コンテ集』

目次/絵コンテ (TUG-TUG、せみしぐれ、An Introduction of Human Zoology、BURP、TOKYO、雁連の人、オモヒデ、朱の路、ボンユタウン、いつでも微笑みを、HERO、白の路、PINK、血の管、火吹竹、糸、藍の路、東京モンタージュ) /村田朋泰展—俺の路・東京モンタージュ(家村珠代) /展示風景/出品リスト/略歴/展覧会・上映会歴/主要参考文献/作品リスト/謝辞

デザイン：コギト

●ポスター

サイズ：B2

デザイン：コギト

●チラシ

サイズ：A4
デザイン：コギト

●村田朋泰手描きチラシ（4コマ漫画入り、全6回）

サイズ：A4

●関連催事

- *対談1. 漫画対談 柏木ハルコ（漫画家）／村田朋泰
2月19日（日）14：00-16：00
- *対談2. 映像対談 真島理一郎（映像作家/スキージャンプ・ペア実行委員会会長）／村田朋泰
3月5日（日）13：00-15：00
- *対談3. 映像対談 山下敦弘（映画監督）／村田朋泰
3月5日（日）17：00-19：00
- *村田朋泰によるワークショップ「オリジナル・パペット・アニメーションをつくろう！」
3月12日（日）・18日（土）・19日（日）10：30-16：30
- *番外編特別ワークショップ「古き良き時代のデザイン家電を語る」 松崎順一（デザインアンダーグラウンド店主）／村田朋泰
- *目黒区内小学校との連携プログラム その1. 目黒区立月光原小学校
3月2日（木）、3日（金）
- *目黒区内小学校との連携プログラム その2. 目黒区立向原小学校
3月10日（金）、14日（火）、16日（木）

●主要関連記事

- ・前田恭二「[文化・美術] 内面に立ち返る万感のまばたき」読売新聞（夕刊）2006年3月2日
- ・田中三蔵「[文化・美術] 喪失感・郷愁・・・胸を打つ」朝日新聞（夕刊）2006年3月16日
- ・藤田一人「[美術] ささやかな日常から紡ぎ出す内省的時間」東京新聞2006年3月18日
- ・窪田直子「[夕刊文化] ローテク・アニメ人気復活 CG時代に手作りの味」日本経済新聞（夕刊）2006年3月28日
- ・「人気アニメに魅せられた作家さんたち」『MOE』2006年2月号 pp.66-67
- ・「作家の今 アーティストと美術館の新しい展開」『gallery』2006年3月号 pp.81-85
- ・児島やよい「[アーティストの肖像4 村田朋泰 自らと向き合う強い意志が生む豊かな創作]」『Invitation』2006年3月号 p.112
- ・石川加奈子「美術館でアートを堪能する」『meuble』2006年春季号 pp.107-110
- ・「美術館でアニメーション？ 展覧会の新たなスタイルとなるか？」『美術の窓』
2006年3月号 p.138
- ・「村田朋泰インタビュー アニメーションからアートへ」『美術の窓』
2006年4月号 pp.33-35
- ・布施英利「[ART]「2」の感覚 村田朋泰展」『ブレーン』2006年5月号
p.100
- ・「今月のランキング」『gallery』2006年5月号 pp.106-107
- ・『ピリエ』「特集・村田朋泰展－俺の路・東京モンターージュ」2006年3月
25日号 目黒区美術館ニュース pp.1-8
- ・『新日曜美術館－アートシーン』NHK 2006年2月26日
- ・『BS週間シティー情報』 NHK -BS1 2006年3月4日
- ・『art Love』 フジテレビ 2006年3月17日
- ・『OTAKU～アニメとマンガの世界』クアトロ局（スペイン）



会場風景



ポスター

1. 映像 [23点]

作品名	制作年	上演時間(min.)	上映形態・展示室	その他
TUG-TUG	1998	5' 40"	モニター (B展示室)	
An Introduction of Human Zoology	1998	7' 38"	モニター (B展示室)	
BURP	1998	1' 58"	モニター (エントランス・ロビー)	
TOKYO	1999	6' 00"	モニター (B展示室)	
睡蓮の人	2000	16' 05"	プロジェクター (C展示室)	
オモヒデ	2001	4' 08"	モニター (エントランス・ロビー)	
朱の路	2002	13' 17"	プロジェクター (C展示室)	
ボンユタウン (朋友街) (NHK)	2002	5' 12"	モニター (展示ロビー)	©2002 村田朋泰・NHK・NEP
いつでも微笑みを (Mr.Children Tour 2002)	2002	3' 54"	モニター (B展示室)	©2002 OORONG-SHA
白の路	2003	14' 30"	プロジェクター (C展示室)	
独り言 (ドキュメンタリー映像)	2003	18' 30"	モニター (エントランス・ロビー)	
火吹竹	2004	2' 02"	プロジェクター (C展示室)	
とおりゃんせ	2004	7' 18"	プロジェクター (B展示室)	
さかだちくん走る!	2004	11' 57"	モニター (階段踊り場)	
4人兄弟	2004	0' 55"	モニター (階段踊り場)	
さかだちくん、ひたすら走る!	2005	2' 40"	プロジェクター (C展示室)	
冬の虹	2005	4' 30"	プロジェクター (C展示室)	
metropole	2005	6' 00"	プロジェクター (C展示室)	
空色花色 (美しの森プロジェクト)	2005	6' 40"	モニター (ラウンジ)	
さかだちくん、ひたすら喰う!	2006	2' 24"	プロジェクター (C展示室)	
生は荒川、名は村田朋泰(ドキュメンタリー映像)	2006	30' 00"	プロジェクター (C展示室) / モニター (ラウンジ/B展示室)	Dir.: 来海昌哉
藍の路	2006	13' 30"	プロジェクター (C展示室)	
東京モニタージュ	2006	11' 00"	プロジェクター (A展示室)	

2. 人形 [22点]

作品名	制作年	素材	寸法(cm)
《睡蓮の人》親爺人形	2000	石粉粘土、エポキシパテ、皮、針金、アクリル、樹脂、布、糸、鉛、綿、真鍮、アクリル絵具ほか	25×14×8
《オモヒデ》ロボット	2001	スタイロホーム、石粉粘土、ガラス玉、ひも、ゴム、蝶番、真鍮、アクリル絵具ほか	30×20×10
《朱の路》主人公ピアニスト	2002	ホームラバー、アクリル玉、自由樹脂、鉛、革、布、糸、綿、コルク、真鍮、アクリル絵具、サイカカラーほか	25×10×6
《朱の路》少女	2002	石粉粘土、クレイ粘土、ヒューズ線、ラテックスゴム、布ほか	12×6×6 (椅子付寸法)
《朱の路》牛車使い	2002	ラテックスゴム、石粉粘土、藁、布、糸、貝殻、綿、針金、真鍮、アクリル絵具ほか	22×9×10
《朱の路》列車乗客A	2002	石粉粘土、布、糸、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具ほか	24×12×5
《ボンユタウン》主人公女の子	2002	石粉粘土、布、糸、トンボ玉、ビーズ、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具、油性ニスほか	17×6×4
《ボンユタウン》お母さん	2002	石粉粘土、布、糸、ビーズ、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具、油性ニスほか	23×8×4.5
《ボンユタウン》少年A	2002	石粉粘土、布、糸、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具、油性ニスほか	17×7×5
《ボンユタウン》少年B	2002	石粉粘土、布、糸、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具、油性ニスほか	16×7×3
《ボンユタウン》パイプおじさん	2002	石粉粘土、布、糸、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具ほか	21×8×5
《ボンユタウン》太ったおばさん	2002	石粉粘土、布、糸、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具、油性ニスほか	18×10×5
《ボンユタウン》母方従妹	2002	石粉粘土、布、糸、和紙、コルク、綿、真鍮、アクリル絵具、油性ニスほか	21×9×5
《白の路》主人公ピアニスト	2003	ホームラバー、アクリル玉、自由樹脂、鉛、革、布、糸、綿、コルク、真鍮、アクリル絵具、サイカカラーほか	25×10×6 (帽子付寸法)

作品名	制作年	素材	寸法(cm)
《白の路》少年	2003	ホームラバー、アクリル玉、自由樹脂、毛糸、布、糸、綿、 コルク、真鍮、アクリル絵具、サイカカラーほか	18×7×4
《白の路》少女	2003	石粉粘土、アクリル玉、自由樹脂、毛糸、ビーズ、布、糸、綿、 コルク、真鍮、アクリル絵具ほか	19×17×5
《白の路》少女の母	2003	石粉粘土、アクリル玉、自由樹脂、毛糸、布、糸、綿、コルク、 真鍮、アクリル絵具ほか	22×9×5
《白の路》少女の父	2003	石粉粘土、アクリル玉、自由樹脂、毛糸、布、糸、綿、コルク、 真鍮、アクリル絵具ほか	26×10×5
《白の路》小犬	2003	石粉粘土、ティッシュ、ヒューズ線、アクリル絵具ほか	6.5×2.5×3
《火吹竹》魚男	2004	石粉粘土、生ゴム、アクリル玉、自由樹脂、布、糸、綿、 コルク、ジッパ、木、真鍮、アクリル絵具ほか	29×13×8
《空色花色》主人公女性写真家	2005	ホームラバー、アクリル玉、自由樹脂、毛糸、布、糸、綿、コルク、 真鍮、アクリル絵具、サイカカラー、鉛板、塩ビ板ほか	23×9.5×5
《藍の路》主人公ピアニスト	2005	ホームラバー、アクリル玉、自由樹脂、毛糸、布、糸、綿、 コルク、真鍮、アクリル絵具、サイカカラーほか	26×11×8

3. 絵コンテほか [1点計57枚]

作品名	制作年	素材	寸法(判)
ポニユタウン (朋友街)	2002	鉛筆・色鉛筆・ペンほか、紙	B5、A4

4. 立体ほか [24点]

作品名	制作年	素材	寸法(cm)
VITENAM PHOTOGRAPH MAR 27 2002-APR 04 2002 NO.1	2002	写真ファイル (モノクロ写真 13×17.5cm 40枚)	15×23×2.5
VITENAM PHOTOGRAPH MAR 27 2002-APR 04 2002 NO.2	2002	写真ファイル (カラー写真 13×17.5cm 90枚)	15×23×2.5
VITENAM PHOTOGRAPH MAR 27 2002-APR 04 2002 NO.3	2002	写真ファイル (カラー写真 13×17.5cm 36枚)	15×23×2.5
ミッキィ ストライク	2004	バルサ、石粉粘土、蛍光灯、アクリル板、和紙、布、軽粘土、 額入り写真 (9点) ほか	本体：100×71.5×41 写真 (額子)：34.5×47
三界六道ふらふら	2005	印刷、紙	680×103
イタリア主情主義写真 2005.3	2005	写真ファイル (モノクロ写真 18×12.5cm 70枚)	20×16×4
京都女写真 其ノ一 二〇〇五・七	2005	写真ファイル (モノクロ写真 18×12.5cm 72枚)	20×16×4
京都女写真 其ノ二 二〇〇五・七	2005	写真ファイル (モノクロ写真 18×12.5cm 72枚)	20×16×4
さかだちくん	2005	FRP、アクリル絵具	120×75×45
高土尻望 (こうしけつぼう)	2006	スタイロホーム、石粉粘土、レース、布、ヒューズ線、バルサ、 樹脂	45×45×120
知者乳望 (ちしゃにゅうぼう)	2006	スタイロホーム、石粉粘土、なまり、豆電球、布、ヒューズ線、 バルサ、樹脂	45×45×120
夢精博士 (むせいはいくし)	2006	木材、和紙、スタイロホーム、はとめ、ござ、じゅらく土、粘土、 レース、布、ヒューズ線、バルサ、樹脂	45×45×120
元気幻影 (げんきげんえい)	2006	木材、和紙、スタイロホーム、ござ、アクリル板、蛍光灯、布、 ヒューズ線、バルサ、樹脂	45×45×120
明星洞窟 (みょうじょうどうくつ)	2006	スタイロホーム、石粉粘土、タイル、布、ヒューズ線、バルサ、 樹脂	45×45×120
春機発動 (しゅんきはつどう)	2006	スタイロホーム、木材、ミラーシート、アクリル板、 イルミネーションライト、布各種、ヒューズ線、バルサ、樹脂	45×45×120
痴霊降臨 (ちれいこうりん)	2006	スタイロホーム、木材、樹脂、布、ヒューズ線、バルサ、電球	45×45×120
指虫 (ゆびむし)	2006	スタイロホーム、石粉粘土、石膏、布、ヒューズ線、バルサ、樹脂	45×45×120

作品名	制作年	素材	寸法(cm)
空中家族 (くうちゅうかぞく)	2006	スタイロホーム、スチールペーパー、布、ヒューズ線、バルサ、樹脂	45×45×120
眼吐露歩利酢 (めとろぼりす)	2006	スタイロホーム、木材、布、ヒューズ線、バルサ、樹脂	45×45×120
ROBO 2006	2006	FRP、アクリル絵具、モニター、DVDプレーヤー	210×130×90
SSS GOGO I	2006	車、人形、モニター、DVD、プレーヤー、CDほか	409×156×140
ピコピコ30	2006	木材、アクリル板、LED、コンピューターほか	2950×2500×224
新世界／デロデロ横丁	2006	《暈蓮の人》《オモヒデ》《朱の路》《白の路》《藍の路》《ボンユタウン》 《火吹竹》《空色花色》ほかセットおよび小物など	9500×17000×3400
木造築1974年 家賃35000円 敷金礼金 1ヶ月 最寄駅からバス12分 トイレ付 日当たり良好 閑静な住宅街 銭湯近	2006	6畳間、屋根裏、モニター、プロジェクター、DVDプレーヤーほか	2750×5540×340

参考出品：《BURP》《TOKYO》《オモヒデ》《いつでも微笑を》のぼらぼら漫画

Ⅱ. 教育普及事業

(1) ワークショップ活動

[平成15年度]

① 絵画と色～古典技法をめぐる旅

同時開催の「聖母子と子どもたち」展と緩やかに関連しながら、ヨーロッパのひとびとが長い時間をかけて育んできた絵画の古典技法をテーマにした。西洋絵画の歴史の中で、キリスト教美術を中心に重要な主題として古くから描かれてきた聖母子。その表現に欠かすことのできない「青」をはじめ、技法・材料の側面から絵画の魅力と古典技法の秘密に触れた。

ア. ラピスラズリからウルトラマリンブルーをつくる

講師：石原靖夫（美術家）、富田 忠（美術家）

開催日：8月24日、31日、9月7日

参加者：中学生以上 24人

「聖母子」像の絵画で聖母マリアを描くときに欠かせないのが青い顔料・ウルトラマリンブルー。ラピスラズリ鉱物を砕き、中世の技法書のレシピを読み解きながら、特殊な方法で極上の「青（ウルトラマリンブルー）」をつくった。



イ. 金箔と絵画－古典技法の魅力

講師：寺田栄次郎（金沢美術工芸大学教授、絵画組成研究家）

開催日：8月9日

参加者：高校生以上 32人

14世紀イタリアではキリスト教美術を中心に、金箔を背景にした絵画が多く描かれた。この古典的な技法の魅力と金箔の使用方法を、イコンやレンブラント、さらにアジアや日本の作例も比較しながら、模写や素材、道具を元に、スライドと話、実演で一日古典に触れた。



ウ. 初期油彩画の成り立ち－ファン・アイクから

講師：渡辺郁夫（修復家・修復研究所21）

開催日：8月17日

参加者：高校生以上 31人

15世紀、ベルギー周辺で生まれたフランドル絵画は油彩画の源流といわれているが、その技法は今なお謎の部分が多いとされている。そのフランドル絵画の魅力、修復家の立場からファン・アイクの模写などの紹介・解説を受けた。



エ. 青の話－2つの青い鉱物

講師：降旗千賀子（目黒区美術館学芸員）

開催日：8月16日

参加者：中学生以上 29人

二つの青い鉱物アズライトとラピスラズリから生まれた顔料を中心に、青い色の絵具にまつわる文化史についてスライドを使って解説し、青という色について一緒に考えた。

オ. 目と耳と鼻と味でみる“家族の風景”

講師：非上尚子（美術家）
開催日：8月7日、13日、14日
参加者：小学生 32人

我が家のご馳走。お手伝い。家族記念日。親子喧嘩。

毎日繰り返される家族の生活や出来事をテーマに、<味><匂い><音色>などを意識して、いつもと違った角度から<家>=家族の関係をとらえ、そのイメージを絵に描き壁に貼り家族の風景画にした。



カ. ダイナミックに色で遊ぶ

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：7月21日
参加者：4歳以上の2人1組の家族 16組

例年好評の家族コース。いろいろな色を混ぜ合わせて自分の色をつくり、思い切り大きな紙に絵を描いた。指で描いたり、足で描いたりいろいろなモノを道具にして描いた。



<遊びの広場>

キ. 色の屋気楼

開催日：7月20日、23日、25日、26日、29日～31日
8月3日、6日、8日、10日、15日、20日～23日
27日～30日
参加者：入館者 373人

子供から大人まで、誰でも楽しめる<遊びの広場>。蠟が水を弾く性質を利用して、描いた形が色の中に浮かび上がる不思議な絵をつくり、色で遊んだ。



②2004年夏「色の博物誌・黄」展企画 プレ・ワークショップ

ア. プロジェクト“H” ひまわり

講師：榎本泰紀（ワークショップ・エデュケーター）
開催日：8月1日
参加者：小・中学生 10人

<ひまわり>の黄色は夏の代表的な風物詩の1つ。プロジェクトHでは、黄色満開から命をつなぐタネまで、<ひまわり>の魅力を楽しむため、ひまわりの観察から始まり種を採取、鉢植して、来年の夏に咲かせるため、1年かけて<ひまわり>の生命力と向き合った。

イ. イエローハンティング 街中の黄色を集めよう！

講師：榎本泰紀（ワークショップ・エデュケーター）
開催日：7月24日
参加者：小・中学生 13人

街の中で、黄色はどのようなところに使われ、どのような意味を持っているのか。美術館を出発して、街の中を歩き<黄色>を探す遠足に出かけた。街の広告、ファッション、そして自然。一日遠足しながら、カメラでたくさんの<黄色>を採取した。

ウ. 目黒の街路樹<エンジュ>の黄色

講師：横尾哲生（美術家）、榎本泰紀（ワークショップ・エドゥケーター）

開催日：7月27日

参加者：小学生以上 16人

毎年夏になると、美術館横の山手通りでは<エンジュ>の木が黄色い花をたくさん咲かせる。この花を拾い集めじっくり煮込んで黄色の色素を抽出した。「夏だから」「目黒だから」できる黄色の色づくり、自然の黄色の自然を染めてみた。

③建築教室Ⅲ

ア. イメージの瞬発力-物語を紡ぎ出す写真たち（Aコース）

講師：新 良太（写真家）

開催日：平成16年2月15日、21日、29日、3月14日

参加者：小学生以上 19人

写真の撮り方や見方に想像力をはたらかせて、写真の楽しみ方を探るコース。講師からファインダーを覗いた街の楽しみ方を聞き、みんなでマイ・カメラを持って街に繰り出し撮影した。最後に写真をミックスしてコラージュした。



イ. 目黒照明探偵団-あかりの英雄と犯罪者を探せ！（Bコース）

講師：面出 薫（照明デザイナー）

開催日：平成16年3月20日

参加者：中学生以上 21人

建物や空間を演出する“あかり”の存在について考えた。「世界の夜景」「世界の美術館の照明」について、そして講師が団長を務める「照明探偵団」についてのスライドショーをたっぷり楽しんだ後、夕方から目黒界隈で町の照明を探偵した。



ウ. 私はどこでしょう？建物かくれんぼ絵巻（Cコース）

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エドゥケーター）

開催日：平成16年3月31日、4月2日、4月3日

参加者：小学生 25人

大都会の中に身を隠す生き物。建物の壁、床にある形や模様をフロッタージュ（刷り出し）して大都会に潜む生き物を探すため、目黒区総合庁舎でフロッタージュを行った。



[平成16年度]

①小林孝巨展－終わらない夏

ア．小林孝巨による小林孝巨の世界ツアー

講師：小林孝巨（画家）

開催日：5月22日、23日

参加者：高校生以上 40人

初期の作品のモチーフとなった公園に出かけたり、制作ノートやモチーフに使った模型などを作者自身に紹介してもらった。2日目のお昼には、タイ料理店で昼食をとった。

②色の博物誌・黄－地の力&空（くう）の光

ア．目黒・土のパレット－黄土を探せ！

講師：栗田宏一（美術家・出品作家）

開催日：8月1日、22日

参加者：小学生以上 37人

日本をはじめ、アジア、アフリカなどの地表を旅して、栗田氏がこれまでに集めた土は、約10,000種類に及ぶ。赤、緑、ピンク、黄色、灰色、白など、土は驚くほど多彩な色を呈している。このコースでは、採集地での感動的な秘話や、こうした土を作品として表現する際の様々なエピソードに触れ、土に対する意識を敏感にして、この目黒にどんな土があるのか、栗田氏と一緒に目黒不動などで探した。意外な発見をしながら、独自の“目黒・土のパレット”を作成した。



イ．東西の名画をつらぬく“絵画”の魅力－絵の見方

講師：鈴木省三（美術家・出品作家）

開催日：8月14日、15日、28日、9月5日

参加者：高校生以上 79人

絵に対する見方がわかってくると、とても楽しく絵を鑑賞することができる。このコースでは、“絵画とは何か”という問題を正面から取り上げた。絵画鑑賞の歴史に、今の社会の現実を重ね、私たちの「絵の見方」を点検した。フェルメールの金、ゴッホの黄色、尾形光琳の金などに注目しながら、東西の名画の構造や色に触れ、実際に紙に向かって描いてみた。



ウ．色彩の不思議－“光”を色鉛筆で描く

講師：徳永雅之（美術家・出品作家）、高木佳代子（美術家）

開催日：8月21日・27日・29日

参加者：高校生以上 87人

色鉛筆を混色して、色の仕組みを理解しつつ、積極的に光を意識しながら絵を描いた。色鉛筆の本格的な使い方を知ると、これまでよりモノを見る目が鍛えられる。徳永氏も続けてきた“光を描く”作品制作の話も交えて、目から技から色鉛筆を十分に使いこなし、光の形を追って描いた。



エ. 電撃雷獣伝説－黄色のイメージと力

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）

開催日：7月29日・30日、8月3日

参加者：小学生 66人

自然の黄色と人口の黄色、身の回りから様々な黄色を取り上げ黄色と人とのかかわりを考えた。そして、天から降り注ぐ光の黄色、大地から生まれる黄色、その意味や価値をギャラリーツアーからさぐり、最後に黄色いイメージの印象として、光を自由自在にあやつる力を持った雷神・龍神を力いっぱい描いた。



オ. 魔法の光－ロウソクの部屋

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）

開催日：8月24日

参加者：小・中学生 11人

普段の日常生活では味わえない静寂な空間を体験して楽しむコース。まずは部屋の中で真暗な闇を体験することから始めた。そしてロウソクの火をじっとみつめる、ロウソクの道を歩くなど闇と光の中で静かな時間を過ごした。



カ. ぬって、きって、はって、黄色のコラージュ絵本

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム

開催日：7月19日・25日

参加者：4歳以上の2人1組の家族 32人

大好評の家族のコース。今年はボランティアチーム企画班が二日間に挑戦。黄色い色の紙を集めたり、黄色い色の紙を絵の具を塗って自分でつくり、その紙を切ったり、はったり（コラージュ）して小さな絵本を作り、お話まで考えた。



キ. [タマネギ・エンジュ] 黄色い羊のバームクーヘン

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム

開催日：8月7日・8日

参加者：4歳以上の2人1組の家族 31人

家族のコースの2。身近な素材、タマネギや山手通りで集めたエンジュをつかって羊の毛をいろいろな黄色に染めてみた。黄色い羊がたくさんできたら、ふわふわのフェルト作りに挑戦した。黄色いウールが何層にもまかれて丸いフェルトのかたまりをつくった。



<遊びの広場>

ク. オムレツカード

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エディケーター）

開催日：7月17日、21～24日、28日、8月4～6日、11～13日、18～20日、25～27日、31日、計19日

参加者：452人

黄色の展示会に関連させ、黄色の紙でまずはオムレツの形を自分で決め、赤・青・緑などカラフルな毛糸や紙の素材で味付けし、自分だけの黄色い「オムレツ」を作った。



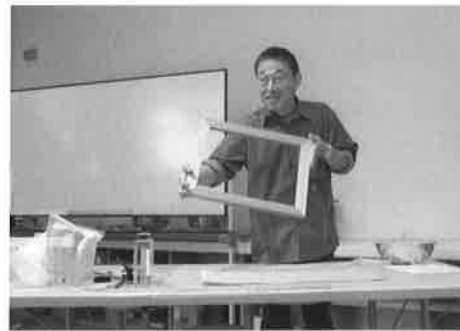
③日本近代洋画への道－山岡コレクションを中心に－ ア. 「油絵のキャンバスづくり」

講師：渡辺一郎（修復研究所21 所長）

開催日：11月7日、14日

参加者：高校生以上 18人

現代では、キャンバスを自分で造る経験はあまりない。このコースでは2日間で、木枠の組み立てから完成まで、一人2種類の本格的なキャンバスを作った。



イ. 「油絵のキャンバスづくり」＋「模写～由一の“鯛図”を描く」

講師：渡辺一郎（修復研究所21 所長）

開催日：11月7日、14日、21日、28日

参加者：高校生以上 95人

初日の2日間で作った自分のキャンバスに高橋由一の作品を模写する4日間コース。由一の油絵技法は、西洋の長い伝統にならったもので耐久に優れているといわれていますが、その描き方はどのようなものなのか。本展出品作の「鯛図」の部分模写を通じて、初期の油絵技法を体験した。



④春のワークショップ2005

ア. テンペラ画を描く－道具づくりからシエナ派の彩色まで

講師：石原靖夫（美術家）

開催日：3月13日、27日、4月10日、5月22日、6月12日、19日、26日

参加者：絵画技術修得者 40人

本格的な中世イタリアの金地テンペラ画を学ぶ、専門家育成を目的にした少数精鋭のコース。箔台や刷毛などの道具づくりから始め、金箔地背景づくり、シエナ派の彩色手順を理論から学び実践した。

イ. 頑張りのかたち！ーヒトガタ彫刻をつくる

講師：横沢 昇（造形作家）

開催日：3月29日、30日、4月1日

参加者：小学生以上 50人

心とカラダがびったり一致した“ヒトガタ”をイメージし、かたまりをけずったり貼り付けたりして彫刻をつくった。筋肉の流れ、骨の位置、右足・左足、肩や腰など“がんばるかたち”のカラダをよくみて、形を捉え、細かいところにこだわったヒトガタ彫刻にチャレンジした。

ウ. 彫刻ー空間のプラスとマイナス

講師：川越 悟（彫刻家）

開催日：3月20日、21日、4月2日、3日

参加者：小学生以上 36人

植物のモチーフをきっかけに自分の形をドローイングで探し出し、石膏で形を作っていた。立体作品の鑑賞の方法を学びながら、彫刻を造る楽しさを体験した。

[平成17年度]

①夏のワークショップ「美術館を楽しもう！」

ア. 日本美術にカラダの芯から浸る

講師：降旗千賀子（目黒区美術館学芸員）

開催日：7月23日

参加者：中学生以上 17人

上野公園の正面に位置する東京国立博物館を一日能動的に楽しむことを目的とした。珠玉の日本美術や東洋美術に出会うことが出来た。敷地内に点在する建物は、建設された時代を反映し、デザインやディテールがユニークで、展示方法の考え方の変化など、日本美術との語らいを丸一日かけて楽しんだ。

イ. 西洋の近代絵画に囲まれてーモネから現代へ

講師：鈴木省三（美術家）

開催日：8月13日

参加者：高校生以上 26人

国立西洋美術館はル・コルビュジェが設計し、建物としてもよく知られている。このユニークな建物を見学したり、日本にある貴重な西洋絵画を鑑賞した。午後は、鈴木氏と一緒にモネの部屋から1950年代にいたる絵画を堪能し、作品が描かれる時間距離を「絵画の遠足」で楽しんだ。



ウ. 絵画の魅力・日本の近代美術を視る

講師：鈴木省三（美術家）

開催日：8月19日・20日

参加者：高校生以上 30人

1969年、竹橋に新築移転した東京国立近代美術館は、内外の重要な作家や美術運動を日本に紹介する役割を担ってきた。また日本の近代美術を語る重要な作品を所蔵し、それを常設展示室で鑑賞することが出来る。戦前から戦後、そして現代へと、絵の持つ魅力と力の不思議を体験した。8月19日は目黒区民センターでウォーミングアップを行った。



エ. こども組・日本の美術遠足

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）

開催日：7月27日

参加者：小中学生 7人

東京国立博物館に子どもたちと遠足し、絵画、工芸、考古にわたる常設展示をグループで見学した。開館から閉館までの長時間、絵に描いたり、文章にしたり思いおもいの表現で日本美術に浸る一日となった。作品だけでなく、さまざまな時代につくられた建物のディテールも観察した。



オ. こども組・西洋美術探検

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）

開催日：8月11日

参加者：小中学生 26人

国立西洋美術館で、西洋美術に隠されたいろいろなモノの謎解きをしながら、1日美術とのふれあいを楽しんだ。国立西洋美術館は、ロダン彫刻のコレクションが充実しているのも、子どもたちが彫刻に触れる良い機会となった。教育担当学芸員に、ルーベンスとロダンを1点ずつ解説してもらった。



<ファミリーワークショップ>

カ. もう一つの私の顔-お面でへんしん!

講師：トイコレクション・ボランティアチーム

開催日：7月16日・17日

参加者：4歳以上の2人1組の家族 40人

本館が、スター・ウォーズの展覧会を開催しているため、ことしのファミリーワークショップは、区民センター児童館で開催した。スター・ウォーズにちなみ、アルミホイルを使って顔がすっぽり入るお面をつくり、区民センターを行進した。



②チャールズ&レイ・イームズ-創造の遺産

ア. 憧れのインテリアデザイン 私の部屋-ミッド・センチュリー

講師：河村容治（建築家）・藁谷美紀（インテリアデザイナー）

開催日：10月15日・16日・18日・19日

参加者：中学生以上 40人

「3Dインテリアデザイナー」ソフトを使って初心者から専門家まで、だれでも気軽にパソコン上でインテリアコーディネートを楽しみ、イームズ展にあわせ「ミッド・センチュリー」をテーマに3時間で自分だけのインテリアをCGでつくった。



イ. 私も家具デザイナー

講師：カーラ・ハートマン（イームズオフィス）

開催日：12月3日

参加者：小中学生 21人

こども達とイームズ展を鑑賞し、紙やダンボールをつかって、イームズにまけないすのアイデアを考えた。



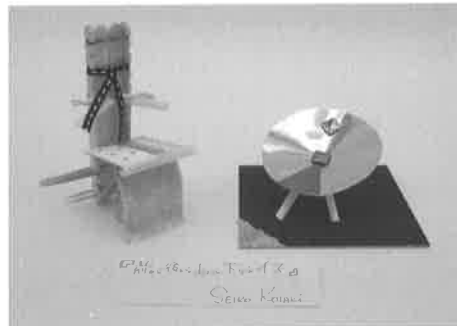
ウ. イームズデザインの再発見

講師：カーラ・ハートマン（イームズオフィス）

開催日：12月24日

参加者：高校生以上 17人

大人と一緒にイームズ展を鑑賞し、平面の板をまげて立体的ないすにすることを考えたイームズの家具について学び、紙を使って小さいいすづくりを体験した。



③村田朋泰展－俺の路・東京モンタージュ

ア. オリジナル・パペット・アニメーションをつくろう！

講師：村田朋泰（映像作家）

開催日：3月12日・18日・19日

参加者：小学生以上 72人

大人も子供も一緒に6人1組になり、人形を使ったアニメーションを作った。人形からセットまで制作し、1秒8コマという、時間と集中力と根気のいる撮影に取り組んだ。最後に完成作品の上映会を行い、展覧会開会中は展示室においても上映した。



④春のワークショップ 2006

ア. アート・ピクニックA〈散歩を楽しむ器づくり〉

講師：捧公志朗（美術家）

開催日：2月25日、3月5日・25日・26日

参加者：50人

捧氏が取り組んでいるテーマ「場所も人が集まる器である」を発展させて、人が置かれる場所を器に見立て大きく解釈したインスタレーションを行ったり、自分が一人で散歩をするときに携帯する器を作った。自分の場所と時間を意識する第一歩となった。



イ. アート・ピクニックB〈私たちのピクニック・ハウス〉

講師：榎公志朗（美術家）
開催日：3月29日・30日・31日
参加者：99人

自分の心地よい居場所を誰もが持っている。その居場所をみんなで作って共有した。その居場所を移動するために、美術館近くの林試の森公園やさまざまな場所に出かけて、ピクニック用レジャーシートを使って携帯用居場所となるピクニック・ハウスを楽しんだ。



(2) アウトリーチ

[平成15年度]

ア. 美しい積み木であそぶーベア・クラークの世界

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：5月10日
場所：目黒区美術館
参加者：33人

ベア・クラーク展のツアーを行った後、遊びのコーナーで遊んだ。トイそのものの魅力と向き合い、特にベア・クラークの作品の意味をボランティアも勉強し子供たちに伝えた。

イ. 光にうかぶクリスマスの前の晩ートイの森で光と遊ぼう

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：12月19日
場所：区民センター児童館
参加者：71人

1年を感謝し、新年を迎えるお祝いでもあるクリスマスを想定し、色で分けたトイでさまざまな街や風景をつくり、スポットライトを使って影を楽しみながら積み木と光で遊んだ。

ウ. 迷路をぬけて、城とり合戦！

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：16年2月25日
場所：大岡山学童保育クラブ
参加者：24人

[平成16年度]

ア. パッパずるずる・パズルの日

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：5月8日
場所：区民センター児童館
参加者：30人

イ. トイでつくりようクリスマスのまち「冬のくにと夏のくに」

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：12月19日
場所：区民センター児童館
参加者：30人

ウ. トイで遊んで、大岡山ハイウェイ！

進行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：17年3月2日
場所：大岡山学童保育クラブ
参加者：31人

[平成17年度]

ア. つみきであそぼ!! トイの広場

進 行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：6月4日・5日
参加者：幼児～ 240人

イ. トイでつくろう春・夏・秋・冬

進 行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：12月18日
場 所：区民センター児童館
参加者：幼児～ 33人

ウ. へんてこりんないきもの

進 行：トイコレクション・ボランティア・チーム
開催日：18年2月22日
場 所：大岡山学童保育クラブ
参加者：幼児～ 30人



(3) こどもサポートプラン

[平成15年度]

ア. ファミリーのためのギャラリーツアーⅠ

講 師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）
開催日：10月11日
参加者：5人

親子で一緒に、開催中の展覧会のギャラリーツアーを行った。

イ. ファミリーのためのギャラリーツアーⅡ

講 師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）
開催日：10月18日
参加者：12人

親子で一緒に、開催中の展覧会のギャラリーツアーを行った。

[平成16年度]

ア. 黄色のひみつー絵の具と染料

講 師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）
開催日：9月4日
参加者：小・中学生 17人

絵の具の話や簡単な染色実験、そしてギャラリーツアーなど盛りだくさんの一日。黄色を中心に、色のイメージ、力についてあれこれ考えた。

イ. よーく見る・みる・視る～カオカオ星人Part2～

講 師：榎本寿紀（ワークショップ・エデュケーター）
開催日：11月6日
参加者：小・中学生 6人

'96年に登場した顔でしゃべる“カオカオ星人”第二弾。今回は、おしゃべりだけではなく、自分の顔をよーく見て、顔じゅうの筋肉を動かし、普段とは違う表情をいくつも作って顔で会話をし、さらにその顔の自画像制作をした。



[平成17年度]

ア. 積木で建築－小さな建築家

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エドゥケーター）

開催日：5月28日

参加者：小中学生 14人

目黒区美術館があつめてきた積木やパズルをつかって、いろいろな建築をつくった。

イ. 土となかよし－絵の具とドロ団子

講師：榎本寿紀（ワークショップ・エドゥケーター）

開催日：6月11日

参加者：小中学生 12人

普段あまり見つめることの少ない土だけど、いろいろな色があつて面白い。絵の具やドロ団子を作った。



(4) ギャラリーツアー（小学校の授業と連携）

展覧会の開催中に学芸員等の指導により児童・生徒が各展示室に分かれてギャラリーツアーを実施した。

[平成15年度]

①第40回記念朝日陶芸展

参加日	学校名	学年	参加者
5月22日	目黒区立下目黒小学校	5年生	48人

②画材の引き出し博物館（色の話）

参加日	学校名	学年	参加者
7月2日	目黒区立原町小学校	4年生	57人
7月3日	品川区立第四日野小学校	3・4年生	69人
7月4日	目黒区立下目黒小学校	1年生	51人
7月10日	目黒区立下目黒小学校	2・3年生	91人
7月11日	港区立東町小学校	3年生	33人

③聖母子と子どもたち

参加日	学校名	学年	参加者
9月4日	目黒区立向原小学校	4年生	61人
9月5日	目黒区立菅刈小学校	6年生	40人
9月5日	目黒区立田道小学校	4年生	51人

④絵と言葉Ⅱ展

参加日	学校名	学年	参加者
10月28日	目黒区立中目黒小学校	5年生	61人
10月30日	目黒区立下目黒小学校	6年生	53人
10月31日	目黒区立上目黒小学校	5年生	43人
11月6日	目黒区立下目黒小学校	4年生	39人

⑤目黒区美術館所蔵作品展＜でいてーるノ誘惑＞ 建築家・村野藤吾のディティール展

参加日	学校名	学年	参加者
2月12日	目黒区立五本小学校	1・2年生	72人
2月13日	目黒区立月光原小学校	6年生	52人
2月17日	目黒区立五本木小学校	3・4年生	90人
2月20日	目黒区立緑ヶ丘小学校	6年生	40人
2月24日	目黒区立不動小学校	4年生	70人
2月26日	目黒区立駒場小学校	3年生	71人
2月27日	品川区立第四日野小学校	5・6年生	81人
3月2日	目黒区立緑ヶ丘小学校	5年生	41人
3月5日	目黒区立月光原小学校	5年生	52人
3月5日	目黒区立下目黒小学校	5年生	46人

[平成16年度]

①小林孝亘ー終わらない夏

参加日	学校名	学年	参加者
6月3日	目黒区立田道小学校	5年生	50人
6月3日	目黒区立上目黒小学校	5年生	63人
6月4日	目黒区立下目黒小学校	3年生	38人
6月10日	目黒区立下目黒小学校	1年生	38人
6月11日	目黒区立下目黒小学校	5年生	42人
6月17日	大田区立東調布第三小学校	5年生	68人
6月18日	目黒区立田道小学校	6年生	48人

②画材の引き出し博物館（黄色のお話）

参加日	学校名	学年	参加者
6月25日	お茶の水女子大付属小学校	3年生	136人
7月1日	目黒区立原町小学校	4年生	67人
7月2日	港区立東町小学校	2・3年生	41人
7月8日	目黒区立菅刈小学校	6年生	45人
7月8日	目黒区立下目黒小学校	4年生	50人
7月9日	目黒区立不動小学校	4年生	75人
7月13日	目黒区立駒場小学校	6年生	65人
7月13日	目黒区立下目黒小学校	2年生	50人

③色の博物誌・黄 地の力&空(くう)の光

参加日	学校名	学年	参加者
7月21日	目黒区立八雲小学校	5年生	51人
9月2日	目黒区立月光原小学校	3年生	35人
9月2日	目黒区立原町小学校	5年生	56人
9月2日	目黒区立油面小学校	6年生	59人
9月3日	目黒区立月光原小学校	6年生	50人
9月3日	港区立東町小学校	4年生	39人
9月7日	品川区立第四日野小学校	3・4年生	87人

④日本近代洋画への道ー山岡コレクションを中心に

参加日	学校名	学年	参加者
11月4日	目黒区立向原小学校	4年生	57人
11月5日	品川区立第四日野小学校	5・6年生	70人
11月26日	目黒区立中目黒小学校	5年生	64人
11月26日	目黒区立下目黒小学校	6年生	44人

⑤所蔵作品展XⅧ「川村清雄」を知っていますか？ 初公開・加島コレクション展

参加日	学校名	学年	参加者
2月22日	目黒区立五本木小学校	1・2年生	62人
3月11日	目黒区立下目黒小学校	6年生	46人
3月15日	目黒区立五本木小学校	3・4年生	89人

[平成17年度]

①目黒区美術館コレクション展

参加日	学校名	学年	参加者
6月2日	目黒区立菅刈小学校	6年生	45人
6月3日	港区立東町小学校	1・2年生	35人
6月9日	品川区立第四日野小学校	3・4年生	79人
6月10日	目黒区立田道小学校	4年生	51人
6月10日	目黒区立原町小学校	4年生	57人
6月16日	目黒区立田道小学校	3年生	39人
6月17日	目黒区立不動小学校	4年生	62人
6月23日	目黒区立向原小学校	5年生	59人
6月24日	目黒区立油面小学校	6年生	63人

②チャールズ&レイ・イームズー創造の遺産

参加日	学校名	学年	参加者
10月13日	目黒区立向原小学校	6年生	64人
10月27日	目黒区立八雲小学校	5年生	56人
11月1日	目黒区立原町小学校	6年生	54人
11月4日	目黒区立五本木小学校	3・4年生	74人
11月10日	港区立東町小学校	3・4年生	37人

(事前授業)

実施日	学校名	学年
9月29日	目黒区立向原小学校	6年生
10月25日	目黒区立八雲小学校	5年生
10月27日	目黒区立原町小学校	6年生
10月28日	港区立東町小学校	3・4年生
11月2日	目黒区立五本木小学校	3・4年生

*ギャラリーツアー実施前に学校に出向き展示会の内容、観覧のマナーなどについて授業を行った。



③村田朋泰展一俺の路・東京モンタージュ

参加日	学校名	学年	参加者
2月14日	目黒区立鷹番小学校	5年生	78人
2月16日	目黒区立田道小学校	5・6年生	98人
2月17日	品川区立第四日野小学校	5・6年生	74人
2月23日	目黒区立碑小学校	5年生	64人
2月24日	目黒区立中根小学校	3年生	58人
2月28日	品川区立第二延山小学校	5年生	89人
3月3日	目黒区立月光原小学校	4・6年生	85人
3月3日	目黒区立下目黒小学校	6年生	40人
3月7日	目黒区立駒場小学校	3年生	62人
3月9日	目黒区立上目黒小学校	5年生	55人
3月9日	目黒区立中目黒小学校	5年生	61人
3月10日	目黒区立原町小学校	5年生	64人
3月16日	目黒区立向原小学校	5年生	61人
3月17日	千代田区立富士見小学校	5年生	77人

(出張授業)

実施日	学校名	学年	参加者
3月2日	目黒区立月光原小学校	4年生	32人
3月10日	目黒区立向原小学校	5年生	} 112人
3月14日	目黒区立向原小学校	5年生	

*村田朋泰氏を講師に、美術館でのギャラリーツアー前の出張授業を行った。



Ⅲ. 入館状況

[平成15年度]

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
所蔵作品展 XVI からだと出会うとき	15年2月22日～ 15年4月6日	6日間 (15年度)	513人 (15年度)	86人 (15年度)	A,B,C,E,L,W	全期間38日間 1,938人
第40回記念朝日陶芸展	15年4月19日～ 15年6月15日	50日間	9,775人	196人	A,B,C,E,L,W	
立方体の七つの窓 ペア・クラークの世界	15年5月7日～ 15年5月18日	11日間	2,778人	253人	G	
聖母子と子どもたち	15年7月19日～ 15年9月7日	44日間	7,244人	165人	A,B,C,E,L,W	
絵と言葉Ⅱ 画家たちへの讃歌 1930-60年代のバリ	15年10月8日～ 15年11月30日	47日間	3,609人	77人	A,B,C,E,L,W	
目黒区の美術・書 2003	15年12月6日～ 16年1月11日	25日間	2,219人	89人	A,B,C,E,L,W	
めぐろの子どもたち展	16年1月17日～ 16年2月1日	14日間	10,371人	741人	A,B,C,E,L,W,G	
目黒区美術館所蔵作品展 <でいてーる/誘惑> 建築家・村野藤吾のディテール <旧千代田生命本社ビル(現目黒 区総合庁舎)写真/図面>展	16年2月11日～ 16年4月11日	43日間 (15年度)	4,035人 (15年度)	94人 (15年度)	A,B,C,E,L,W	全期間53日間 5,537人
合計		240日間	40,544人	169人		

美術館協力事業

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
目黒区民作品展	15年9月20日～ 15年10月3日	12日間	4,849人	404人	A,B,C,E,L,W,G	

注 A=展示室A、B=展示室B、C=展示室C、E=エントランスホール、L=展示ロビー、W=ワークショップ室、G=区民ギャラリー

[平成16年度]

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
目黒区美術館所蔵作品展 <でいてーる/誘惑> 建築家・村野藤吾のディテール <旧千代田生命本社ビル(現目黒区総合庁舎)写真/図面>展	16年2月11日～ 16年4月11日	10日間 (16年度)	1,502人 (16年度)	150人 (16年度)	A,B,C,E,L,W	全期間53日間 5,537人
小林孝亘展－終わらない夏	16年4月24日～ 16年6月20日	50日間	7,462人	149人	A,B,C,E,L,W	
色の博物誌・黄 地の力&空(くう)の光	16年7月17日～ 16年9月8日	46日間	7,346人	160人	A,B,C,E,L,W	
日本近代洋画への道－山岡 コレクションを中心に－	16年10月9日～ 16年12月5日	50日間	5,275人	106人	A,B,C,E,L	
目黒区の美術 2004	16年12月11日～ 17年1月16日	25日間	1,974人	79人	A,B,C,E,L,W	
めぐろの子どもたち展	17年1月22日～ 17年2月6日	14日間	10,962人	783人	A,B,C,E,L,W,G	
所蔵作品展 XVIII「川村清雄」 を知っていますか？ 初公開・加島コレクション展	17年2月16日～ 17年4月10日	38日間 (16年度)	3,373人 (16年度)	89人 (16年度)	A,B,C,E,L	全期間47日間 5,104人
合計		233日間	37,894人	163人		

美術館協力事業

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
目黒区民作品展	15年9月20日～ 15年10月3日	12日間	4,490人	374人	A,B,C,E,L,W,G	

注 A=展示室A、B=展示室B、C=展示室C、E=エントランスホール、L=展示ロビー、W=ワークショップ室、G=区民ギャラリー

[平成17年度]

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
所蔵作品展XVIII「川村清雄」 を知っていますか？ 初公開・加高コレクション展	17年2月16日～ 17年4月10日	9日間 (17年度)	1,731人 (17年度)	192人 (17年度)	A,B,C,E,L	全期間47日間 5,104人
日黒不動尊の近代美術 書家・豊道春海と彫刻家・後藤良～伝統と近代の相克～	17年4月23日～ 17年5月22日	26日間	4,079人	156人	A,B,C,E,L,W	
日黒区美術館コレクション展－新収蔵品を中心に－	17年5月28日～ 17年6月26日	26日間	2,019人	78人	A,B,C,E,L	
アートオブ スター・ウォーズ エピソード3展	17年7月8日～ 17年9月4日	51日間	53,242人	1,044人	A,B,C,E,L,W	
チャールズ&レイ・イームズ展－創造の遺産	17年10月8日～ 17年12月11日	56日間	18,465人	330人	A,B,C,E,L,W	
めぐろの子どもたち展	18年1月14日～ 18年1月29日	14日間	9,888人	706人	A,B,C,E,L,W,G	
村田朋泰展－俺の路・東京モンタージュ	18年2月11日～ 18年3月31日	42日間	10,621人	253人	A,B,C,E,L,W	
合計		224日間	100,045人	447人		

美術館協力事業

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
日黒区民作品展	17年9月13日～ 17年9月25日	13日間	4,203人	351人	A,B,C,E,L,W,G	

共催事業

展覧会名	会期	開催日数	入館者数		会場	備考
			総数	一日平均		
日黒区美術館協会展	17年12月14日～ 17年12月18日	5日間	400人	80人	G	
日黒区美芸作家協会展	18年3月28日～ 18年4月2日	6日間	876人	146人	G	

注 A=展示室A、B=展示室B、C=展示室C、E=エントランスホール、L=展示ロビー、W=ワークショップ室、G=区民ギャラリー

IV. 作品等貸出

[平成15年度]

1. 作品貸出

作家名・作品名	展覧会名	貸出先	会期
篠原有司男 「コニーアイランド遊園地」	アート・ウォッチングPart 2 - 感覚遊園地探検	宮城県美術館	H15.6.28～8.31
藤田嗣治 「動物群」	日本洋画史上に輝く巨匠展 ～高橋由一・ 黒田清輝から小磯良平まで～	佐久市立近代美術館	H15.7.5～9.15
岡田謙三 「竹」 「間隔」 「雲と子供」 「エスキース (5点)」	生誕100年・没後20年 岡田謙三展	横浜美術館 秋田市立千秋美術館	H15.7.5～9.15 H15.9.26～11.30
里見勝藏 「雪景」	佐伯祐三とパリの時代展	鹿児島市立美術館	H15.7.18～8.31
海老原喜之助 「蹄」	親子のための企画展 動物、アートになる	群馬県立館林美術館	H15.7.19～9.7
野田英夫 「車中の少女」	鉄道と絵画展	ひろしま美術館 栃木県立美術館	H15.9.21～10.26 H15.11.1～12.23
村井正誠 「アラブの店」	時空を越える風景たち 明治の記録がから現代都市の写真まで	世田谷美術館	H15.10.11～12.7
森田元子 「裸婦」 「婦人」	遥かな道程 岡田三郎助の頃 女子美展	女子美アートミュージアム	H15.11.12～12.15
東山魁夷 「樹根」	東山魁夷展	横浜美術館 兵庫県立美術館	H16.1.5～2.24 H16.4.3～5.23
藤田嗣治 「裸婦と猫」 「猫のいる自画像」 「二匹の猫」	藤田嗣治 猫展	ベルナール・ビュフェ美術館	H16.1.5～3.16
国吉康雄 「風景」	国吉康雄展	東京国立近代美術館 富山県立近代美術館 愛知県美術館	H16.3.23～5.16 H16.5.29～7.19 H16.8.6～9.26
川村清雄 「裸体習作」 梅原龍三郎 「パリ市庁」 安井曾太郎 「パリの公園」 満谷国四郎 「プルトーニュ」	異国に学んだ画家たち - 明治～大正期の洋画	府中市美術館	H16.3.27～4.18

2. 教育普及用教材貸出

教材名	展覧会名	貸出先	会期
画材の引き出し博物館 「BOX 1」	異国に学んだ画家たち - 明治～大正期の洋画	府中市美術館	H16.3.27～4.18

[平成16年度]

1. 作品貸出

作家名・作品名	展覧会名	貸出先	会期
山下新太郎 「素描（婦人）」 「素描（靴下をはく人）」	山下新太郎展	ブリヂストン美術館	H16.4.9～6.6
坂田一男 「浴室の二人の女」	昭和前期の洋画1923～1945年展	島根県立美術館	H16.4.23～5.30
藤田嗣治 「Dolls (kiss me)」 「テーブル」	作家からの贈りもの展	高知県立美術館	H16.5.30～7.25
木下晋 「無Ⅰ」 「無Ⅱ」 「無Ⅲ」 「旅立ち」	木下晋展	朝日町立ふるさと美術館	H16.7.17～9.12
内田巖 「岩 2 (岩と水)」	没後50年内田巖展 －猪熊弦一郎・小磯良平とともに－	新見美術館 神戸市立小磯記念美術館	H16.7.27～9.26 H16.10.2～11.28
海老原喜之助 「蹄」	海老原喜之助生誕100年祭展 －画家再生－	熊本市現代美術館	H16.8.28～10.31
藤田嗣治 「人形を持った少女」 「房州白浜にて」	藤田嗣治と宮本三郎展	小松市立宮本三郎美術館	H16.10.8～11.21
里見勝蔵 「雪景」 高島達四郎 「少年青帽」	三岸節子 絵画の自由を求めて ～独立美術協会と女性画家～展	尾西市三岸節子記念美術館	H16.10.9～12.12
小林孝亘 「Dream」(潜水艦シリーズ) 「Shell」(潜水艦シリーズ) 「Globe Jungle」(潜水艦シリーズ) 「Television」(潜水艦シリーズ) 「Class Room」(潜水艦シリーズ) 「River」(潜水艦シリーズ) 「Untitled」	小林孝亘展	大阪成蹊大学芸術学部総合芸術 研究センター	H17.1.17～2.4
草間彌生 「Endless Love Room 終わらなき愛」	草間彌生－魂を燃やす8つの空間 展	広島市現代美術館	H17.2.22～4.17
藤田嗣治 「裸婦と猫」 「猫のいる自画像」 「二匹の猫」	藤田嗣治 猫展	ベルナール・ビュフェ美術館	H17.3.3～5.31

2. 教育普及用教材貸出

教材名	展覧会名	貸出先	会期
画材の引き出し博物館 「BOX 1」 No.24 支持体「フレスコ」	Spring Garden ～春の風景	板橋区立美術館	H16.4.3～5.16

[平成17年度]

1. 作品貸出

作家名・作品名	展覧会名	貸出先	会期
安井曾太郎 「パリの公園」	歿後50年安井曾太郎展	宮城県立近代美術館 茨城県立近代美術館	H17.4.16～6.5 H17.6.11～7.24
古茂田守介 「六つのリング」 小林萬吾 「リング畑」	描かれた禁断の果実：りんごの秘密展	ひろしま美術館	H17.4.23～6.5
東山魁夷 「樹根」	東山魁夷展 －創作の軌跡と同時代の人々－	長野県信濃美術館	H17.4.23～5.29
堂本尚郎 「コンポジション」	堂本尚郎・絵画の根源へ展	京都国立近代美術館 世田谷美術館	H17.9.13～10.23 H17.12.17～H18.2.12
高島野十郎 「牡丹花」 「百合とヴァイオリン」	没後30年 高島野十郎展	福岡県立美術館 三鷹市美術ギャラリー	H17.12.2～H18.1.15 H18.6.10～7.31
日和崎尊夫 「詩画集『卵』」 木下晋 「無Ⅰ」 「無Ⅱ」 「無Ⅲ」 「旅立ち」	黒の迷宮－凝視の刻－木下晋・小林敬生・日和崎尊夫展	石川県立美術館	H18.1.4～2.5
青山義夫 「母と子」 「リュクサンブール公園」	色彩の詩人 青山義夫展	茅ヶ崎市美術館	H18.1.22～3.5
鬚嘸 「虹のエンバイラメント」	虹のかなたに 鬚嘸AY-O回顧1950-2006	福井県立美術館 宮崎県立美術館	H18.3.1～3.30 H18.7.28～8.28
国吉康雄 「風景」 「人物素描（女性前向立像）」 「人物素描（女性横向立像）」 「人物素描（男性）」 「人物素描（横たわる男性）」 「ウッドストック風景」 「風景」 「風景」	国吉康雄展	岡山県立美術館	H18.3.10～5.7
藤田嗣治 「赤毛の女」 「メキシコの少年」	藤田嗣治展	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館	H18.3.28～5.21 H18.5.30～7.23
田淵安一 「影の通り道」 「天の史」	田淵安一 －かたちの始まり、あふれる光展	神奈川県立近代美術館葉山館	H18.4.8～5.21

V. 刊行

1 ピリエ（目黒区美術館ニュース）

目黒区美術館では、美術館活動の広報を目的に、美術館ニュース「ピリエ」を発行している。「ピリエ」(Piliers)は、フランス語で「柱、支柱」あるいは「支柱となる人、人物」のことで、当館のエントランスホール正面にある4本の柱を意味している。

平成15年度掲載内容：絵と言葉Ⅱ 画家たちへの讃歌 1930-60年代のパリ：〈マニユエル・ブルーケル出版の版
画本を中心に〉

平成16年度掲載内容：建築家・村野藤吾のディテール 〈旧千代田生命本社ビル写真/図面〉展における現目黒区
建築ツアーより
旧千代田生命本社ビルの設計について-村野濠（むらのよう）氏インタビュー抜粋

平成17年度掲載内容：村田朋泰展-俺の路・東京モンタージュ

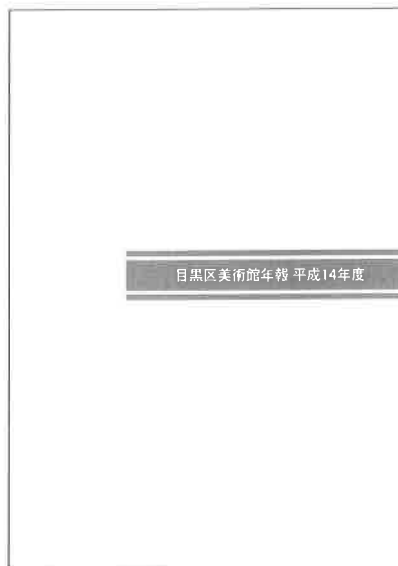


2 目黒区美術館年報 平成14年度

発行：2004年3月25日

サイズ：A4

ページ数：56頁



VI. 区民ギャラリー

[平成15年度]

	展覧会名	期 間	日 数	入場者(人)
1	第6回ゆうの会・微彩会合同展覧会	4/1~4/6	6	758
2	つくる本、みつめる本 第2回東京製本倶楽部展	4/8~4/13	6	890
3	第13回だん展	4/15~4/20	6	300
4	千秋(せんしゅう)工房第2回作品展	4/15~4/20	6	150
5	第11回えふけい会水彩画グループ展	4/22~4/27	6	845
6	彩美会展	4/29~5/5	7	238
7	1. 1	4/29~5/5	7	248
8	ペア・クラークの世界	5/6~5/18	12	2,778
9	池坊緑葉式 春尚会 花結展	5/20~5/25	6	130
10	第9回緑が丘パステル画同好会展	5/20~5/25	6	440
11	記憶の構図	5/27~6/1	6	250
12	A.W.A	6/3~6/8	6	200
13	すいよう会・道草作品展	6/3~6/8	6	300
14	並河座 6	6/10~6/15	6	200
15	第18回らゆう展	7/1~7/6	6	400
16	第2回Pure工場展	7/8~7/13	6	240
17	笹田茂展覧会& Tanzania Gallery	7/15~7/21	6	300
18	ECLECTIC9	7/15~7/21	6	238
19	第13回勤労者美術展	7/23~7/27	5	267
20	CRAWL vol.01 「ENTERTAINER」	7/29~8/3	6	150
21	第2回千鳥草の会押花作品展	7/29~8/3	6	200
22	自由アート展2003	8/5~8/10	6	153
23	橋本秋畦書展 併催 墨洋書展	8/12~8/17	6	198
24	第14回一樹会展	8/19~8/24	6	400
25	小さな小さな旅のスケッチ展-目黒の坂道-	8/26~8/31	6	650
26	第17回水耀会展	8/26~8/31	6	500
27	第7回まんさく展	9/2~9/7	6	200
28	麗rei ~花への思い~	9/9~9/13	5	70
29	インフィニティ展	9/9~9/13	5	213
30	区民作品展	9/14~9/28	13	1,854
31	has展	9/30~10/5	6	100
32	第15回エンタニ展	9/30~10/5	6	210
33	目黒区民の華道展・呈茶席(第38回目黒区文化祭)	10/9~10/12	4	485
34	自主グループ第41回展示発表会(第38回目黒区文化祭)	10/13~10/19	6	646
35	水彩画合同展	10/21~10/26	6	300
36	第12回目黒イーゼル会作品展	10/21~10/26	6	250
37	第21回萌画会展	10/28~11/3	7	430
38	第37回Mimbi研究生絵画作品展	11/5~11/9	5	310
39	第11回目黒区美術家協会展	11/11~11/16	6	456
40	ユネスコ美術展	11/18~11/24	7	324
41	2003シボリコミュニティ東京展	11/26~11/30	5	160
42	第9回緑が丘写真真クラブ作品展	11/26~11/30	5	150
43	アセンションアート展	12/2~12/7	6	200
44	東山パステルの会作品展	12/2~12/7	6	326
45	翠粋酔展	12/9~12/14	6	120
46	ベンジュラムの会展	12/9~12/14	6	300
47	アトリエ・エビス展	12/16~12/21	6	400
48	ハートアートコミュニケーション新春展	1/6~1/12	7	166
49	めぐろの子どもたち展	1/14~2/1	17	10,371
50	第32回在日朝鮮学生美術展 東京展	2/3~2/8	6	1,600
51	Glass Appeal 2004	2/10~2/15	6	393
52	VOICE展	2/10~2/15	6	246
53	one photo theater	2/17~2/22	6	236
54	「402教室」展	2/24~2/29	6	155
55	中央大学陶芸研究会38期生卒展	3/2~3/7	6	177
56	第3回も・の・が・た・り展	3/2~3/7	6	110

[平成15年度]

展覧会名	期 間	日 数	入場者(人)
57 2003年度ASABIイラストレーション卒業制作展	3/9～3/14	6	350
58 東京造形大学写真部 学外展	3/16～3/21	6	120
59 秦智美 (Hata Satomi) 展	3/23～3/28	6	80
60 第7回ゆうの会・徹彩会合同展覧会	3/30～4/4	6	703
合 計	-	339	18,631

*「ペア・クラーセンの世界」、「区民作品展」、「めぐろの子どもたち展」は本館の入場者数に含まれるため、ギャラリーの日数、入場者の合計にはカウントしていない。

[平成16年度]

	展覧会名	期 間	日 数	入場者(人)
1	第14回だん展	4/6~4/11	6	300
2	自由ヶ丘フォトクラブ作品展	4/6~4/11	6	320
3	生きる喜び	4/13~4/18	6	320
4	水木会展	4/13~4/18	6	300
5	第12回えふけい会水彩画グループ展	4/20~4/25	6	650
6	並河座7	4/27~5/3	7	250
7	第8回ひょうほえ展・第82回日本拓本展	5/5~5/9	5	500
8	手作りフェスタ	5/11~5/16	6	313
9	豊園会 和紙絵展	5/18~5/23	6	548
10	第4回下岡こうじ水彩画展	5/18~5/23	6	330
11	The Botanical Art Exhibition 2004 花画集	5/25~5/30	6	369
12	第10回緑が丘パステル画同好会展	5/25~5/30	6	364
13	viewer	6/1~6/6	6	200
14	第3回春水会展	6/8~6/13	6	288
15	すいよう会・道草作品展	6/8~6/13	6	270
16	井上有一に捧「書の解放」展	6/15~6/20	6	500
17	東京工業大学写真研究部新人展	6/29~7/4	6	50
18	嗚呼、我々の気ままな人生Ⅱ	6/29~7/4	6	75
19	伊藤之脚篆隸書法展与鈴木康予篆刻展	7/6~7/11	6	60
20	小さな小さな旅のスケッチ展-目黒川-	7/6~7/11	6	500
21	ECLECTIC X 現在地テン	7/13~7/19	7	226
22	第14回目黒区勤労者美術展	7/21~7/25	5	193
23	墨に生きる十二人展	7/27~8/1	6	450
24	自由アート展2004『記憶から…』	8/3~8/8	6	181
25	CRAWL vol.02	8/10~8/15	6	350
26	第15回一樹会展	8/17~8/22	6	350
27	橋本秋畦書展 併催 墨洋書展	8/24~8/29	6	257
28	social monologue	8/31~9/5	6	150
29	monotone	8/31~9/5	6	200
30	須田一政塾写真展「ジョーカーの飼い猫」	9/7~9/12	6	200
31	第16回エンタニ展	9/7~9/12	6	250
32	第4回JASS水墨画作品展	9/14~9/18	5	360
33	picnic	9/14~9/18	5	60
34	区展(区民作品展)	9/19~10/3	13	1,830
35	目黒区民の華道展・呈茶席(第39回目黒区文化祭)	10/7~10/10	4	686
36	第42回自主グループ発表会(第39回目黒区文化祭)	10/11~10/17	7	550
37	第19回らゆう展	10/19~10/24	6	400
38	第4回猫の肖像画原画展	10/26~10/31	6	420
39	第18回水耀会展	10/26~10/31	6	290
40	アトリエ・アート キッズ展覧会	11/2~11/7	6	150
41	目黒イーゼル会	11/2~11/7	6	202
42	加藤法久プリントワークショップSABADO vol.9	11/9~11/14	6	204
43	彩美会展	11/16~11/21	6	233
44	第4回ベンジュラム会展	11/16~11/21	6	200
45	ユネスコ美術展	11/23~11/28	6	257
46	第22回萌画会展	11/30~12/5	6	521
47	第2回手づくりフェスタ	12/7~12/12	6	308
48	目黒区美術家協会展	12/14~12/19	6	350
49	A's展	12/21~12/26	6	400
50	～音～ 農友会写真部学外展	1/5~1/10	6	179
51	"エクアドルから日本へ"30人の芸術家、30のアイデアそして画家ギティネウマン	1/12~1/16	5	250
52	めぐろの子どもたち展	1/18~2/6	20	10,962
53	第15回翠粋酔展	2/8~2/13	6	150
54	第4回も・の・が・た・り展	2/8~2/13	6	122
55	第3回Pure工場展	2/15~2/20	6	200
56	いけばな龍生派第四地区点	2/22~2/27	6	600

展覧会名	期 間	日 数	入場者(人)
57 UNDIVIDABLE	3/1~3/6	6	130
58 平成16年度Heart Art Communication会員展	3/8~3/13	6	92
59 ATELIER EBIS (アトリエ エビス) 展	3/15~3/21	6	490
60 第15回だん展	3/23~3/27	5	260
61 浅見貴子展	3/23~3/27	5	120
62 第8回ゆうの会・徹彩会合同展覧会	3/29~4/3	6	774
合 計		354	18,272

*「区民作品展」、「めぐろの子どもたち展」は本館の入場者数に含まれるため、ギャラリーの日数、入場者の合計にはカウントしていない。

[平成17年度]

	展覧会名	期 間	日 数	入場者(人)
1	草木染めによる染織作品展	4/5~4/10	6	510
2	GLASS APPEAL 2005	4/12~4/17	6	274
3	第13回えふけい会水彩画展	4/19~4/24	6	700
4	第2回花絵描きの会・植物画展	4/26~5/1	6	250
5	自由が丘・町田日曜写真倶楽部作品展「多趣彩々」	4/26~5/1	6	250
6	並河座8	5/3~5/8	6	350
7	403教室展 パンタンデザイン研究所新井ゼミ卒業制作展	5/10~5/15	6	280
8	9展nine-ten	5/17~5/22	6	270
9	第5回日本絵手紙美学展	5/17~5/22	6	260
10	矢野健三・矢野裕子 二人展	5/24~5/29	6	100
11	第11回緑が丘パステル画同好会展	5/24~5/29	6	330
12	第3回東京製本倶楽部展「眠る本・装う本」	5/31~6/5	6	690
13	駒場松桜会創設百周年記念美術展	6/14~6/19	6	580
14	第4回春水会展	6/21~6/26	6	310
15	すいよう会・道草作品展	6/21~6/26	6	186
16	第2回 天作会展	6/28~7/3	6	241
17	碑文谷彫展	7/5~7/10	6	450
18	第16回一樹会展	7/12~7/18	6	350
19	第15回目黒区勤労者美術展	7/20~7/24	5	219
20	05 むくの会・木曜会・みずゑの会 水彩画合同展	7/26~7/31	6	220
21	自由アート展2005「まる・しかく・さんかく」	8/2~8/7	6	200
22	墨洋書展	8/9~8/14	6	210
23	水木会展	8/9~8/14	6	100
24	目黒イーゼル会展	8/16~8/21	6	325
25	小さな小さな旅のスケッチ展 三浦半島	8/16~8/21	6	400
26	第20回らゆう展	8/23~8/28	6	300
27	第8回孝彩会展	8/30~9/4	6	180
28	真夏のクローバー展	8/30~9/4	6	300
29	第4回プリンターズ展	9/6~9/10	5	350
30	区展 (区民作品展)	9/11~9/25	15	1,649
31	第19回水曜会展	9/27~10/2	6	300
32	自由ヶ丘フォトクラブ作品7th展	9/27~10/2	6	350
33	第40回目黒区文化祭参加 自主グループ作品展	10/4~10/10	7	662
34	第40回目黒区文化祭参加 目黒区華茶道連盟	10/13~10/16	4	667
35	尺の画礎	10/18~10/23	6	275
36	第23回萌画会展	10/25~10/30	6	430
37	田島和子展	11/1~11/6	6	120
38	ユネスコ美術展	11/8~11/13	6	296
39	ル・コンテ、六水会合同展示会	11/15~11/20	6	225
40	第5回JASS水墨画作品展	11/15~11/20	6	400
41	「チャールズ&レイ・イームズ」展関連展示	11/22~12/11	18	5,962
42	第13回目黒区美術家協会展	12/13~12/18	6	400
43	コロニ展	12/20~12/25	6	154
44	Line&Stagger 井手都&石山千佳二人展	12/20~12/25	6	60
45	ECLECTIC展	1/5~1/9	5	130
46	めぐろの子どもたち展	1/10~1/30	21	9,888
47	武蔵野美術大学映像学科3年写真ゼミ学外展ララァ	1/31~2/5	6	316
48	共立女子大学家政学部生活美術科彫刻コース卒展	2/7~2/12	6	100
49	早稲田大学芸術学校空間映像科卒業制作写真展「個人の話」	2/7~2/12	6	316
50	「次世代展」岡村一輝×山下智子×篠島紗恵子	2/14~2/19	6	90
51	第5回ものがたり展	2/14~2/19	6	223
52	犬丸暁×篠島紗恵子「犬展～雑種か名犬か～」	2/21~2/26	6	90
53	佐々木豊と18人の敵対者	2/21~2/26	6	250
54	東京造形大学写真部15周年記念展「愛ときどき哀」	2/28~3/5	6	147
55	第16回だん展	3/7~3/12	6	300
56	第5回ベンジュラム展	3/7~3/12	6	300

展覧会名	期 間	日 数	入場者(人)
57 第5回春水会展	3/14～3/19	6	232
58 第10回緑が丘写真クラブ作品展	3/14～3/19	6	200
59 「404教室展」	3/21～3/26	6	292
60 第11回美芸展	3/28～4/2	6	876
合 計	—	338	17,386

*「区民作品展」、「チャールズ&レイ・イームズ」展関連展示、「めぐろの子どもたち展」は本館の入場者数に含まれるため、ギャラリーの日数、入場者の合計にはカウントしていない。

VII. ボランティア

生涯学習の振興に向けてボランティア活動の重要性が指摘される中、地域においても美術館を通しての社会奉仕活動を希望する人々が多く存在するようになってきた。美術館としてもそのような要望に応え、また住民のニーズを把握し、美術・文化活動の地域への振興を図っていくためにボランティア活動を積極的に援助し、活用していく必要がある。

目黒区美術館では、昭和62年11月の開館時よりボランティアを受け入れ、現在はラウンジ（喫茶コーナー）の運営、ワークショップ、アウトリーチ、目黒区総合庁舎建築ガイドツアー、広報活動補助等を中心に、幅広い活動を目指している。

1. ボランティア数 89名（2007年）

2. 活動内容

(1) ラウンジ運営ーラウンジ営業部

活動時間：午後12時30分～4時30分

（ラウンジ営業時間は、展覧会会期中の午後1時から4時まで）

当番：原則として毎日2名

(2) ワークショップ活動ー学芸部トイコレクション班

【15年度】

「聖母子と子どもたち」展ファミリーワークショップ

〈ダイナミックに色で遊ぶ〉

日にち：7月21日（月・祝）

参加者：32名

【16年度】

①「色の博物誌・黄」展ファミリーワークショップ

〈ぬって、きって、はって、黄色のコラージュ絵本〉

日にち：7月19日（月・祝）・25日（日）

参加者：32人

②「色の博物誌・黄」展ファミリーワークショップ

〈[タマネギ・エンジュ] 黄色い羊のパウムクーヘン〉

日にち：8月7日（土）・8日（日）

参加者：31人

【17年度】

①夏のワークショップ

つみきであそぼ!! トイの広場

日にち：6月4日（土）・5日（日）

参加者：240人

②夏のワークショップ

〈もう一つの私の顔～お面でへんしん!〉

(3) トイコレクション活動ー学芸部トイコレクション班

アウトリーチ（出張美術館）活動を実施。（日程等は、Ⅱ教育普及（2）アウトリーチに掲載）

【15年度】

①「美しい積み木であそぶーベア・クラーセンの世界」

②「ひかりにうかぶクリスマスのまえのばん」

③「迷路をぬけて、城とり合戦!」

【16年度】

①パッパずるずる・パズルの日

②トイでつくろう クリスマスのまち 冬のくにと夏のくに

③トイで遊んで、大岡山ハイウェイ!

【17年度】

- ①トイでつくろう 春・夏・秋・冬
- ②へんてこりんないきもの

(4) 目黒区総合庁舎ガイドツアー ー学芸部建築班

【15・16年度】

日にち	参加者
16年2月20日(金)	57人
3月14日(日)	57人
3月26日(金)	54人
4月10日(土)	85人

【17年度】

日にち	参加者
17年4月15日(金)	30人
4月23日(土)	40人
4月29日(金)	67人
6月14日(火)	42人



(5) チラシなどの発送作業ー広報部広報班

【15年度】

「立方体の7つの窓」展ほか、ポスター・チラシ等発送作業6回

【16年度】

「色の博物誌・黄」展ほか、ポスター・チラシ等発送作業5回

【17年度】

「熊田千佳簿」展ほか、ポスター・チラシ等発送作業5回

(6) バスツアー

【15年度】

日にち：10月4日(土)
場 所：ポーラ美術館
参加者：46人

【16年度】

日にち：9月11日(土)
場 所：神奈川県立近代美術館葉山・神奈川県立近代美術館
参加者：41人

【17年度】

日にち：9月10日(土)
場 所：ラリック美術館・成川美術館
参加者：47人

(7) その他

曜日別見学会・総会実施

VIII. 美術館実習

学芸員資格取得単位修得のため、当館において実習を希望したい旨の依頼が多くあることから、検討の結果、平成8年度を初年度としてこれを受け入れている。

実習期間、実習内容等については、担当学芸員との面接により決定する。
(提出書類) 履歴書、アンケート、学長からの依頼書等。

【平成15年度】

23名

【平成16年度】

24名

【平成17年度】

23名 (実習延べ日数：237日)

IX. 施設

●工事概要

建築

所在地：東京都目黒区目黒二丁目4番36号
地域・地区：住居地域・準防火地域・第3種高度地区
敷地面積：2,033.53㎡
建ぺい率：66.45%
容積率：199.61%
構造・規模：鉄骨鉄筋コンクリート造
地上3階・地下1階
建物高さ：17.89m
延床面積：4,059.21㎡

構造

主体構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
その他：外壁花崗岩貼りジェットバーナー仕上げ（乾式工法）
工期：着工昭和60年12月2日
竣工昭和62年3月31日
設計・監理：株式会社日本設計事務所
建築：株式会社竹中工務店東京本店
空調設備：株式会社朝日工業社本店
衛生設備：足立工業株式会社東京支店
電気設備：中国電気工事株式会社東京支店
昇降機設備：横浜エレベータ株式会社

●面積表

展示・教育普及

展示室A：319.10㎡
展示室B：170.46㎡
展示室C：65.80㎡
展示ロビー：44.80㎡
ワークショップ：148.47㎡
廊下・階段・その他：203.17㎡
小計：951.8㎡

区民ギャラリー

区民ギャラリー：379.53㎡
控室：14.5㎡
区民ギャラリーエントランス・階段・その他：198.82㎡
小計：592.85㎡

研究調査

資料室：102.79㎡
修復室：46.09㎡
小計：148.88㎡

収蔵

収蔵庫A：408.36㎡
収蔵庫B：53.85㎡

前室：48.53㎡
荷解室：62.58㎡
搬出入口：56.57㎡
展示用具室：73.40㎡
エレベーター・倉庫・その他：229.63㎡
小計：932.92㎡

管理

事務室：58.05㎡
館長室：32.47㎡
理事長室：24.58㎡
中央管理室：20.64㎡
休養室：24.29㎡
ワークショップ準備室：31.36㎡
映像準備室：14.40㎡
廊下・階段・その他：178.18㎡
小計：383.97㎡

ホール等

エントランス：169.85㎡
ラウンジ：55.84㎡
ベビーコーナー：5.27㎡
廊下・その他：343.58㎡
小計：574.54㎡

機械室等

機械室：277.14㎡
電気室：67.59㎡
エレベーター機械室・自家発電気室・その他：129.52㎡
小計：474.25㎡

合計：4,059.21㎡

X. 沿革

昭和45年	長期計画基本構想で「芸術文化の振興の拠点として総合文化施設の設置」を決定
昭和54年 7月 12月	長期計画実施計画で「美術館の設置」を決定 美術館開設準備室設置
昭和55年 3月 4月	目黒区美術博物館建設検討委員会設置 「東京都目黒区博物館資料取得基金条例」施行
昭和56年 1月 3月 4月 11月	目黒区美術博物館建設検討委員会答申「目黒区が建設する美術博物館の基本構想のあり方について」 目黒区美術博物館建設専門委員設置 目黒区美術博物館(仮称)設置の方針策定 目黒区立美術館(仮称)資料収集委員会要綱を制定
昭和57年 2月 3月 10月	博物館併設構想から美術館単独構想へ変更 第一回資料収集委員会開催ー資料収集を開始 区制施行50周年記念事業に位置づけ
昭和59年 2月 10月	目黒区美術館(仮称)基本構想策定 (58年6月策定開始) 目黒区美術館(仮称)基本設計策定
昭和60年 3月 6月 8月 11月 12月	目黒区美術館(仮称)実施設計策定 目黒区美術館開設準備委員・臨時委員設置 目黒区美術館開設準備顧問就任 目黒区美術館マーク制作 「プレビュー・目黒区美術館」展開催 (11/12-11/17) 目黒区美術館(仮称)新築工事起工式 (12/12)
昭和61年 7月 9月 12月	美術館管理運営の財団委託方針決定 「プレビュー・目黒区美術館2」展開催 (9/9-9/15) 目黒区美術館(仮称)新築工事定礎式 (12/5)
昭和62年 3月 4月 10月 11月	「目黒区美術館条例」公布 目黒区美術館新築工事落成式 (4/14) 財団法人目黒区芸術文化振興財団設立 (10/1) 目黒区美術館開館 (11/15)

XI. 案内

観覧時間：午前10時～午後6時

(ただし入館は午後5時30分まで)

休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始

観覧料：展覧会ごとにその都度定める。



交通案内：

●JR山手線目黒駅(西口)、東急目黒線(都営三田線、東京メトロ南北線)

目黒駅より徒歩10分

●バス、渋谷駅より東急 渋41-大井町駅行、田道小学校入り口

下車3分

目黒駅より東急、都営バス

黒01-大岡山小学校行

黒02-二子玉川園行

黒06-三軒茶屋行

恵73-弦巻営業所行

東98-等々力操車場行

権之助坂下車

下車5分

平成15・16・17年度

目黒区美術館年報

平成19年3月20日発行

編集・発行－目黒区美術館

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36
TEL. 03-3714-1201(代)